

レストパル

L型 床排水

手洗器Mサイズ／まるごと収納タイプ(UWB1A)

手洗器Mサイズ／スリム収納タイプ(UWB1B)

手洗器Sサイズ／まるごと収納タイプ(UWB5A)

手洗器Sサイズ／スリム収納タイプ(UWB5B)

◆“ウォシュレット”はTOTOの登録商標です。

製品の機能が十分発揮できるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。

本書は手洗器が左勝手を基準に説明しております。

下記商品の取り付けは、各商品に同梱の施工説明書を参照してください。

〈ウォシュレット・タオル掛け(壁付タイプ)・手すり・化粧鏡〉

重要なお知らせ〔工事店様へ〕

試運転を必ず実施してください。

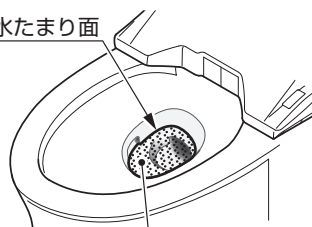
大洗浄をしたあと、水たまり面の状態を確認してください。

正常な状態

設定変更は不要です。

(設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。)

正常な水たまり面



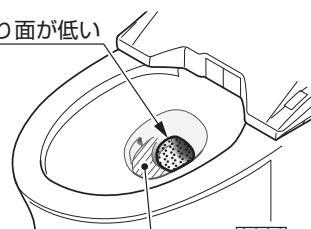
この面まで水がたまっている

水たまり面が低い状態

設定変更を行ってください。

(洗浄水量を変えずに水たまり面を正常な状態にすることができます。)

水たまり面が低い



この面(斜線部分)まで水がたまっていない

水たまり面が低い
場合の対応方法

参照 P.93を参照してください。

〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉

ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

※水たまり面が低いと汚物付着の原因になります。

排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

大洗浄4.8L、小洗浄3.6L、eco小洗浄3.4L仕様を下記水量に変更することができます。

大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L仕様への切替方法

参照 P.95を参照してください。

大洗浄8L、小洗浄6L、eco小洗浄5.5L仕様への切替方法

参照 P.96を参照してください。

工事店様へ

■取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡ししてください。

お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。

■取り付け後、ウォシュレットの機能、使いかたなどについてお客様にご説明をお願いいたします。

■新築などでお客様に引き渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。

設置するタイプにより施工手順が異なります

お施主様のお宅は、どのタイプですか？

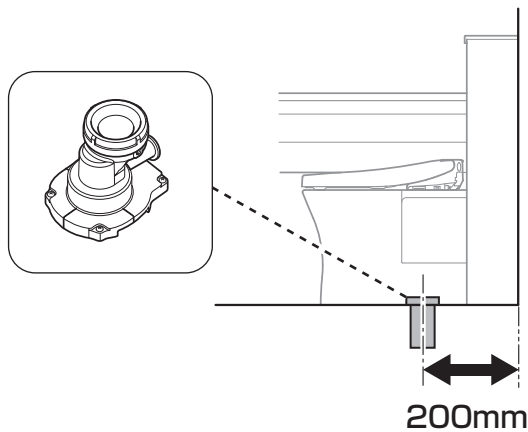
給排水

手洗器タイプ

排水心200mm

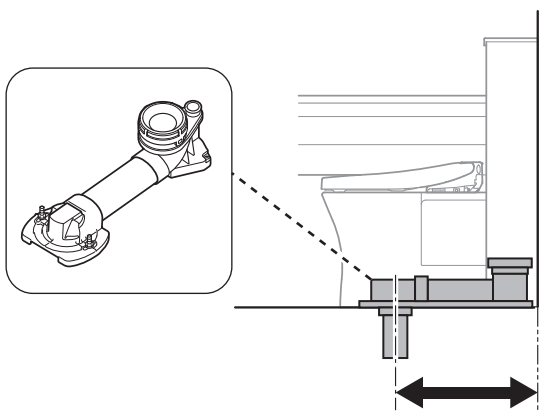
給水新設

既存給水流用
(リモデル用)



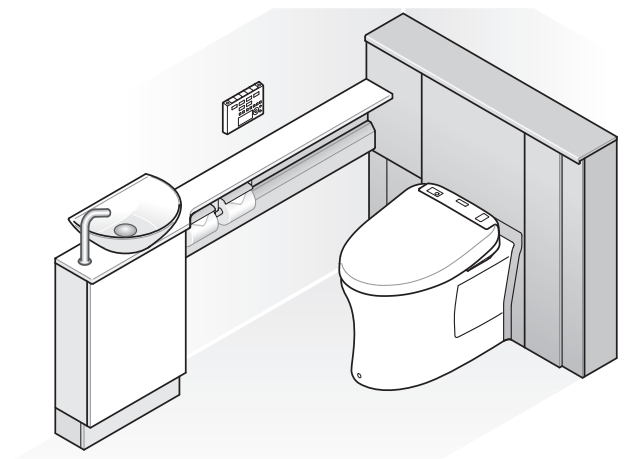
排水心可変

既存給水流用(リモデル用)

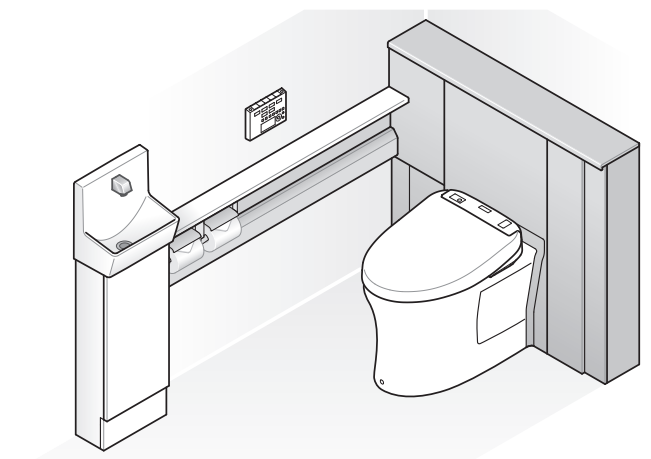


【まるごと収納タイプ】344~579mm
【スリム収納タイプ】258~493mm

Mサイズ



Sサイズ



もくじ

安全上のご注意 ▶ 4

1 取り付け前のご注意 ▶ 6

1	設置寸法について	6
2	キャビネットの可動範囲について	7
3	給排水位置について	8
4	補強材について	10
5	電気配線について	18
6	幅木について	21
7	窓枠などについて	21
8	必要工具	21
9	壁裏補強材なしの場合のオプション品	21

2 部品の確認 ▶ 22

3 部材の取り付け① ▶ 29

0	エンドパネル(オプション品)・サイドキャビネット	29
1	後横棧・壁側板	31
2	止水栓(給水新設の場合/既存給水流用の場合)	33
3	排水部材(排水心200mmの場合/排水心可変の場合)	42
4	大便器	48
5	セットタンク	50
6	コアキャビネット	52
7	ウォシュレット	55
8	固定扉	60
9	棚板・扉	62

手洗器Mサイズの場合 64

10-M	手洗器キャビネット、カウンター	
11-M	配管ブラケット	
12-M	手洗器	

手洗器Sサイズの場合 78

10-S	手洗器キャビネット、カウンター	
11-S	配管ブラケット	
12-S	手洗器	

13	試運転・確認	92
14	流動レバー	99
15	天板	100

4 器具類の取り付け ▶ 103

1	紙巻器	103
2	タオル掛け	104
3	リモコン	104

5 部材の取り付け② ▶ 105

安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取り付け前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。








ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。



●表示と意味はつぎのようになっています。




●お守りいただく内容を絵表示で区分し、説明しています。

 警告	誤った取り扱いをすると、「死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容です。		してはいけない「禁止」の内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害※の発生が想定される」内容です。		必ず実行していただく「強制」の内容です。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

 分解禁止	修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない 火災や感電の原因となります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となります。
 アース接地	アース(D種接地)工事がされていることを確認する アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。 アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。	 水場使用禁止	浴室など水がかかったり湿気の多い場所には 設置しない 火災や感電の原因となります。 商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。
 禁止	水道水および飲用可能な井戸水・地下水以外は使用しない 皮膚の炎症などを起こす原因となります。		電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいまま使用しない 火災や感電の原因となります。
	指定する電源(交流100V)以外では使用しない 火災の原因となります。		ガタついているコンセントは使わない 火災や感電の原因となります。
	電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。		給水および排水管の真下部にコンセントを設置しない 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。
 警告	屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない 取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがやときに死亡の原因となります。		器具取付用のねじ固定部の壁裏には、配管・配線を通さない 火災や感電の原因となります。 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
	雷が発生しているときは、電源プラグに触れない 感電の原因となります。		コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となります。
 必ず守る	ウォシュレットの給水ホースをコンセントに接触させない 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。		壁固定ねじ取付位置には、必ず壁裏を補強する 商品の転倒、落下によりけがやときに死亡の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込む 火災や感電の原因となります。		電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因となります。
	コンセント位置・電源コードの取り回しは、本説明書に記載された位置・方法・注意事項を厳守する 結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。		工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する 商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。
	取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ(現場手配)を使用する 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。 商品を取り付ける柱・間柱は、腐食などで強度不足でないことを確認する 取付物の転倒・落下によりけがやときに死亡の原因となります。		コンセントは水や小水がかからない位置に設置する コンセントに水がかかり、感電・発火の原因となります。

 警告	 必ず守る 機器の設置は専門業者が行う また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者(電気工事士)が行う 火災や感電の原因となります。水漏れして、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。	石こうボードの場合は指定のボードアンカーを使用する 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。
--	--	--

 注意  必ず守る	 禁止 止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない 水が噴き出し、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。	給水ホースが破損するようなことをしない 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり加熱したりしない 給水ホースが破損し、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生の原因となります。
	商品に強い力や衝撃を与えない 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。水漏れして、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。	カウンターの上に乗って作業しない カウンターが破損したり落下したりして、けがの原因となります。
	給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは接続部やフィルターふたを確実に締める 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。	設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。
	工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。	給水・排水接続に関する作業は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。
	カットした面は滑らかに仕上げる 滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります。	給水ホースと分岐金具を正しく接続する 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。
	商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する 商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。	ねじ部の固定については、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する 商品が破損し、けがをする原因となります。
	商品の壁への固定が完了するまで、もたれたりものを載せたりしないよう十分注意する 商品が倒れたり落下してけがの原因となります。	水準器を用いて水平に設置する 収納物が落下してけがの原因となります。
	推奨位置以外に設置する場合は、安全性を十分に確認する 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。 凍結のおそれがある地域では、凍結防止工事を行う 凍結すると器具の一部が破損し、水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。	手洗器等、器具周囲のすきま処理は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する 水が浸入し、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。 便器の水たまり部を見て、封水が切れていないことを確認する 封水が切れている場合に下水ガスや塩素ガス、硫化水素などによって設備・機器が腐食し、物的損害・傷害の生じるおそれがあります。

施工説明書中のマーク表示について



寒冷地仕様の場合を示します。

1 取り付け前のご注意

1. 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、手洗器キャビネットを設置する際は、ドア枠などの干渉により扉が開かなくなる場合がありますので、「設置寸法について」を参考に設置してください。
2. ウォシュレット用電源コードの長さは約1mです。コンセントはこの長さに適した所定の位置に設置しているか確認してください。
3. 給水圧力は、最低必要水圧：0.05MPa(流動時) 最高水圧：0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲で使用してください。
4. 施工前に給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認してください。
5. ひろびろ間口タイプ(961~1370mm)はMサイズ(スリム収納タイプ)のみの対応となります。
6. キャビネットの表面に指定のクッション材・ラベル以外は貼らないでください。
7. ボードアンカーは、引抜強度200N以上のものを使用してください。

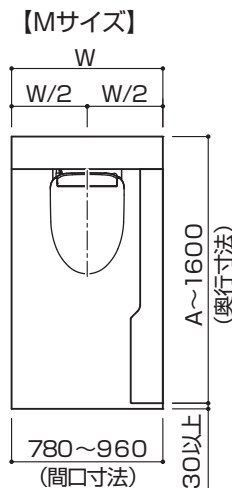
参照 「水漏れ確認」は、本説明書を参照してください。
 「ウォシュレットへの通電」はウォシュレット施工説明書を参照してください。

1 設置寸法について

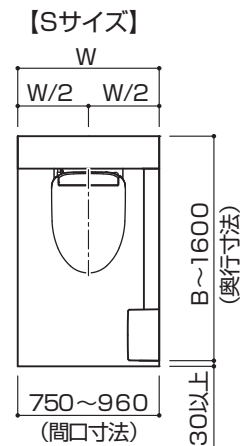
トイレの広さは以下の寸法を確保してください。間口750mm未満には対応できません。

間口750~960mm

- ・カウンターは、使い勝手に応じて手洗器位置を設定し、トイレ奥行寸法にあわせて任意の長さにカットできます。
- ※ まるごと収納タイプとスリム収納タイプでは、便器前出寸法が異なるため、設置できるトイレのカウンターカット寸法が異なります。



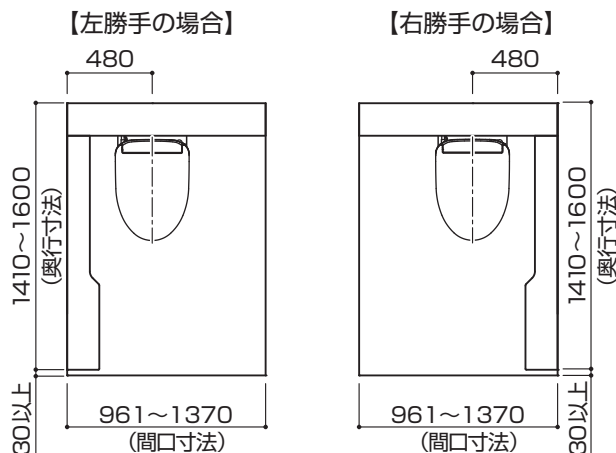
タイプ	A
まるごと収納タイプ	1500
スリム収納タイプ	1410



タイプ	B	
	間口750~840	間口841~960
まるごと収納タイプ	1265	1190
スリム収納タイプ	1190	

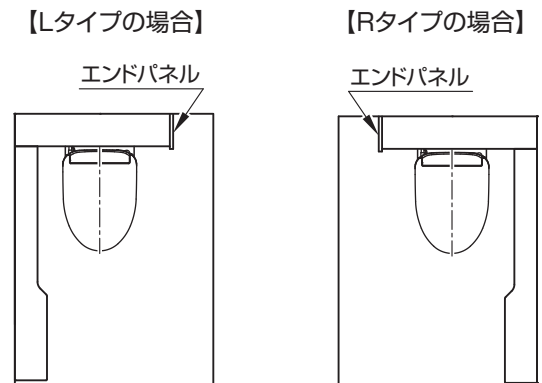
ひろびろ間口タイプ(間口961~1370mm)

- ・カウンターは、使い勝手に応じて手洗器位置を設定し、トイレ奥行寸法にあわせて任意の長さにカットできます。



エンドパネルを使用する場合

- ・エンドパネルを利用して、壁とすき間をあけて設置することもできます。

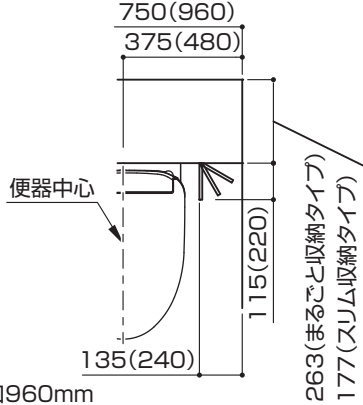


2 キャビネットの可動範囲について

- ・大便器キャビネット、手洗器キャビネットは下図の範囲で可動します。
- ・可動範囲内に障がい物がないことを確認してください。

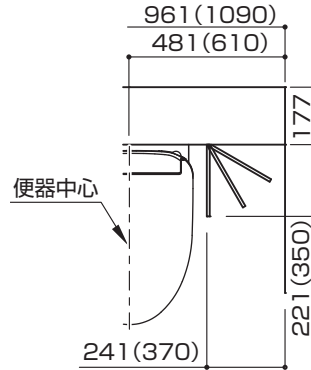
大便器キャビネット

【間口750~960mm】



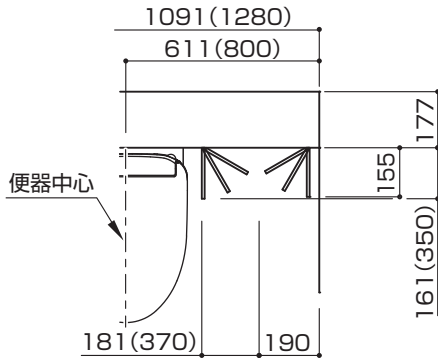
※ ()内は間口960mm

【ひろびろ間口タイプ(961~1090mm)】



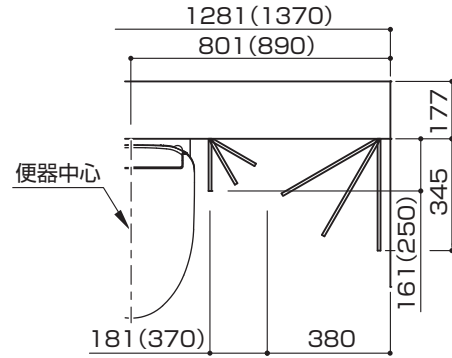
※ ()内は間口1090mm
※上図は左勝手の場合

【ひろびろ間口タイプ(1091~1280mm)】



※ ()内は間口1280mm
※上図は左勝手の場合

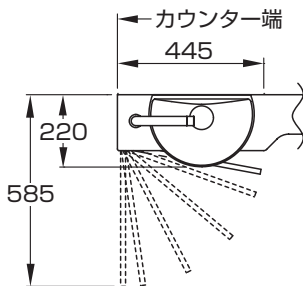
【ひろびろ間口タイプ(1281~1370mm)】



※ ()内は間口1370mm
※上図は左勝手の場合

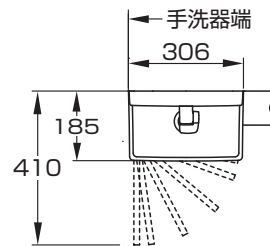
手洗器キャビネット

【Mサイズ手洗器】



※上図は左勝手の場合

【Sサイズ手洗器】



※上図は左勝手の場合

3 給排水位置について

■排水位置

・ 下図の位置に便器の排水心があることを確認してください。

排水心200タイプ

- ・ 排水管(VP・VU75またはVP・VU100)は床から60±5mmで立ち上げてください。
- ・ 排水管の材質および高さが下図と異なる場合、下記の必要部材を別途手配してください。
また、フランジを利用する場合も必要に応じて下記部材を別途手配してください。

<必要部材>

●排水心 200mm

排水管	VP・VU 75/100	排水管高さ	
		0~55mm未満	55mm以上
		60mm立ち上げアダプター (HH01001R)	—
鉛管 φ75/100		排水ソケット (T90SW75/100) にて 立ち上げ直しが必要	

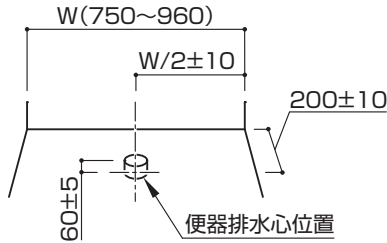
●排水心 200mm(フランジ利用)

排水管	VP・VU 75/100	取り替えアダプター(HH01003) フランジ(HP430-7/HP430-1)※
	鉛管 φ75/100	取り替えアダプター(HH01003) フランジ(T53WR75/T53WR100)※

※ 既設フランジが使用できない場合

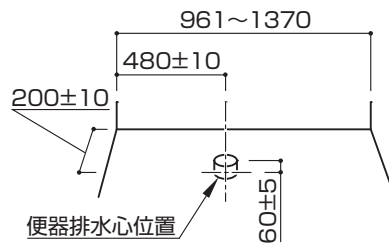
間口750~960mm

【手洗器が左右勝手とも排水位置は共通】

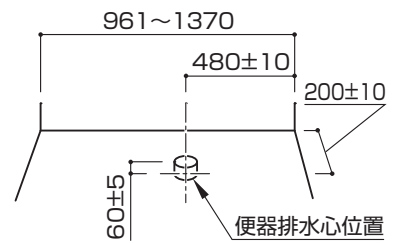


ひろびろ間口タイプ(間口961~1370mm)

【手洗器が左勝手の場合】



【手洗器が右勝手の場合】



排水心可変タイプ

- ・ 既設フランジを利用します。
- ・ 既設フランジが使用できない場合は、下記の必要部材を別途手配ください。

<必要部材>

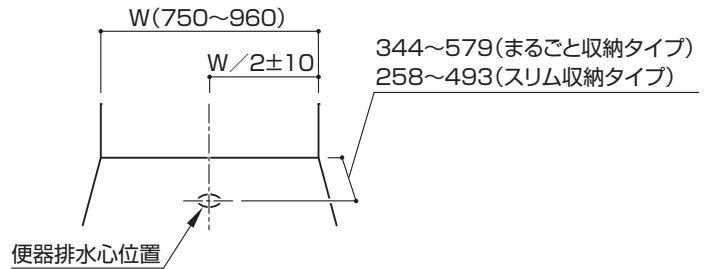
●排水心 258 ~ 579mm リモデル

排水管	VP・VU 75/100	フランジ(HP430-7/HP430-1)※
	鉛管 φ75/100	フランジ(T53WR75/T53WR100)※

※ 既設フランジが使用できない場合

間口750~960mm

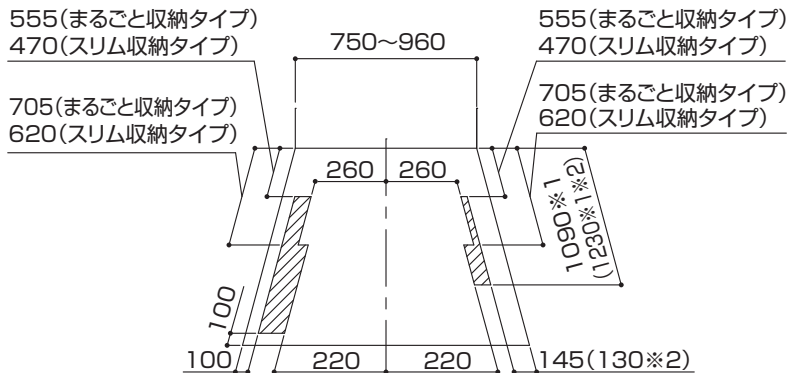
【手洗器が左右勝手とも排水位置は共通】



■寒冷地・水抜方式の場合の水抜栓立ち上げ位置

- ・ 水抜栓立ち上げ可能な範囲は右図のとおりです。
- ・ 水抜栓高さが、450mmを超える場合は、紙巻器に干渉するおそれがありますので、事前に紙巻器の設置位置を確認してください。
- ・ 棚付二連紙巻器や手元収納、足元ダストBOXなどを設置する場合は、棚板や扉などと干渉しないよう事前に確認してください。

※ 図はL型・Mサイズ・まるごと収納タイプ・右勝手の場合です。左勝手の場合は、右図と逆勝手となります。ひろびろ間口タイプの場合は、カウンターがある側の床面が水抜栓立ち上げ可能な範囲となります。



※1 カウンター長さ1600の場合
※2 Sサイズの場合

3 給排水位置について (つづき)

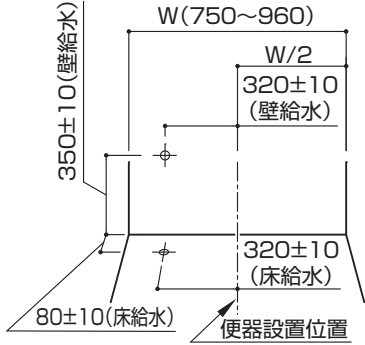
■給水位置

給排水まるごと工事タイプ

- ・ 下図の位置に仕上面と同一面に給水管 (Rc1/2) を取り出してください。
- ・ 寒冷地 (水抜方式) の場合は、床給水のみとなります。

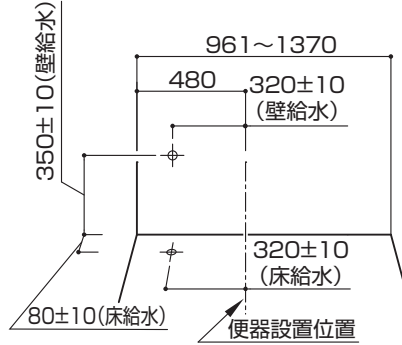
間口750~960mm

【手洗器が左右勝手とも給水位置は共通】

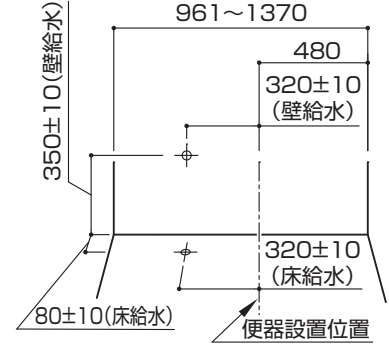


ひろびろ間口タイプ (間口961~1370mm)

【手洗器が左勝手の場合】



【手洗器が右勝手の場合】



給排水そのまま利用タイプ

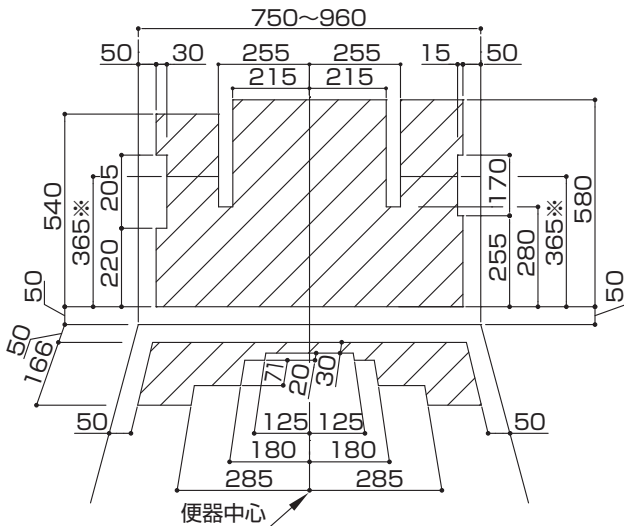
- ・ 下図の領域内が対応範囲となります。対応範囲内に給水管 (Rc1/2) の中心があることを確認してください。仕上げ面と同一面に給水管を取り出してください。
- ・ 手洗器が左右勝手とも対応範囲は共通です。

間口750~960mm

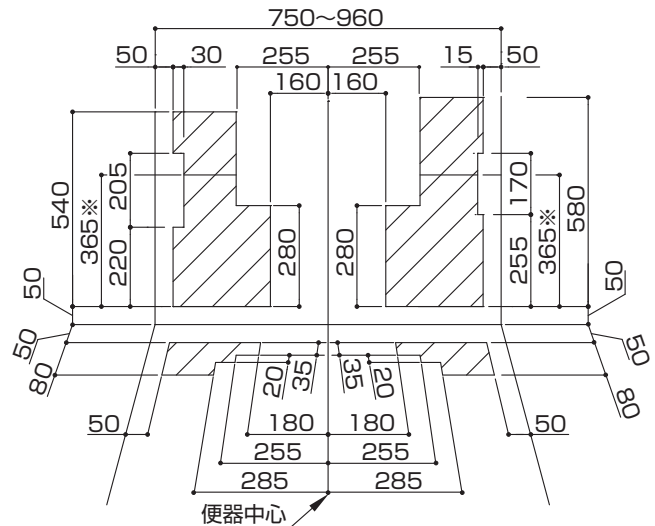
【一般地・流動方式の場合】

- ・ 給水位置が便器中心より右側の場合は、延長ホース (UGTN98L2X50R) を別途手配してください。
- ※印より上に給水位置がある場合は、棚板が取り付けられません。

【まるごと収納タイプ】



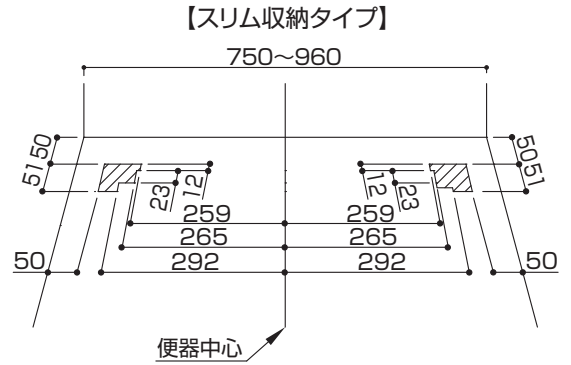
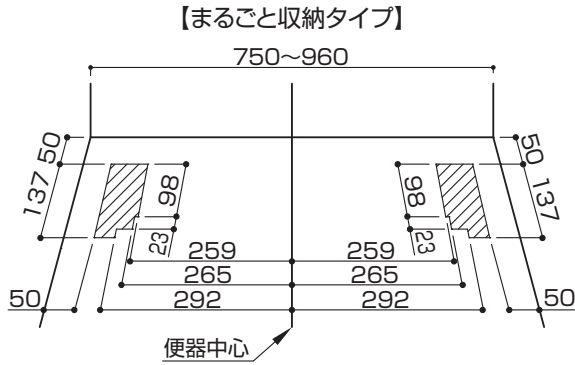
【スリム収納タイプ】



3 給排水位置について (つづき)

[水抜方式の場合]

・給水位置が便器中心より右側の場合は、延長ホース(TN98L2X30)および給水アダプタ(D13084W)を別途手配してください。



4 補強材について

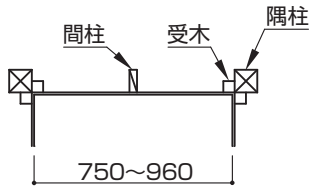
■補強材位置

大便器キャビネット部

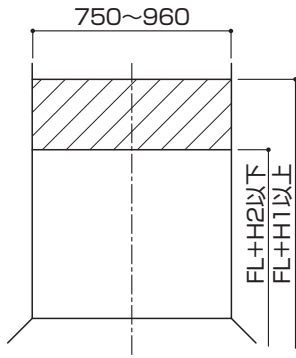
間口750~960mm

【後壁について】

- ・大便器キャビネットを間柱、受木に固定します。部屋に間柱および受木が所定の位置にあることを確認してください。

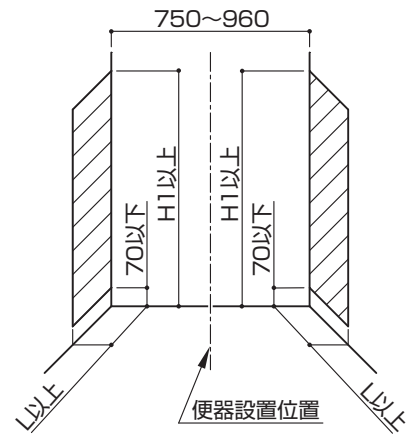


間柱および受木がない場合は、下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。



【横壁について】

- ・下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
- ・壁裏補強なしで施工をする場合は、ボードアンカー(オプション: UGA490B)を使用してください。



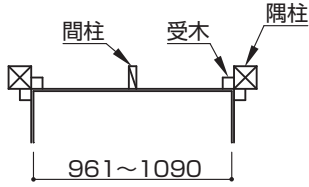
まるごと収納タイプ			スリム収納タイプ		
H1	H2	L	H1	H2	L
1050	685	225	900	790	140

4 補強材について (つづき)

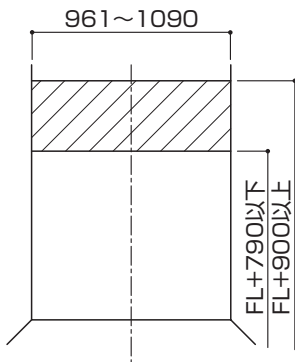
ひろびろ間口タイプ(間口961~1090mm)

【後壁について】

- ・大便器キャビネットを間柱、受木に固定します。部屋に間柱および受木が所定の位置にあることを確認してください。

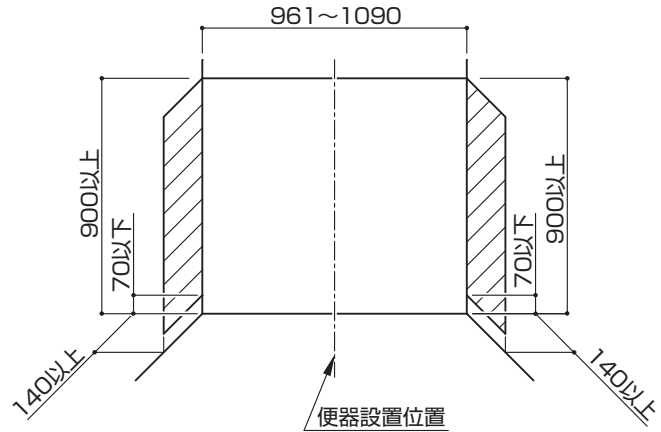


- ・間柱および受木がない場合は、下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。



【横壁について】

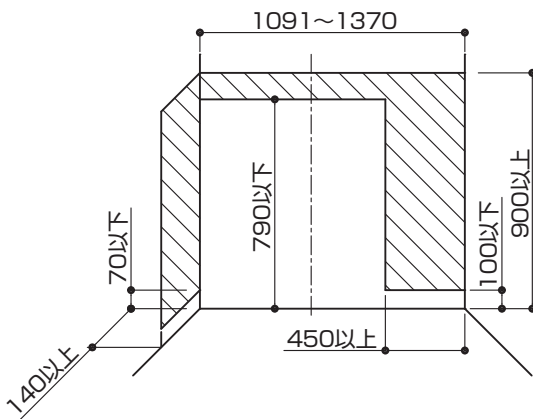
- ・下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
- ・壁裏補強なしで施工をする場合は、ボードアンカー(オプション: UGA490B)を使用してください。



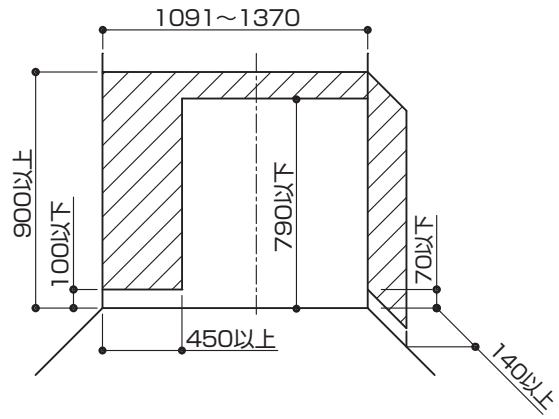
ひろびろ間口タイプ(間口1091~1370mm)

- ・下図の斜線範囲(壁裏)に補強材としてt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れておいてください。

【左勝手の場合】



【右勝手の場合】

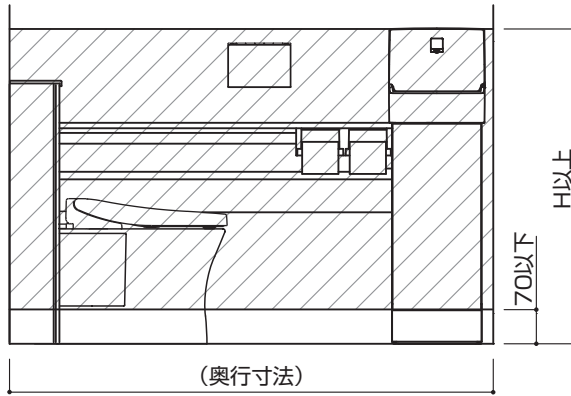


4 補強材について (つづき)

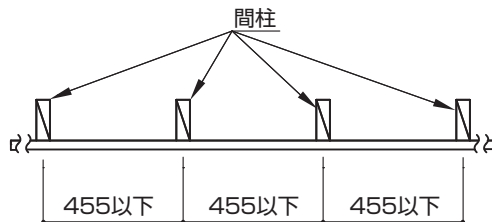
■補強材位置(必ず入れる)

手洗器部

- ・下図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
- ・壁裏補強なしで施工をする場合は、間柱にカウンターを固定します。部屋に間柱が所定の位置にあることを確認してください。間柱以外の壁裏補強のない壁面には、ボードアンカー(オプション:UGA490B)を使用してください。



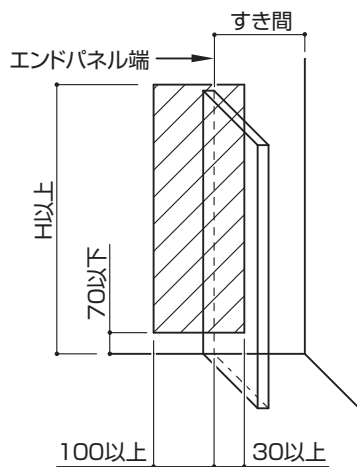
H	
Mサイズ	Sサイズ
700	980



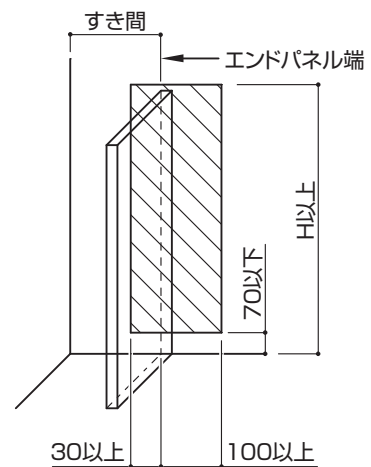
エンドパネル部

- ・取付位置に、あらかじめ下図に示す補強が必要です。斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。

【Lタイプの場合】



【Rタイプの場合】



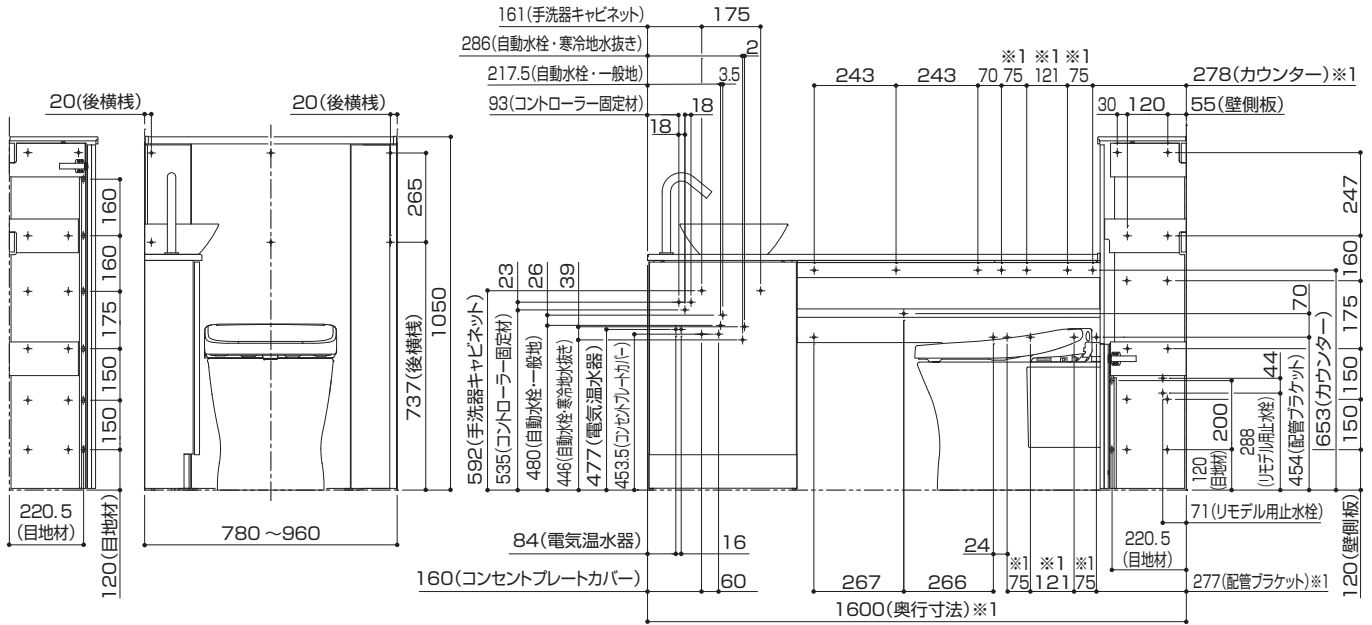
H	
まるごと収納タイプ	スリム収納タイプ
1050	900

4 補強材について (つづき)

■固定ねじ位置(カウンター寸法1600の場合)

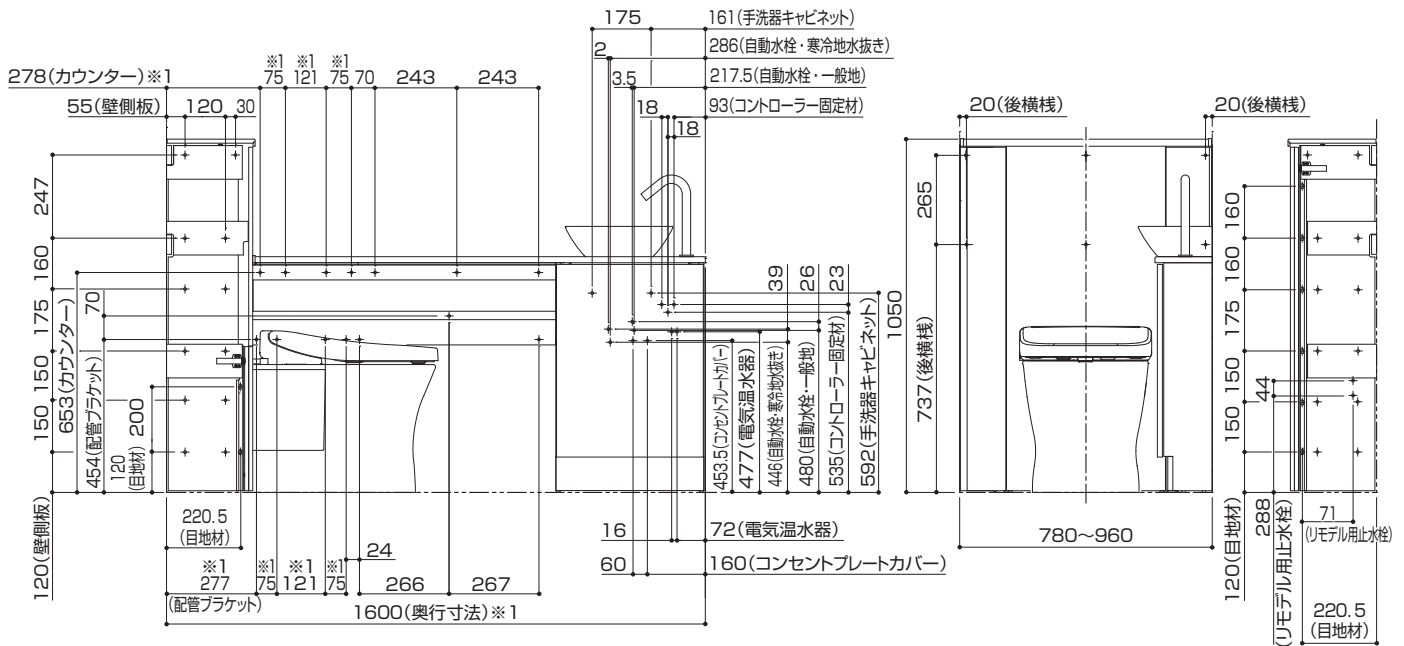
Mサイズ/まるごと収納タイプ

【手洗器が左勝手の場合】



※1 カウンターをカットする場合は寸法が異なります。

【手洗器が右勝手の場合】



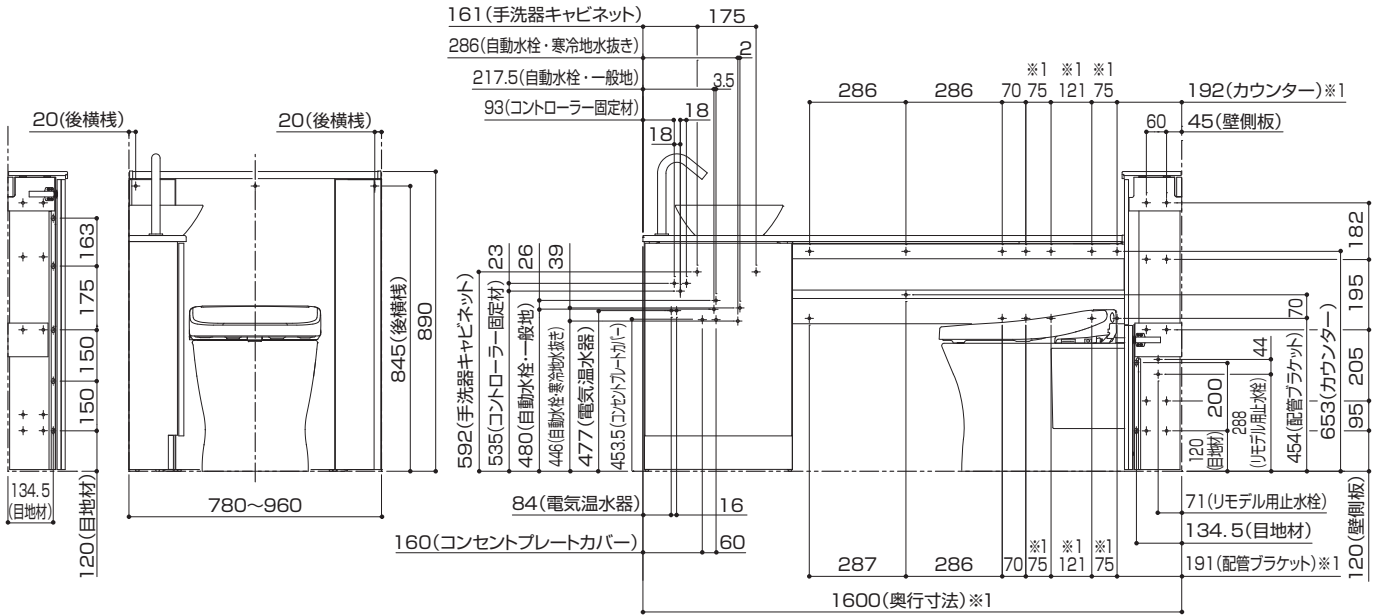
※1 カウンターをカットする場合は寸法が異なります。

4 補強材について (つづき)

■固定ねじ位置 (カウンター寸法1600の場合)

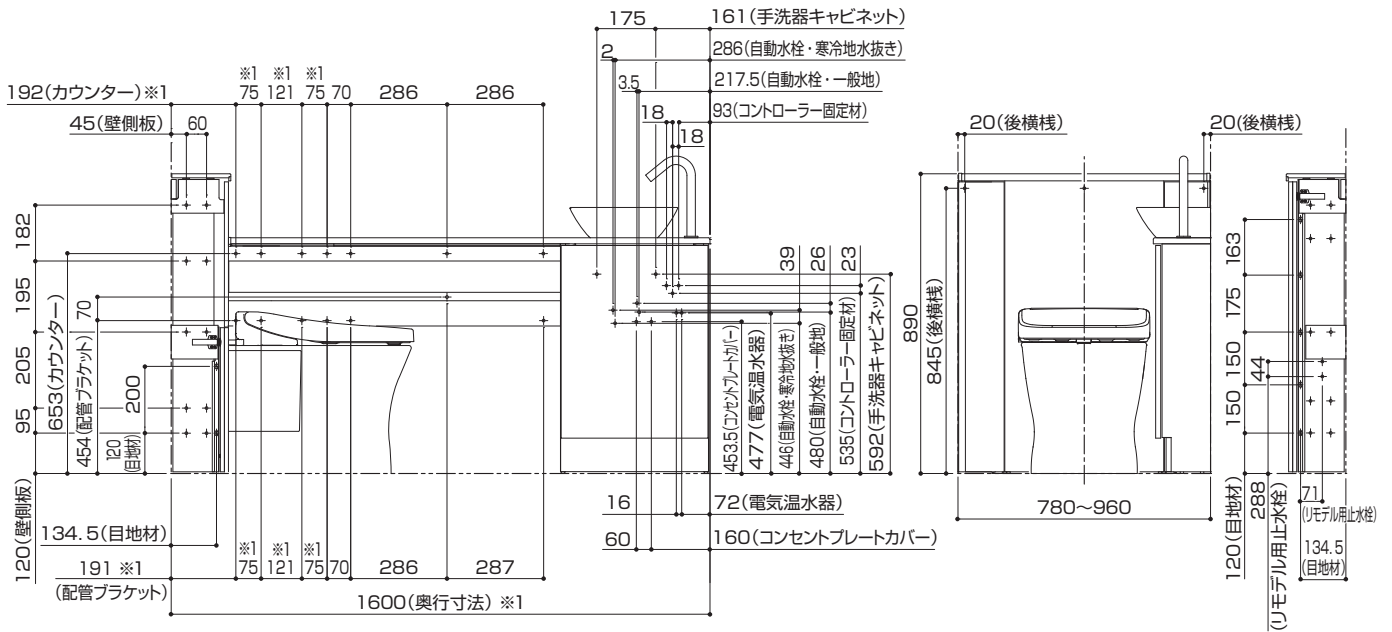
Mサイズ/スリム収納タイプ

【手洗器が左勝手の場合】



※1 カウンターをカットする場合は寸法が異なります。

【手洗器が右勝手の場合】



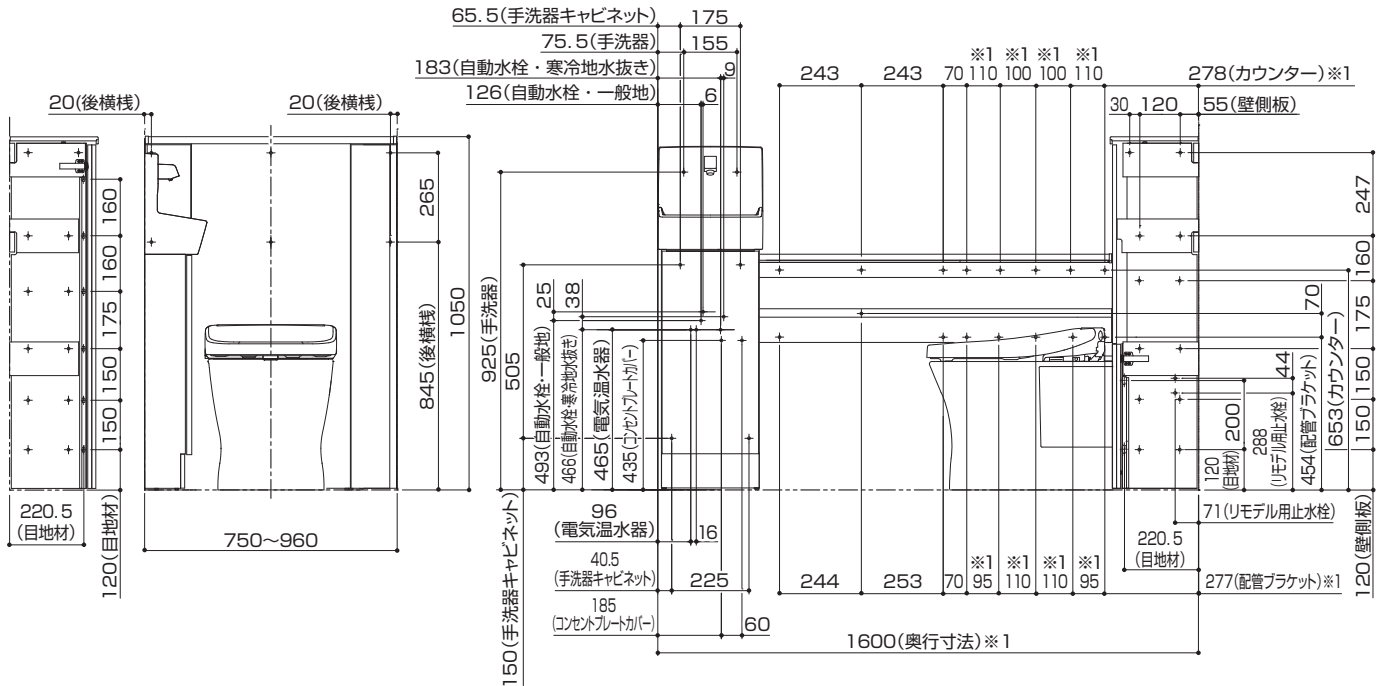
※1 カウンターをカットする場合は寸法が異なります。

4 補強材について (つづき)

■固定ねじ位置 (カウンター寸法1600の場合)

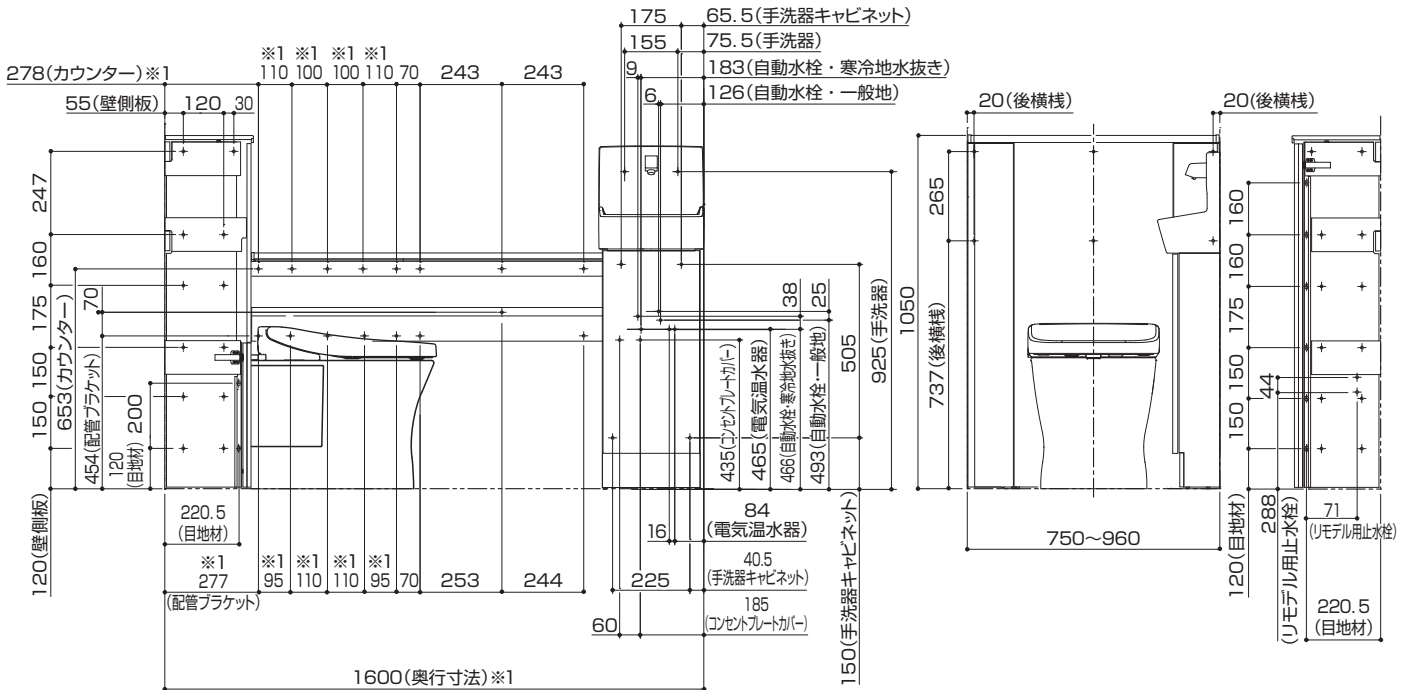
Sサイズ/まるごと収納タイプ

【手洗器が左勝手の場合】



※1 カウンターをカットする場合は寸法が異なります。

【手洗器が右勝手の場合】



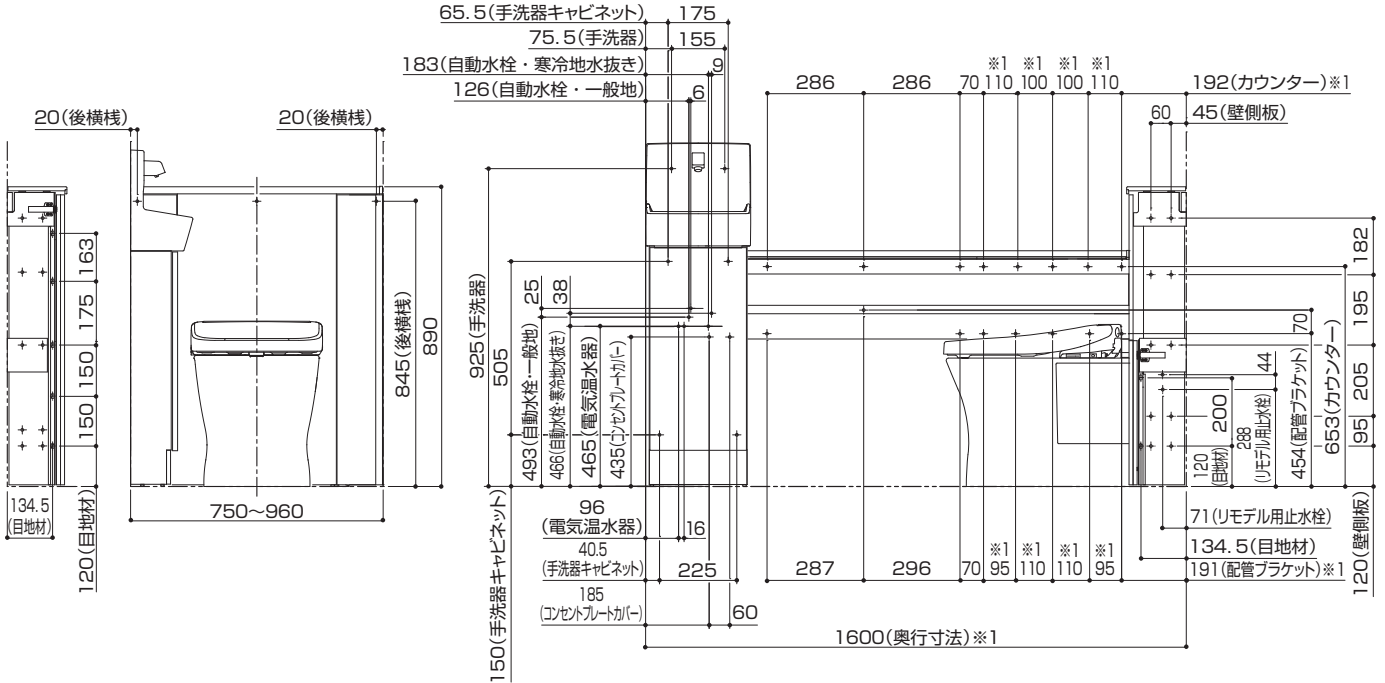
※1 カウンターをカットする場合は寸法が異なります。

4 補強材について (つづき)

■固定ねじ位置 (カウンター寸法1600の場合)

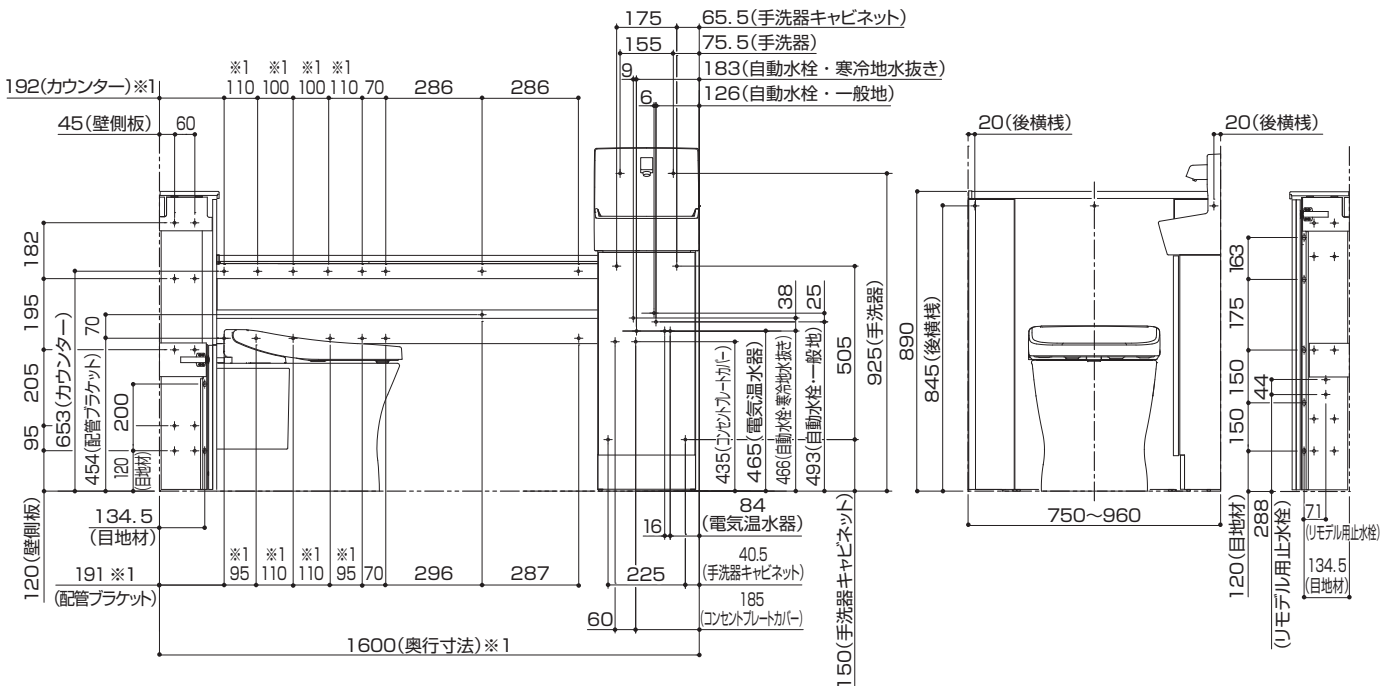
Sサイズ/スリム収納タイプ

【手洗器が左勝手の場合】



※1 カウンターをカットする場合は寸法が異なります。

【手洗器が右勝手の場合】



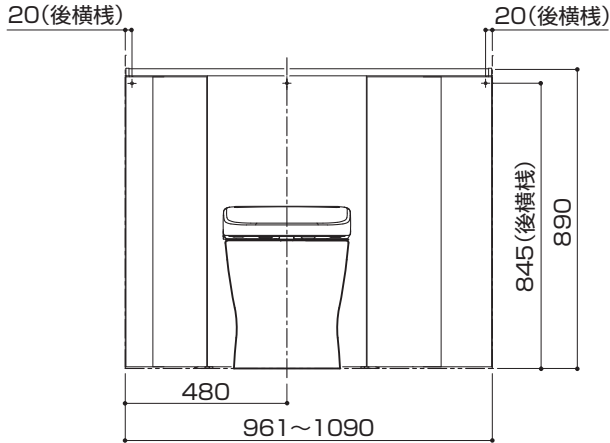
※1 カウンターをカットする場合は寸法が異なります。

4 補強材について (つづき)

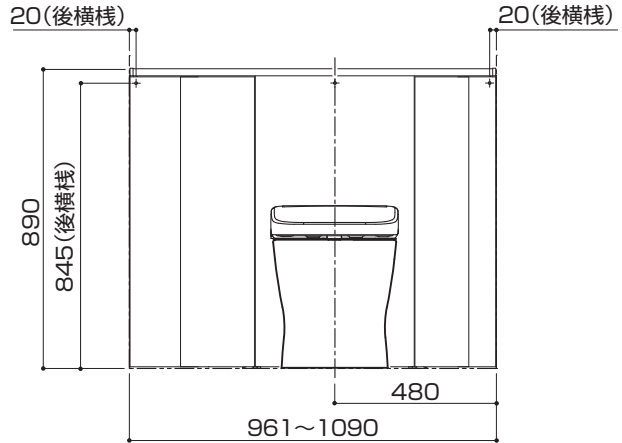
■固定ねじ位置

ひろびろ間口タイプ(間口961~1090mm)の場合

【左勝手の場合】

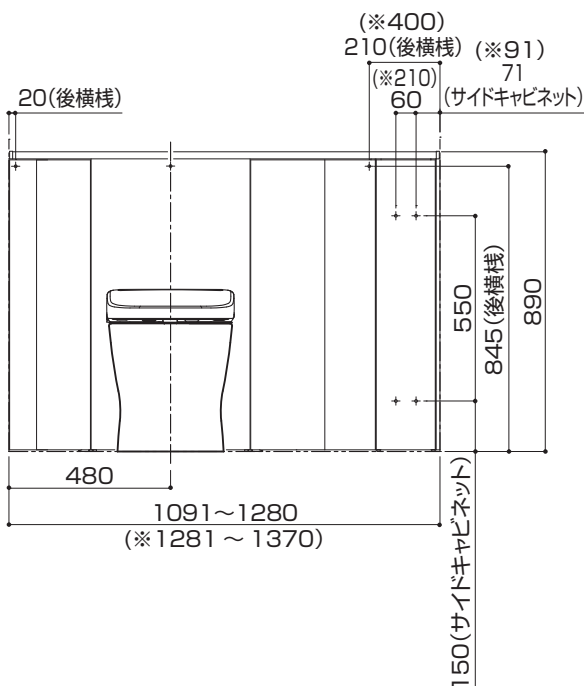


【右勝手の場合】

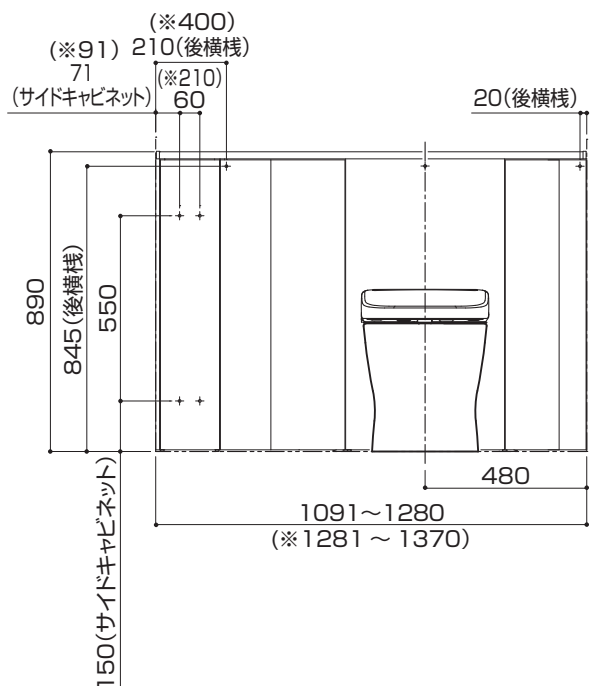


ひろびろ間口タイプ(間口1091~1370mm)サイドキャビネット設置の場合

【左勝手の場合】



【右勝手の場合】



※はサイドキャビネット380サイズの場合

※はサイドキャビネット380サイズの場合

5 電気配線について

警告



器具取付用のねじ固定部の壁裏には配線を通さない
火災や感電の原因となります。

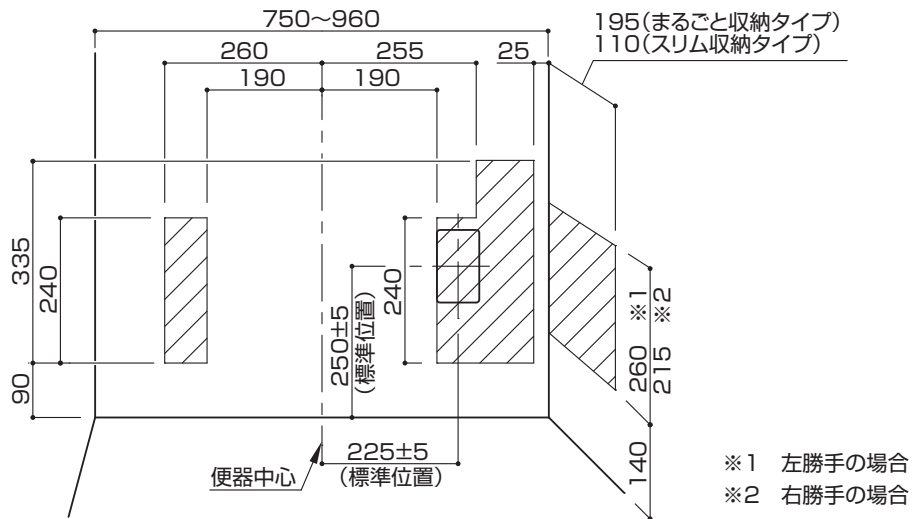
定格消費電力は右表を参照してください。
(AC100V 50/60Hz共通です。)

定格消費電力	ウォシュレット		ヒーター付便器	ヒーター付タンク	電気温水器	自動水栓
		1280W (F1A,F2A,F3A)	1282W (F3AW)	35W	2W	505W

一般地・流動方式のハンドル式水栓・自動水栓・電気温水器付自動水栓または水抜方式のハンドル式水栓・電気温水器付自動水栓の場合

- 既存のコンセントを使用する場合は、下記の斜線範囲内に接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式コンセント（自動水栓または水抜方式の場合は、接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセント）の外形が納まることを確認してください。
- 新規に設置する場合は、下図の「標準位置」に設置してください。
- コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。
- 横壁にコンセントがある場合は、コンセントプレートのサイズに側板を開口してください。

間口750~960mm

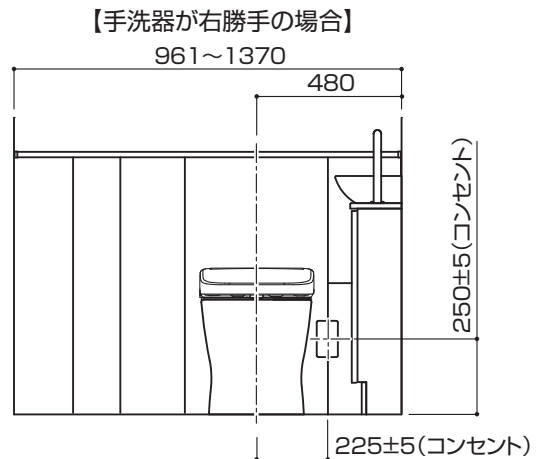
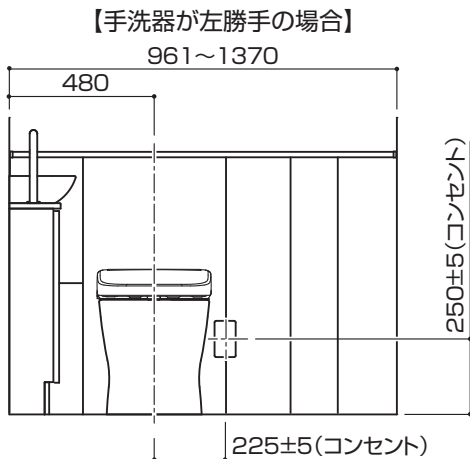


警告



コンセントが給水位置の下に設置されている場合は、「標準位置」に移設する
結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

ひろびろ間口タイプ(間口961~1370mm)

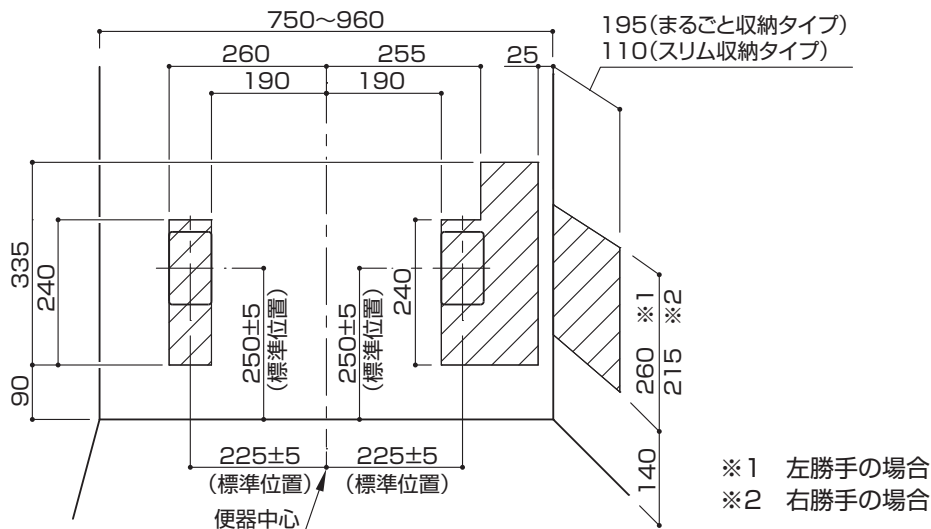


5 電気配線について (つづき)

水抜方式の自動水栓の場合

- 既存のコンセントを使用する場合は、下記の斜線範囲内に接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセント、および壁埋込式コンセントの外形が納まることを確認してください。
- 新規に設置する場合は、下図の「標準位置」に設置してください。
- コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。
- 横壁にコンセントがある場合は、コンセントプレートのサイズに側板を開口してください。

間口750~960mm



警告

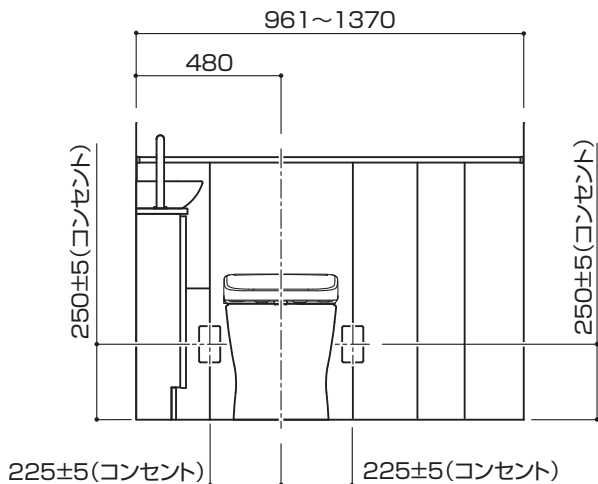


コンセントが給水位置の下に設置されている場合は、「標準位置」に移設する

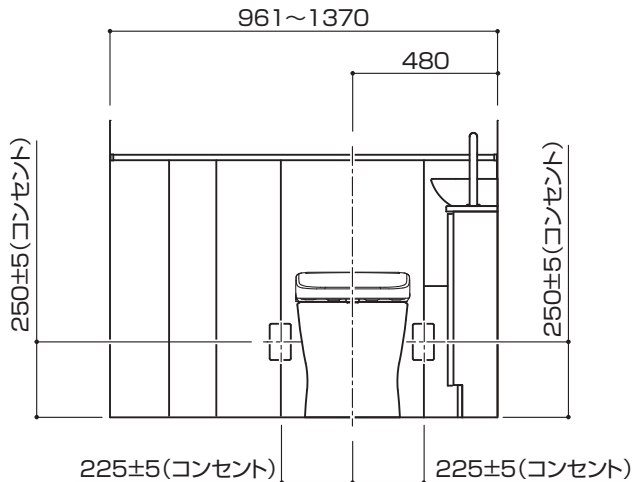
結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

ひろびろ間口タイプ(間口961~1370mm)

【手洗器が左勝手の場合】



【手洗器が右勝手の場合】



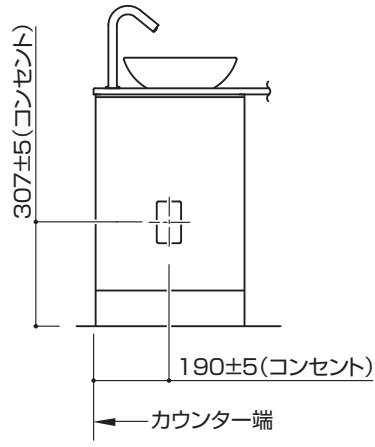
5 電気配線について (つづき)

電気温水器付自動水栓の場合

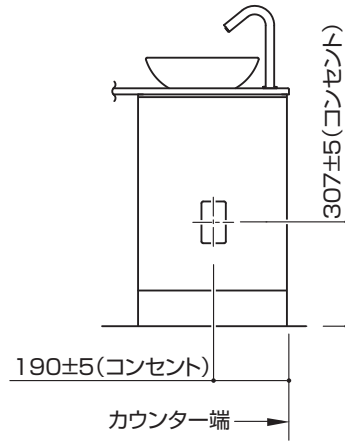
- ・あらかじめ手洗器キャビネット内に別途接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセントを、大便器キャビネット内のコンセントとは独立系統で取り付けておいてください。
- ・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。

Mサイズ

【手洗器が左勝手の場合】

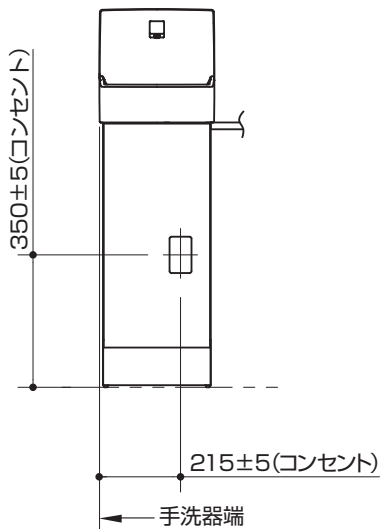


【手洗器が右勝手の場合】

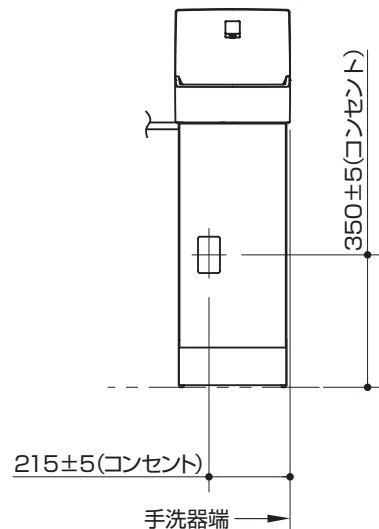


Sサイズ

【手洗器が左勝手の場合】



【手洗器が右勝手の場合】



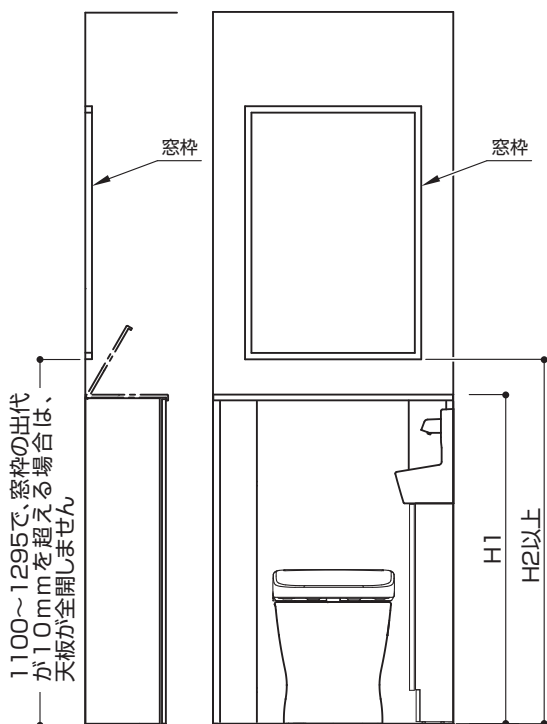
6 幅木について

- ・幅木の大きさは、高さ100mm以下、厚さ10mm以下としてください。
- ・本商品は、幅木カット不要で設置できます。

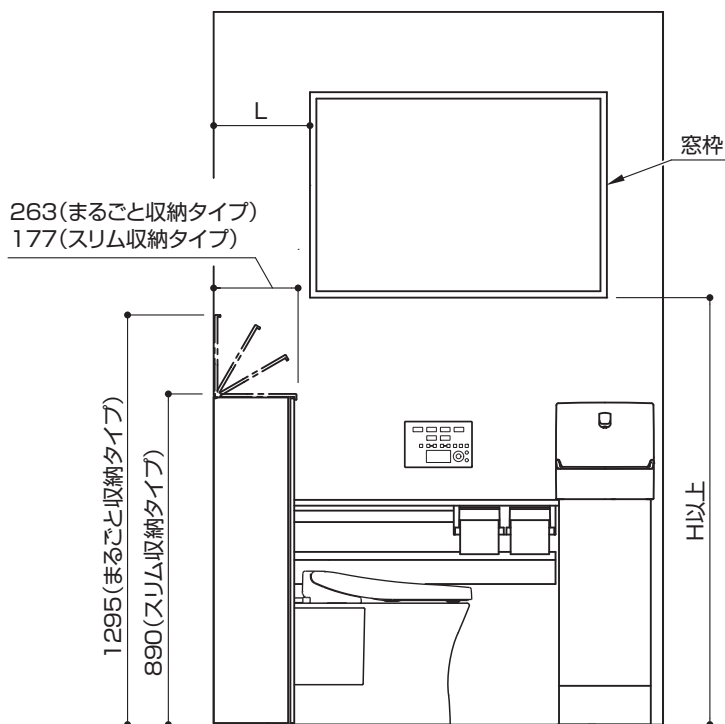
7 窓枠などについて

- ・周辺部材（鏡・手すりなど）を取り付ける場合は、周辺部材の説明書を参照してください。
- ・壁に窓枠や腰壁の笠木などの突起物などがある場合、下図のような制約が付きま。事前に製品と干渉しないよう窓枠の位置を設定してください。

大便器後ろ壁に窓がある場合



大便器横壁に窓がある場合



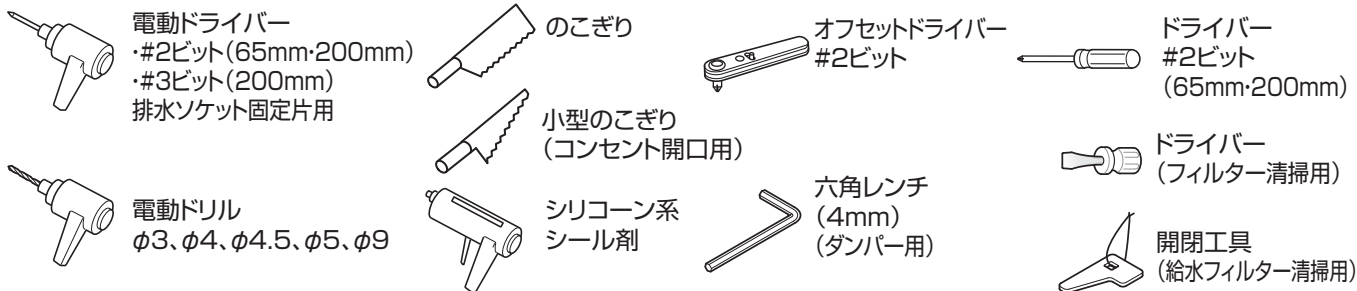
タイプ	まるごと収納タイプ		スリム収納タイプ	
	H1	H2	H1	H2
Mサイズ	1050	1100	890	910
Sサイズ	1050	1100	890	910

タイプ	まるごと収納タイプ		スリム収納タイプ	
	L=300以上	L=300未満	L=210以上	L=210未満
	H			
Mサイズ	840	1330	840	910
Sサイズ	1040	1330	1040	1040

図はまるごと収納タイプの天板の開き方を示しています。

8 必要工具

※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。



9 壁裏補強材なしの場合のオプション品



※タイプ・現場状況により必要数量が異なります。

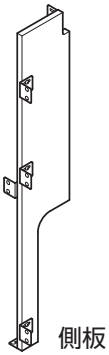
2 部品の確認

- 専用の施工説明書が同梱されている商品は、外装箱のみ表記しています。
- 包装箱の内容はスリム収納タイプ(左勝手)を基本として記載しています。

2部品の確認



側板・後横棧部

コアキャビネット側板セット(左)



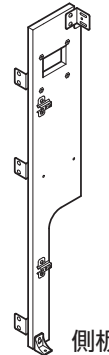
※流動方式の場合は側板に穴があいています。

【左勝手の場合】





 アングル材 トラストッピンねじ
 $\phi 4 \times 12$ (2本)

※まるごと収納タイプには入っていません

コアキャビネット側板セット(右)

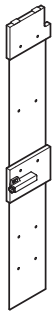



【右勝手の場合】



 アングル材 トラストッピンねじ
 $\phi 4 \times 12$ (2本)

※まるごと収納タイプには入っていません

壁側板セット(左)

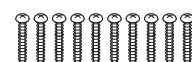



 トラストッピンねじ
 $\phi 4 \times 50$ (10本)
 ※まるごと収納タイプ
 の場合 $\phi 4 \times 50$ (12本)

壁側板

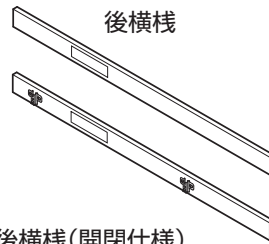
壁側板セット(右)





 トラストッピンねじ
 $\phi 4 \times 50$ (10本)
 ※まるごと収納タイプ
 の場合 $\phi 4 \times 50$ (12本)

壁側板

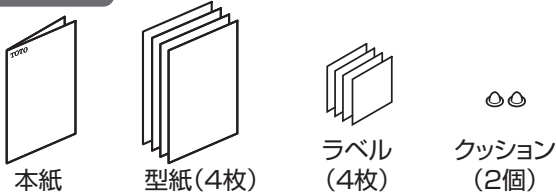
後横棧セット



後横棧(開閉仕様)
 ※まるごと収納タイプの場合
 後横棧と後横棧(開閉仕様)
 の2本を使用


 皿タッピンねじ
 $\phi 4 \times 50$ (3本)
 ※まるごと収納タイプ
 の場合(6本)

施工説明書



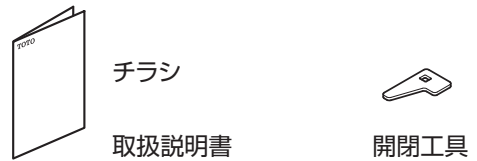
本紙

型紙(4枚)

ラベル
(4枚)

クッション
(2個)

取扱説明書



チラシ

取扱説明書

開閉工具

大便器キャビネット部材

コアキャビネット施工部材セット



はかま目地材L



はかま目地材R


 トラストッピンねじ
 $\phi 4 \times 10$ (14本)


 トラストッピンねじ
 $\phi 4 \times 30$ (2本)

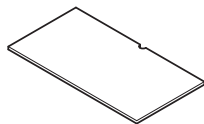

 配管用化粧カバー


 洗浄レバーカバー


 トラス小ねじ
 M4×10 (4本)

大便器キャビネット部材 (つづき)

タンク上収納底板セット (まるごと収納タイプの場合)

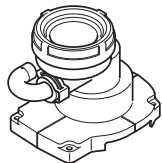


タンク上収納底板
※タンクが流動方式の場合
裏面に切り欠きがあります。

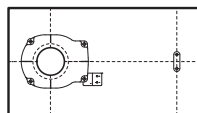


排水ソケットセット

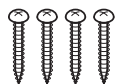
【まるごと収納タイプ・排水心200の場合】



排水ソケット

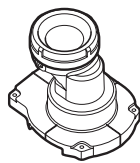


位置決めシート

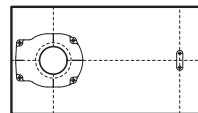


トラスタッピンねじ
φ6×60(4本)

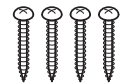
【スリム収納タイプ・排水心200の場合】



排水ソケット

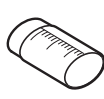


位置決めシート

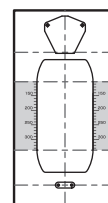


トラスタッピンねじ
φ6×60(4本)

【排水心可変の場合】



トラスタッピンねじ
φ6×60(2本)

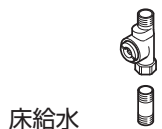


位置決めシート

止水栓

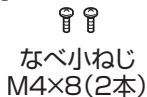
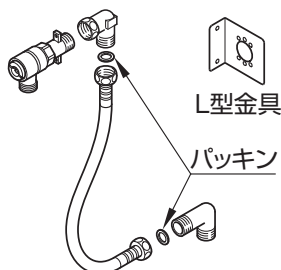
※同梱の止水栓を必ず使用してください。

【給水新設用】

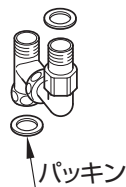


【既存給水流用】

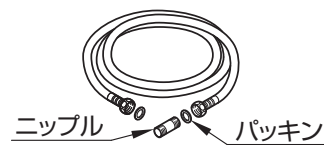
※水抜方式の場合は【床給水】を使用します。



分岐金具



給水ホース



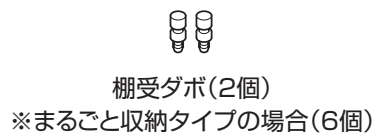
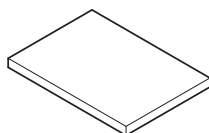
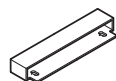
※手洗器Mサイズ
ハンドル式水栓の場合は
ニップルは入っていません。

ホースクランプセット

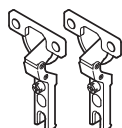
【水抜方式の場合】



棚板セット



天板開閉部材セット (まるごと収納タイプの場合)

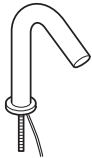


手洗器キャビネット部材

手洗器Mサイズのみに入っているもの

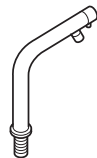
自動水栓

※自動式水栓をお選びの場合

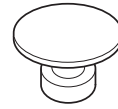


ハンドル式水栓

※ハンドル式水栓をお選びの場合



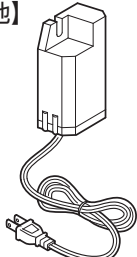
排水目皿



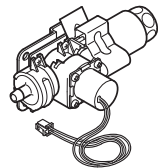
自動水栓/電気温水器付自動水栓の場合

自動水栓機能部

【一般地】



コントローラー



自動水栓機能部

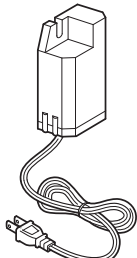


ホースクランプ

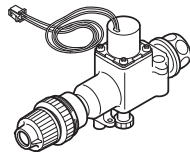


座金付タッピンねじ
φ4.5×38(2本)

【寒冷地】



コントローラー



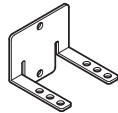
自動水栓機能部



座金付なべ小ねじ
M4×10(3本)

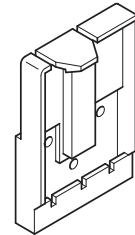


座金付タッピンねじ
φ4.5×38(2本)



取付金具

コントローラー固定材



コントローラー
固定材

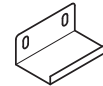


手洗器Mサイズの場合
トラスタッピンねじ
φ4×30(3本)

※手洗器Sサイズの場合
トラスタッピンねじ
φ4×14(3本)

コンセントプレートカバー

※電気温水器設置の場合のみ



コンセントプレート
カバー

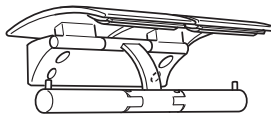


トラスタッピンねじ
φ4×30(2本)

商品選択されている場合に入っているもの

紙巻器

【メタル製】

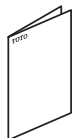


紙巻器本体

<下記部品は使用しません>

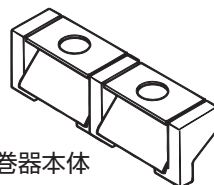


木ねじ(4本)



施工・取扱説明書

【樹脂製】

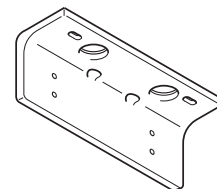


紙巻器本体



固定材(2個)

紙巻器固定材(メタル製紙巻器の場合)



座金組込なべ小ねじ
M4×10(4本)

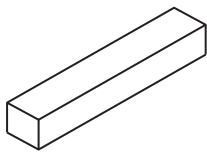


固定材(2個)

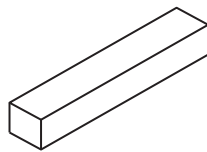
手洗器キャビネット部材 (つづき)

手すり

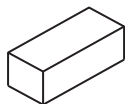
【天然木タイプ】



【コンテナポリラータイプ・メタルタイプ】

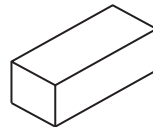


【ハンドグリップ】

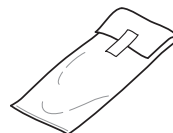


タオル掛け

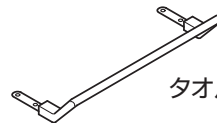
【壁取付タイプ】



手洗器Sサイズの場合



【手洗器下取付タイプ】
手洗器Mサイズの場合



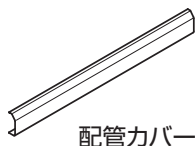
タオル掛け本体

皿タッピンねじ
φ3×16(2本)

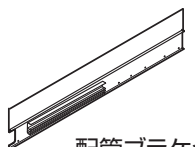
トラスタッピンねじ
φ4×16(2本)

手洗器カウンター部材

配管部材セット



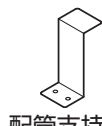
配管カバー



配管ブラケット

トラスタッピンねじ
φ4×40(5本)

【まるごと収納タイプ排水心200の場合】



配管支持材

トラスタッピンねじ
φ4×30(2本)



手洗器排水ホース
※スリム収納タイプの場合
※まるごと収納タイプ
排水心可変の場合



クイックファスナー(1個)



配管固定材(2個)

皿タッピンねじ
φ4×16(1本)



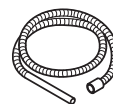
皿タッピンねじ
φ4×40(1本)



ホースクランプ
(3個)



トラスタッピンねじ
4×40(3本)



手洗器排水ホース
※まるごと収納タイプ
排水心200の場合

Sサイズの場合のみ



トラップ排水管



クイック
ファスナー



排水金具



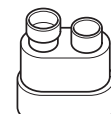
三角
パッキン



スリップ
ワッシャー



接続管



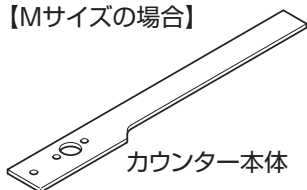
排水トラップ



クイックファスナー

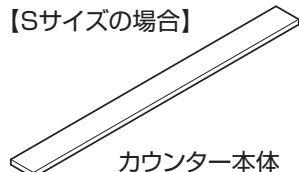
カウンターセット

【Mサイズの場合】

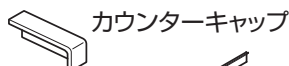


カウンター本体

【Sサイズの場合】



カウンター本体



カウンターキャップ



ブラケットカバー

トラスタッピンねじ
φ4×40(7本)

手洗器固定金具セット(Mサイズの場合)



クッション材



手洗器固定金具
(2個)



取付ボルト
(2本)



ワッシャー
(2個)



取付ナット
(2個)

その他包装

扉セット(手洗器設置側)

【まるごと収納タイプの場合】

すり割り付ねじ M4×16(2本)
平板金
蝶ナット M4(2個)
トラスタッピンねじ φ4×10(4本)

【スリム収納タイプの場合】

すり割り付ねじ M4×16(4本)
蝶ナット M4(4個)

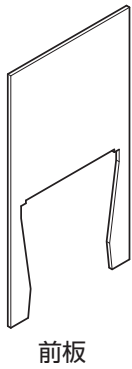
木口キャップ
トラスタッピンねじ φ4×10(2本)
側板目地材 (L=430)
カウンター下扉
トラスタッピンねじ φ4×18(3本)またはφ4×20(3本)
※1本は「5.部材の取り付け②」で使用します。
※扉表面色により、いずれかのねじが入っています。

固定扉木口キャップ下
トラスタッピンねじ φ4×10(2本)
トラスタッピンねじ φ4×30(2本)

扉セット(手洗器設置側と反対側)

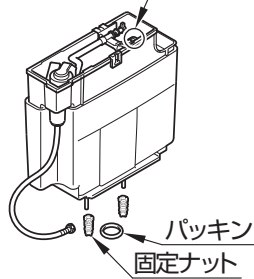
扉
側板目地材 (1本)
トラスタッピンねじ φ4×30(5本)
※まるごと収納の場合φ4×30(6本)
トラスタッピンねじ φ4×18(3本)またはφ4×20(3本)
※1本は「5.部材の取り付け②」で使用します。
※扉表面色により、いずれかのねじが入っています。

前板セット

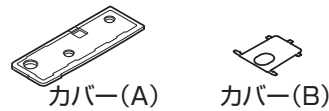


セットタンク

※ピンはジョイント端ピンに付いています。

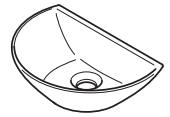


【流動方式の場合】

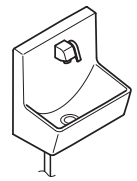


手洗器セット

【Mサイズの場合】



【Sサイズの場合】



大便器

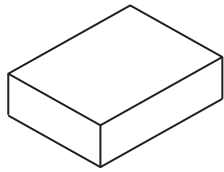
便器本体

サイドカバー(右) サイドカバー(左) 固定片

ワッシャー(固定片用) (2枚)
皿木ねじ φ5.8×56
化粧キャップ(前) 化粧キャップ(後) (2個)
木ねじ φ6.2×63(2本)
なべタッピンねじ(固定片用) φ6×50(2本)
ワッシャー(後部固定用) (2枚)

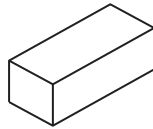
その他包装 (つづき)

ウォシュレット



※分岐金具はウォシュレットの箱の中に入っています

便器洗浄ユニット



<下記部品は使用しません>



ワッシャーA



ワッシャーB

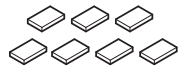
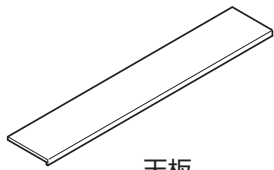


コードフック(7個)

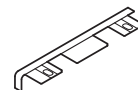


サンドペーパー

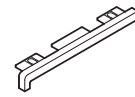
天板セット



面ファスナー(7個)
ひろびろ間口タイプの場合(9個)
※まるごと収納タイプには入っていません



天板キャップL

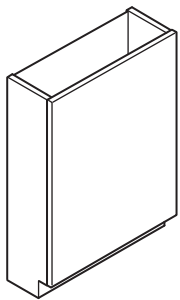


天板キャップR



トラスタッピンねじ
φ4×8(4本)

手洗器キャビネット(手洗器Mサイズの場合)



手洗器キャビネット



固定ねじ
φ4.5×50(2本)



スペーサー(8枚)



排水金具



接続管



トラップ
排水管セット



三角パッキン



クイックファスナー



トラスタッピンねじ
φ4×12(2本)



コンセント
カバー



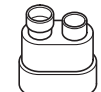
化粧キャップ
(2個)



スリップ
ワッシャー

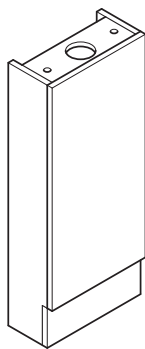


クイック
ファスナー



排水トラップ

手洗器キャビネット(手洗器Sサイズの場合)



手洗器キャビネット



キャビネットカバー

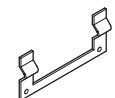
施工部材セット(手洗器Sサイズの場合)



トラスタッピンねじ
φ4×30(3本)



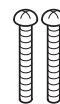
トラスタッピンねじ
φ4×40(4本)



手洗器固定金具



固定プッシュ
(2個)



トラス小ねじ
M5×54(2本)



スペーサー(8枚)



ワッシャー
(2個)



ホースクランプ

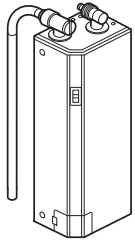


クッション材

その他包装 (つづき)

商品選択されている場合に入っているもの

電気温水器

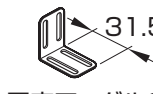


電気温水器本体



L=300
排水ホース

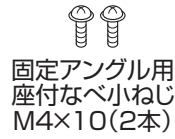
※手洗器Mサイズの場合



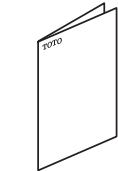
固定アングル2



化粧ラベル



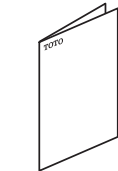
固定アングル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)



取扱説明書

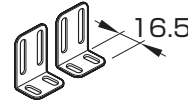


壁固定用木ねじ
φ4×30(2本)



施工説明書

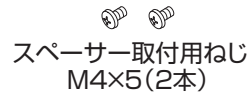
※手洗器Sサイズの場合



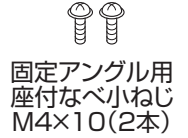
固定アングル1(2個)
※1個は使いません



スペーサー



スペーサー取付用ねじ
M4×5(2本)



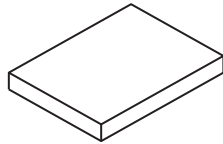
固定アングル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)



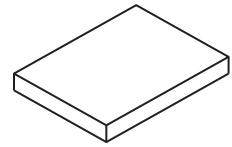
壁固定用木ねじ
φ4×30(2本)

化粧鏡

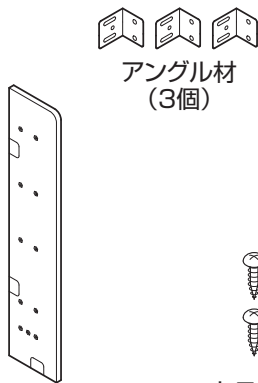
【木製フレームタイプ】



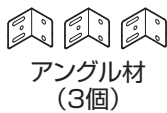
【アルミフレームタイプ】



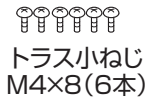
エンドパネル



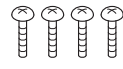
エンドパネル本体



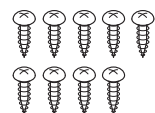
アングル材
(3個)



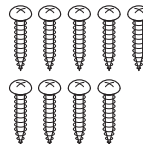
トラス小ねじ
M4×8(6本)



トラス小ねじ
M4×20(4本)
※まるごと収納タイプ
の場合(6本)

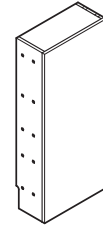


トラスタッピンねじ
φ4×12(9本)



トラスタッピンねじ
φ4×30(9本)

サイドキャビネット



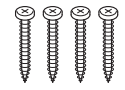
サイドキャビネット本体



トラスタッピンねじ
φ4×12
(3本)



トラス小ねじ
M4×8
(6本)



固定ねじφ4.5×50
(4本)



スペーサー
(8枚)



トラス小ねじ
M4×20
(4本)



化粧キャップ
(4個)

3 部材の取り付け①

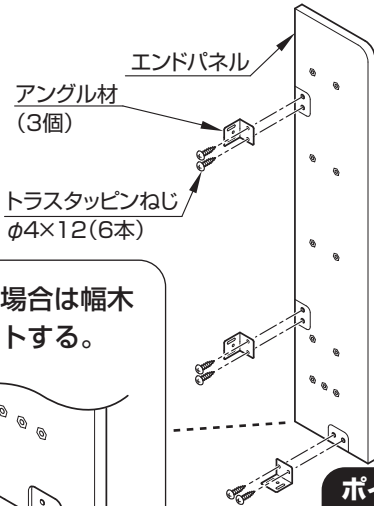
※製品への部材の取り付けは手締めにて行ってください。

0 エンドパネル(オプション品)・サイドキャビネット 「エンドパネル・サイドキャビネット」の部材を使用

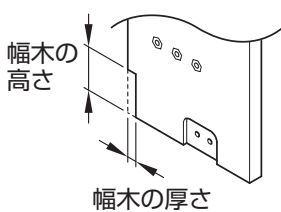
※エンドパネル・サイドキャビネットを使用しない場合は、P.31 **1 後横桎・壁側板** から作業をはじめてください。
※まるごと収納タイプにはサイドキャビネットは付きません。

■エンドパネルを使用する場合

① エンドパネルにアングル材を取り付ける。



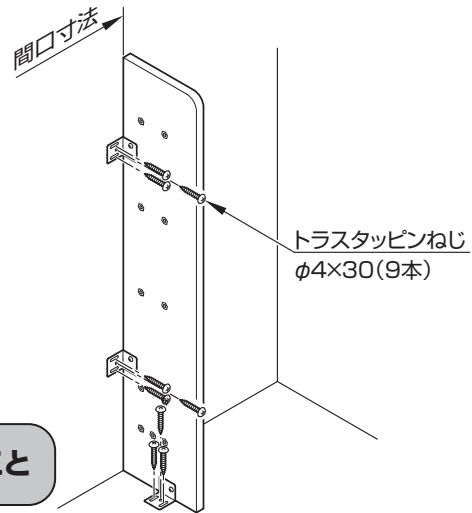
② 幅木がある場合は幅木分だけカットする。



ポイント

ねじは手締めで行うこと

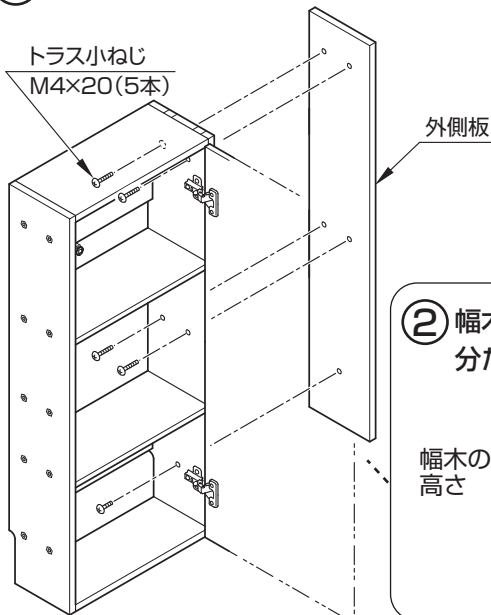
③ 取付位置を確認し、取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあける。エンドパネルを後壁と床に取り付ける。



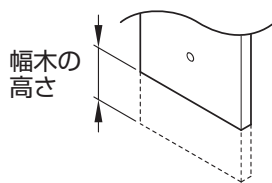
■サイドキャビネットを使用する場合

【幅木がある場合】

① サイドキャビネットから外側板を取り外す。

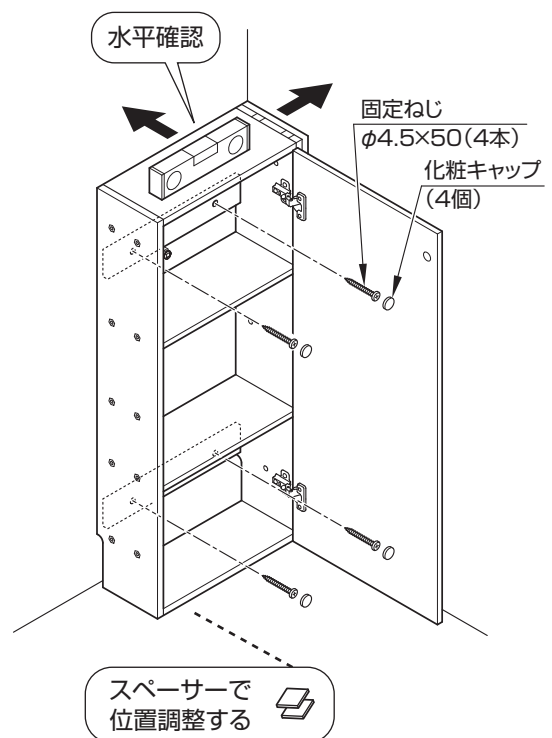


② 幅木がある場合は幅木分だけカットする。



③ サイドキャビネットに外側板を取り付ける。

サイドキャビネットを壁に押し当て、取付穴位置をけがき、下穴(φ4)をあける。サイドキャビネットを後壁に取り付ける。



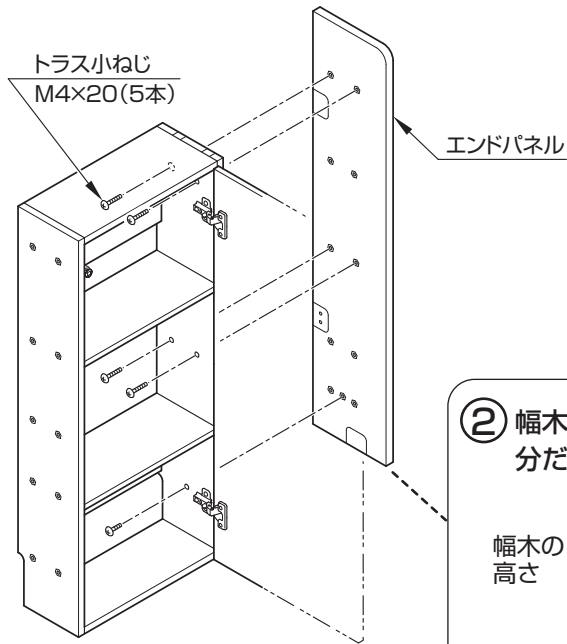
0 エンドパネル(オプション品)・サイドキャビネット (つづき)

■サイドキャビネットとエンドパネルを使用する場合

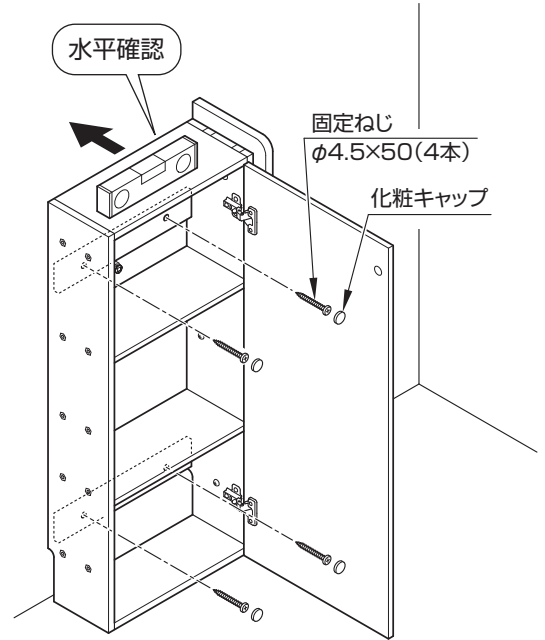
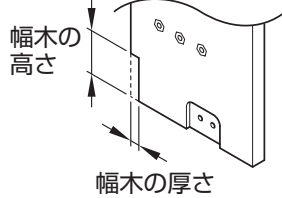
① サイドキャビネットから外側板を外す。

④ 取付位置を確認し、取付穴位置をけがき、
下穴(φ4)をあける。

サイドキャビネットを後壁に押し当て取り付ける。



② 幅木がある場合は幅木
分だけカットする。



③ サイドキャビネットにエンドパネルを取り付ける。

間口寸法Wの測定範囲

	エンドパネル	サイドキャビネット	サイドキャビネット+エンドパネル
後横桟			
天板			

1 後横棧・壁側板

「側板・後横棧部、扉セット」の部材を使用

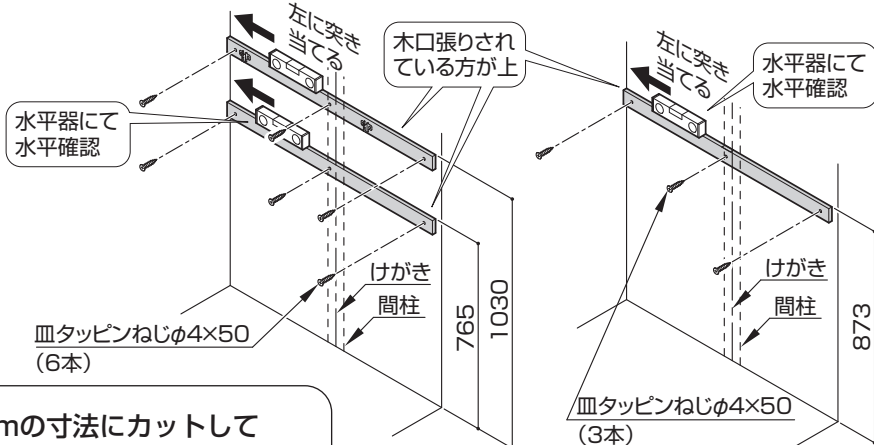
1 後横棧を取り付ける

① 後横棧上端の位置をけがく

床仕上面～後横棧上端	
まるごと収納タイプ (2本)	1030mm 765mm
スリム収納タイプ(1本)	873mm

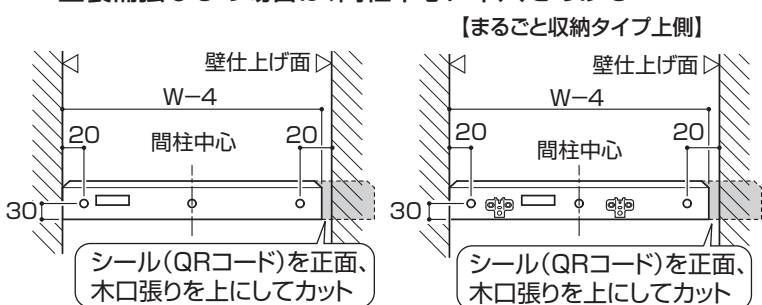
【まるごと収納タイプ】

【スリム収納タイプ】 (単位:mm)



② 後横棧に向かって右側をW-4mmの寸法にカットして貫通穴(φ5)を3カ所あける

壁裏補強なしの場合は、間柱中心に下穴をあける (単位:mm)



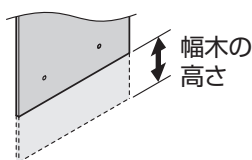
③ 壁に下穴(φ3)をあけ、シールを正面にして同梱のねじで取り付ける

真ん中(間柱)を先に取り付けて、水準器で水平を確認後、両端を取り付ける

2 壁側板を取り付ける

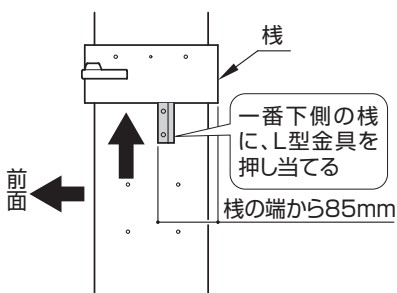
① 壁側板を加工する

【幅木がある場合】
幅木の高さをカットする



【横壁にコンセントがある場合】
コンセントプレートのサイズに壁側板を開口する

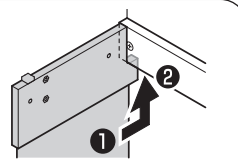
【給水リモデルの場合】
左壁側板にL型金具(止水栓に同梱)のねじ位置をけがき、貫通穴(φ5)2カ所あける



② 横壁に下穴(φ3)をあけ、ねじ固定する

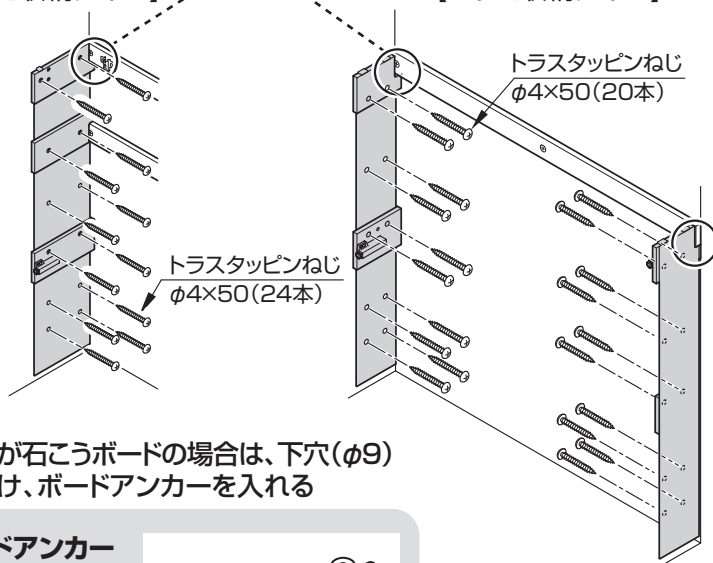
給水リモデルの場合は、壁にL型金具用の下穴(φ3)をあける

- 壁側板を奥壁に押し当てる
- 後横棧下端に突き当てる



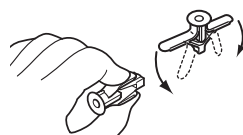
【まるごと収納タイプ】

【スリム収納タイプ】



※下地が石膏ボードの場合は、下穴(φ9)をあけ、ボードアンカーを入れる

ボードアンカー (オプション品) の羽を折りたたんで下穴(φ9)に差し込む

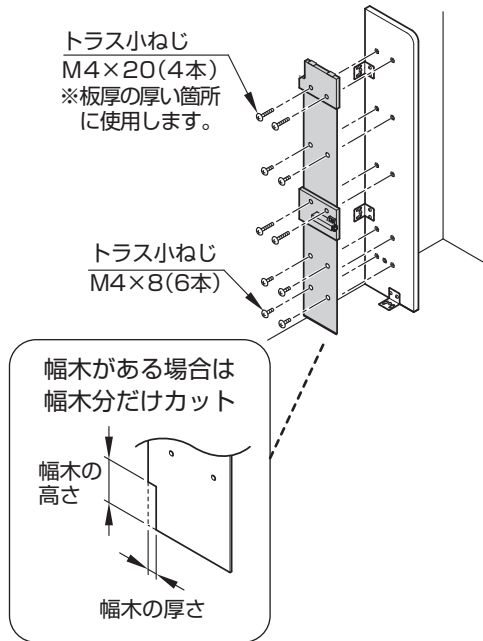


	ねじ数(本)
まるごと収納タイプ	24
スリム収納タイプ	20

1 後横棧・壁側板 (つづき)

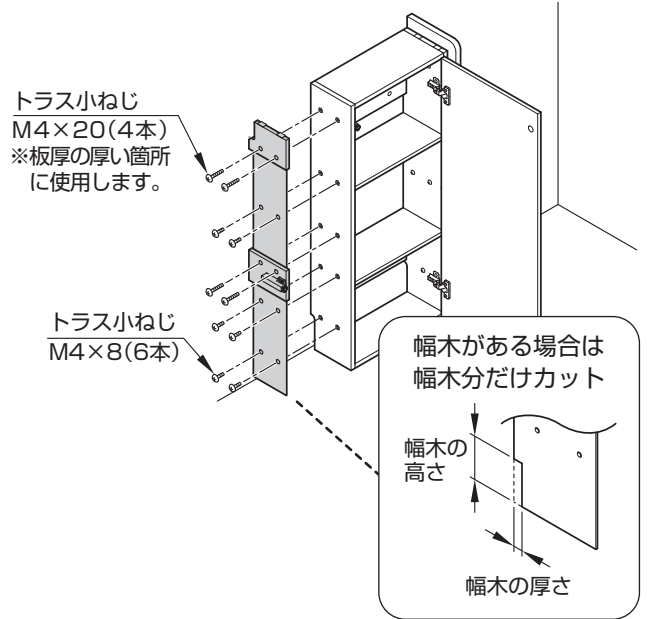
【エンドパネルの場合】

(「エンドパネル」に同梱のねじを必ず使用してください。)



【サイドキャビネットの場合】

(「サイドキャビネット」に同梱のねじを必ず使用してください。)

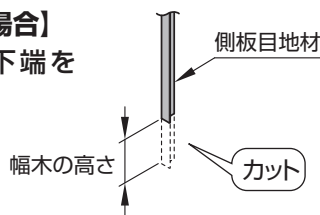


3 側板目地材 (「扉セット」に同梱) を取り付ける

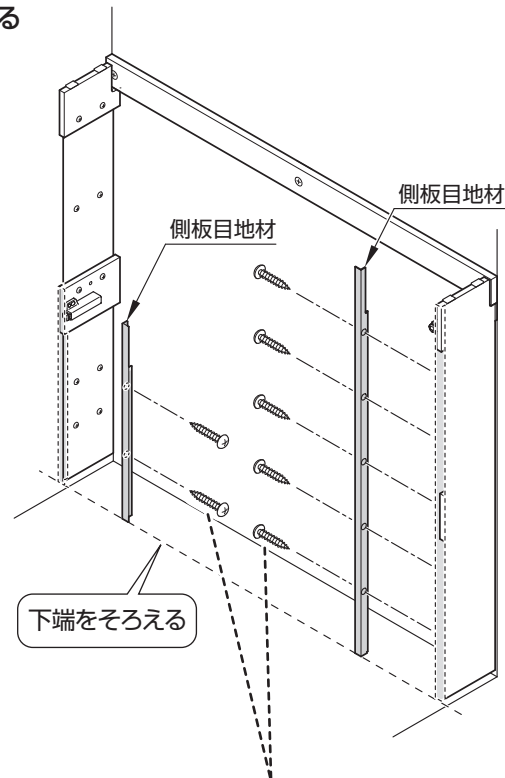
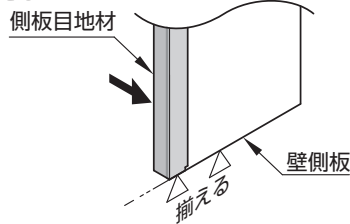
※図は左勝手の場合
右勝手は左右反転となります。

① 【幅木がある場合】

側板目地材下端を幅木の高さ分カットする



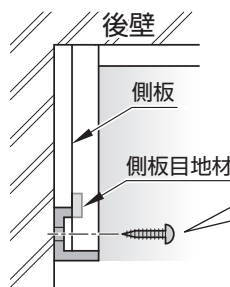
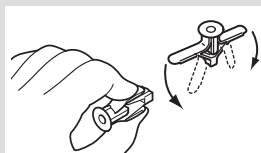
② 側板目地材を壁側板に押し当て、下端を揃える



③ 壁に取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあけ、同梱のねじで取り付ける

※下地が石膏ボードの場合は、下穴(φ9)をあけ、ボードアンカーを入れる

ボードアンカー (オプション品) の羽を折りたたんで下穴(φ9)に差し込む



【壁の場合】
トラスタッピンねじφ4×30
【エンドパネル・サイドキャビネットの場合】
トラスタッピンねじφ4×12
(エンドパネル・サイドキャビネットに同梱)

2 止水栓（給水新設の場合）

「大便器キャビネット部材」の部材を使用

1 止水栓、分岐金具（ウォシュレット用分岐金具は「ウォシュレット」に同梱）を取り付ける

※同梱の止水栓を必ず使用してください。

ポイント

取付位置は正面向かって左

左右勝手どちらも、正面向かって左側に取り付けます。

注意

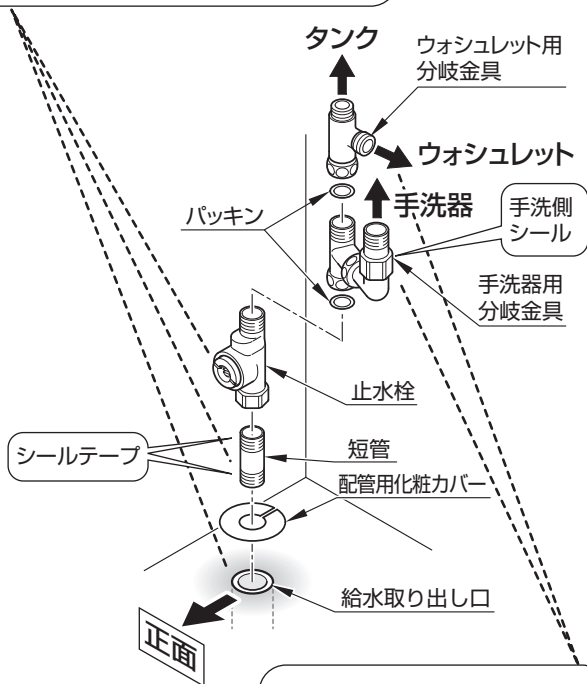


シールテープを必ず巻くこと

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

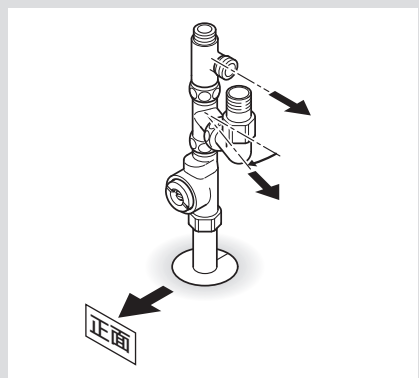
【床給水の場合】

- 短管と止水栓を組み付け、給水取り出し口に取り付ける



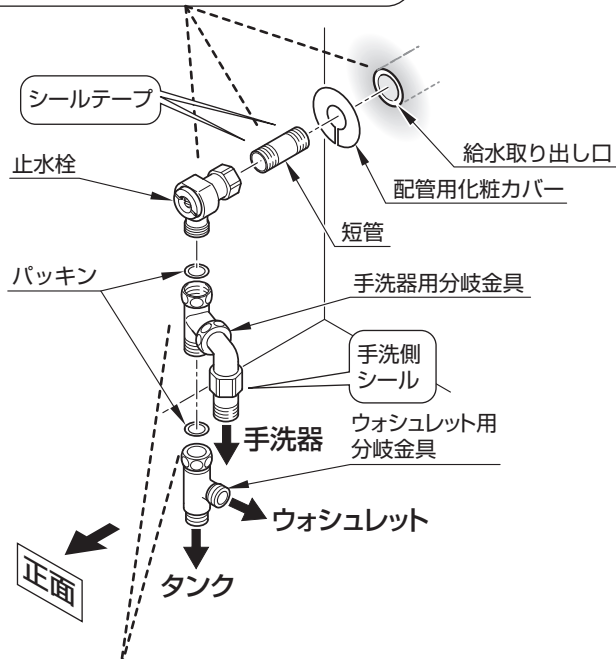
- 分岐金具を取り付ける

止水栓、分岐金具の向き



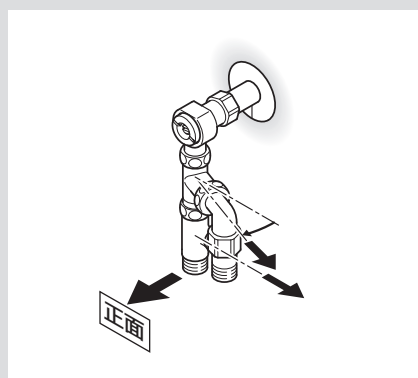
【壁給水の場合】

- 短管と止水栓を組み付け、給水取り出し口に取り付ける



- 分岐金具を取り付ける

止水栓、分岐金具の向き



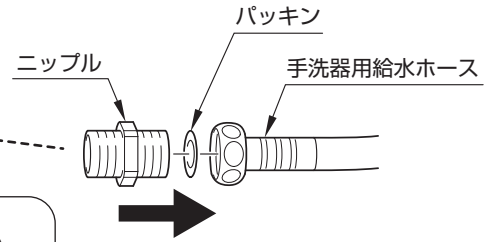
注意

手洗器とウォシュレットの給水ホースを反対に取り付けないようご注意ください。便器洗浄・ウォシュレットの吐水不良の原因となります。

2 止水栓（給水新設の場合）（つづき）

2 手洗器用給水ホースを取り付ける

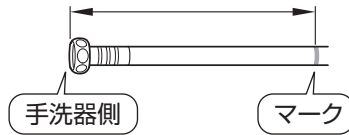
- ① 手洗器用給水ホースにニップルを取り付ける
※手洗器Mサイズ自動水栓/Sサイズの場合



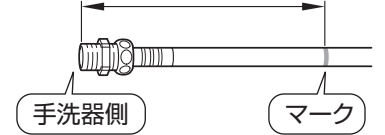
- ② カウンター寸法に合わせ、ホースクランプ固定位置の印を付ける

	A(mm)	
	ハンドル式水栓	自動水栓
Mサイズ	350	-70
Sサイズ	30	

【Mサイズ ハンドル式水栓の場合】
カウンター寸法+A



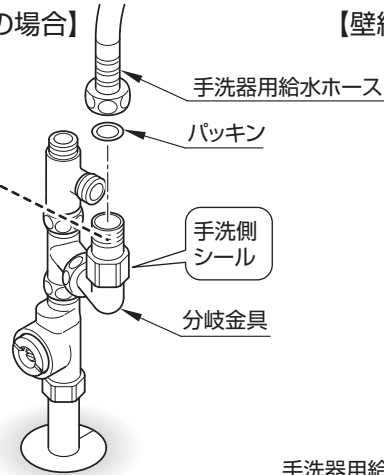
【Mサイズ 自動水栓/Sサイズの場合】
カウンター寸法+A



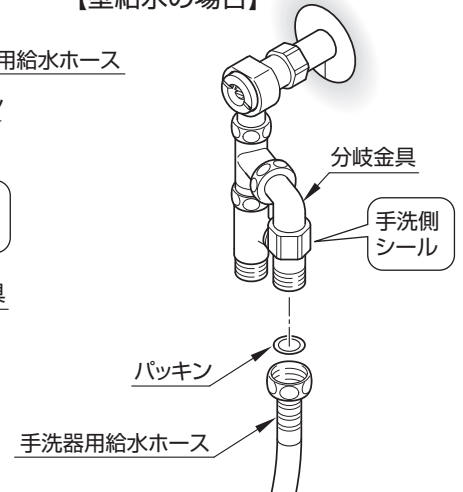
- ③ 分岐金具に取り付ける

- ④ 「手洗器用給水ホース取り回し」
(P34・35)を参照し、ホースク
ランプで固定する
(配管部材セットに同梱)

【床給水の場合】



【壁給水の場合】



注意

手洗器用給水ホースは「手洗側シール」
がある接続口に取り付ける

手洗器用給水ホース取り回し（壁給水）（参考）

※ ○ は給水ホース固定位置（任意）

※ □ は給水ホース固定位置（マーク付）

※ ■ は給水ホース取り回し範囲

※ 間口寸法に関わらず、□ 給水ホース固定位置（マーク付）は、図中の寸法を守って固定してください。

※ 間口寸法751～960mmの場合は、下図間口寸法750mmの場合を参考に給水ホース取り回し範囲内でホースを取り回し、固定してください。

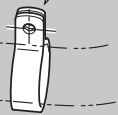
（単位：mm）

給水位置	間口寸法750mmの場合	間口寸法961mm以上の場合
壁給水 (右勝手)		
壁給水 (左勝手)		

注意

□ で囲んだ
ホースクランプ
の向きに注意
ねじが上になる
ように固定してく
ださい。

給水ホース固定
位置寸法は、ね
じ穴中心までの
長さです。



2 止水栓（給水新設の場合）（つづき）

手洗器用給水ホース取り回し（床給水）（参考）

※ ○ は給水ホース固定位置（任意） ※ □ は給水ホース取り回し範囲

※ □ は給水ホース固定位置（マーク付）

※ 間口寸法に関わらず、□ 給水ホース固定位置（マーク付）は、図中の寸法を守って固定してください。

※ 間口寸法751～960mmの場合は、下図間口寸法750mmの場合を参考に給水ホース取り回し範囲内でホースを取り回し、固定してください。

※ 水抜方式の場合、給水ホース取り回しは床から175mm以上確保してください。（水が抜けず、凍結する場合があります）

（単位：mm）

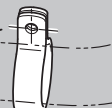
給水位置	間口寸法750mmの場合	間口寸法961mm以上の場合
床給水 （右勝手）		
床給水 （左勝手）		
床給水 水抜方式 （右勝手） 		
床給水 水抜方式 （左勝手） 		

注意

□ で囲んだホースクリップの向きに注意

ねじが上になるように固定してください。

給水ホース固定位置寸法は、ねじ穴中心までの長さです。



警告



禁止

給水ホースは電源プラグ・コンセントの上を通したり、電源プラグ、コンセントに接触させたりしない

結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

2 止水栓（既存給水流用の場合）

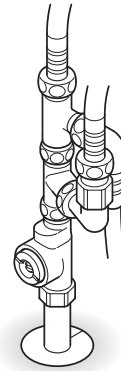
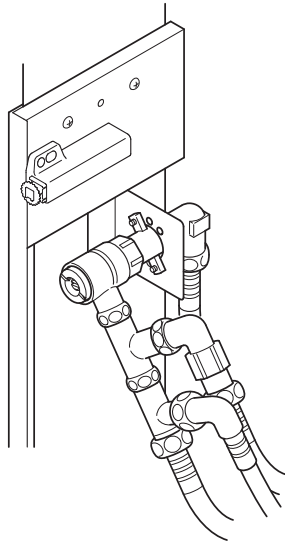
「大便器キャビネット部材」の部材を使用

一般地／流動方式

▶ P.36参照

水抜方式

▶ P.39参照



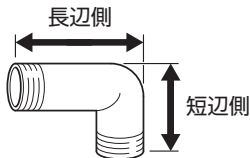
一般地／流動方式

3 部材の取り付け
①

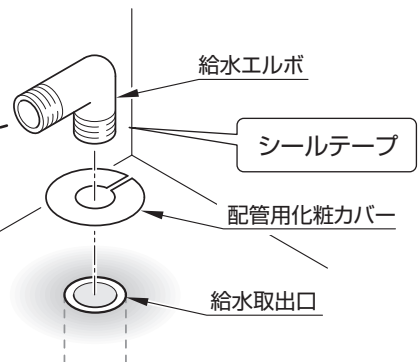
1 給水エルボを取り付ける

給水エルボ(短辺側)にシールテープを巻き、
給水取出口に取り付ける

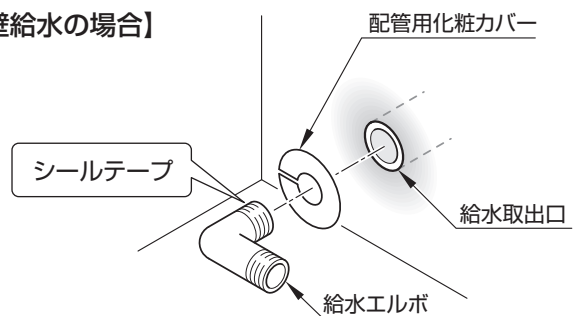
短辺側を給水取出口に接続



【床給水の場合】



【壁給水の場合】



⚠ 注意



必ず守る

シールテープを必ず巻くこと
水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。

2 止水栓（既存給水流用の場合）（つづき）

給水ホース（リモデル用）取り回し（参考）

（単位：mm）

	左給水	右給水
壁給水	<p>※給水位置が床仕上げ面から415mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。</p> <p>【給水取出口が止水栓より下にある場合】 【給水取出口が止水栓より上にある場合】 【給水取出口が止水栓に近い場合】</p>	<p>※右給水の場合は延長ホース(UGTN98L2X50R)L=522を使用します。</p> <p>※給水位置が床仕上げ面から415mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。</p>
床給水	<p>※給水エルボは便器側に向ける</p>	<p>※給水エルボは便器側に向ける</p> <p>※右給水の場合は延長ホース(UGTN98L2X50R)L=522を使用します。</p>

3 部材の取り付け①

2 止水栓に分岐金具（ウォシュレット用分岐金具は「ウォシュレット」に同梱）を組み付ける

※同梱の止水栓を必ず使用してください。

※右給水の場合、オプション品の延長ホース(UGTN98L2X50R)を用意してください。

① 止水栓とエルボを
いったん取り外す

③ 分岐金具を組み付けた止水栓とL型金具を同梱のねじで取り付ける

⑤ 組み付けた給水ホースを止水栓に取り付ける

② 止水栓にウォシュレット用分岐金具、手洗器用分岐金具を組み付ける

④ 給水ホース（リモデル用）を取り付ける

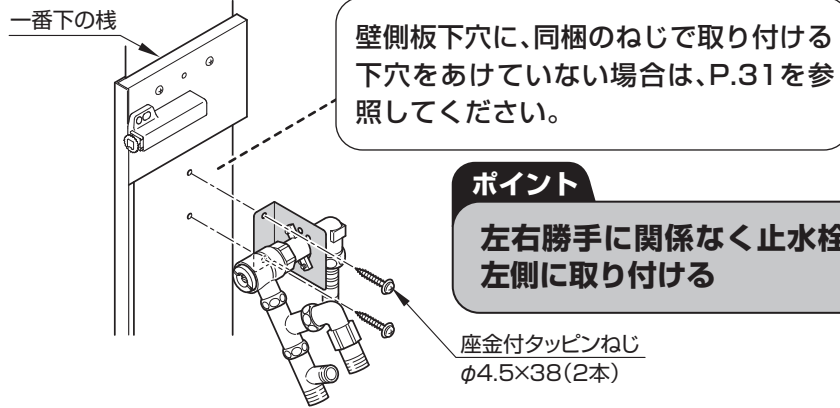
注意

注意

手洗器とウォシュレットの給水ホースを反対に取り付け不要ご注意ください。便器洗浄・ウォシュレットの吐水不良の原因となります。

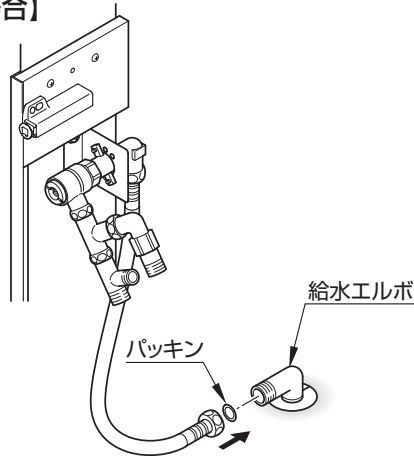
2 止水栓（既存給水流用の場合）（つづき）

3 組み付けた止水栓を壁側板に取り付ける

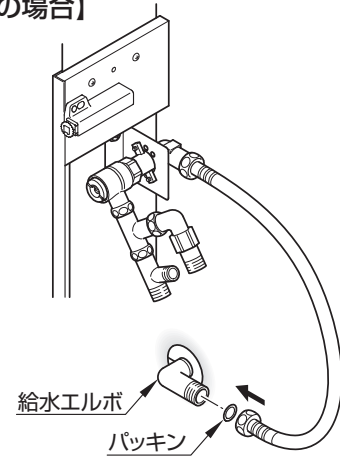


4 給水ホースを給水エルボに取り付ける

【床給水の場合】

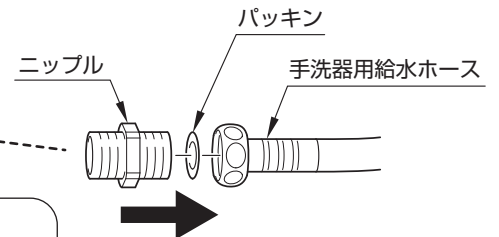


【壁給水の場合】



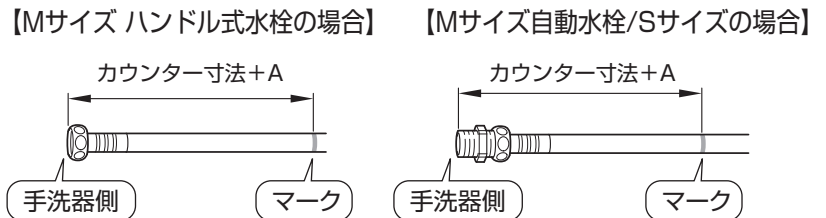
5 手洗器用給水ホースを取り付ける

- ① 手洗器用給水ホースにニップルを取り付ける
※手洗器Mサイズ自動水栓/Sサイズの場合



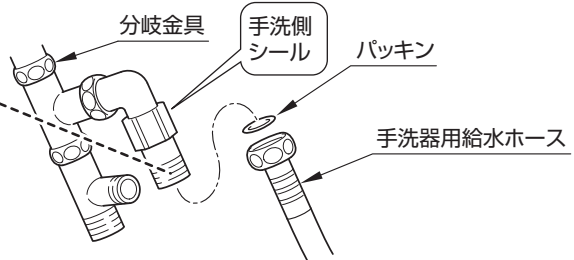
- ② カウンター寸法に合わせ、ホースクランプ固定位置の印を付ける

	A(mm)	
	ハンドル式水栓	自動水栓
Mサイズ	350	-70
Sサイズ	30	



- ③ 分岐金具に取り付ける

- ④ 次ページを参照し、ホースクランプで固定する
(手洗器カウンター包装箱に同梱)



注意

手洗器用給水ホースは「手洗側シール」がある接続口に取り付ける

2 止水栓（既存給水流用の場合）（つづき）

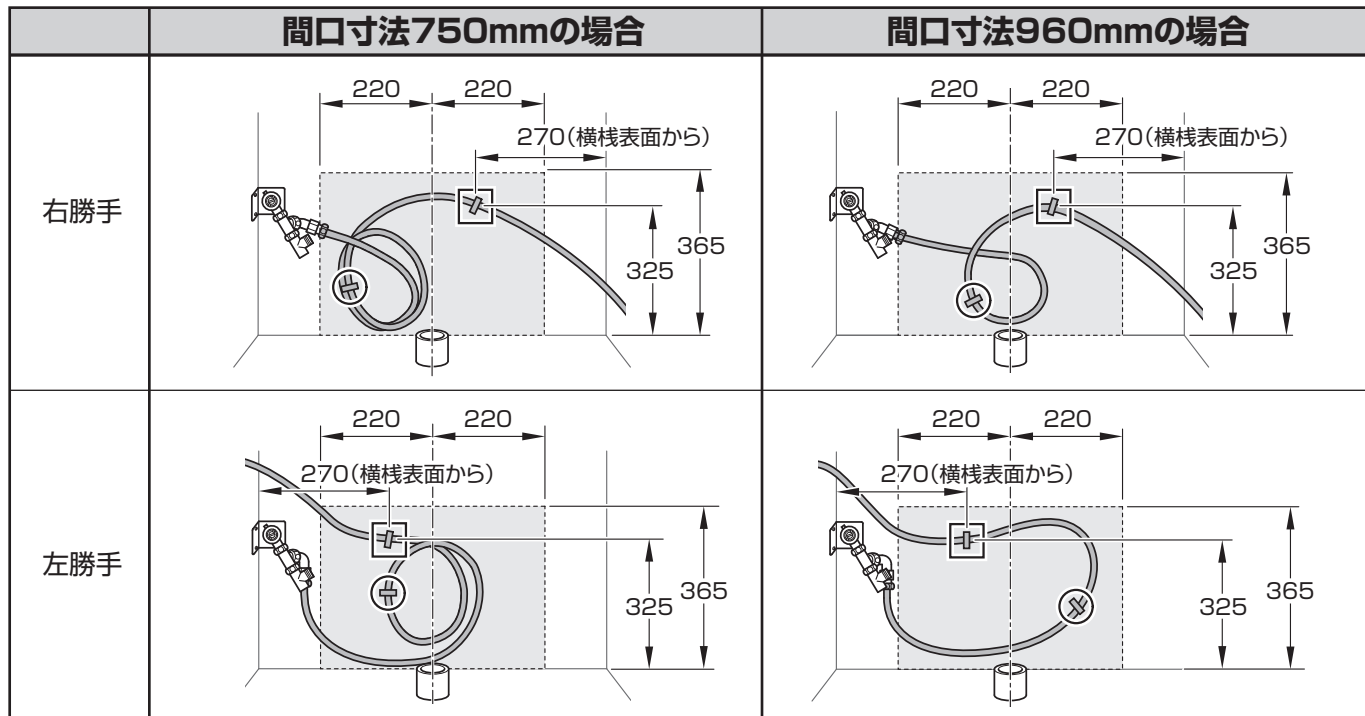
手洗器用給水ホース取り回し（参考）

- ※ ○ は給水ホース固定位置（任意） ※ □ は給水ホース取り回し範囲
 ※ □ は給水ホース固定位置（マーク付）

※間口寸法に関わらず、□ 給水ホース固定位置（マーク付）は、図中の寸法を守って固定してください。

※下図を参考に給水ホース取り回し範囲内でホースを取り回し、固定してください。

（単位：mm）

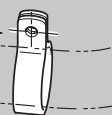


注意

□で囲んだホースクリップの向きに注意

ねじが上になるように固定してください。

給水ホース固定位置寸法は、ねじ穴中心までの長さです。



警告



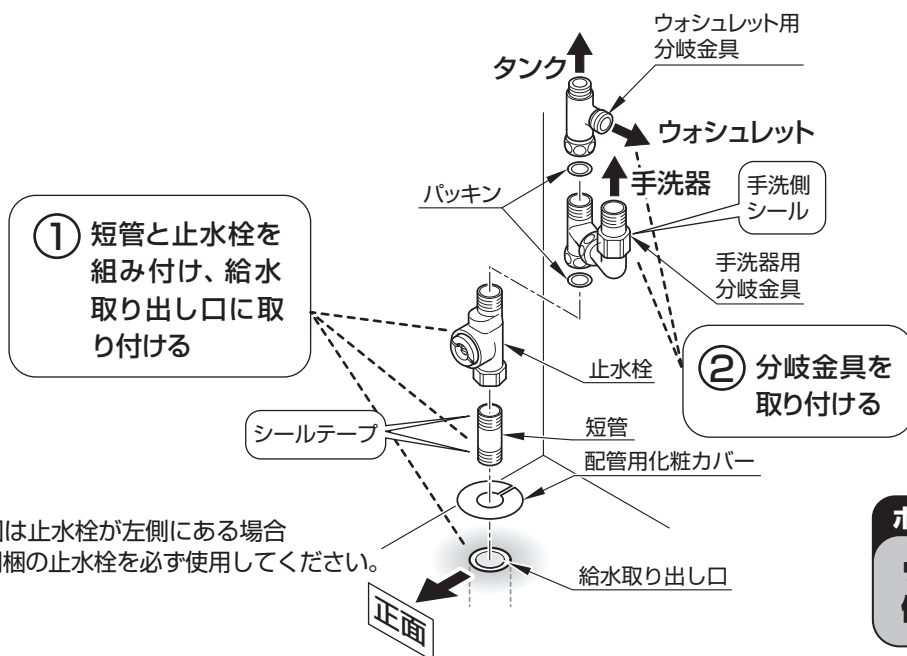
禁止

給水ホースは電源プラグ・コンセントの上を通したり、電源プラグ、コンセントに接触させたりしない

結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

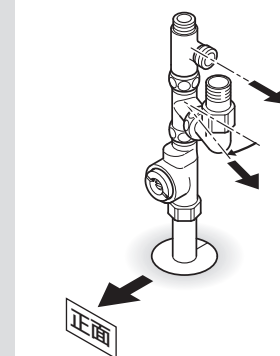
水抜方式

1 止水栓に分岐金具（ウォシュレット用分岐金具は「ウォシュレット」に同梱）を組み付ける



※図は止水栓が左側にある場合
 ※同梱の止水栓を必ず使用してください。

止水栓、分岐金具の向き



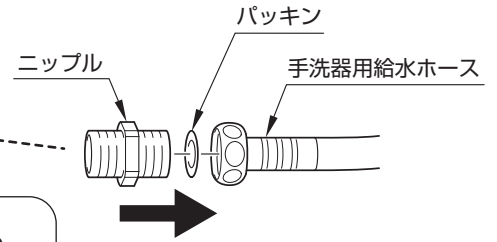
ポイント

ウォシュレット用分岐金具は便器側に向ける

2 止水栓（既存給水流用の場合）（つづき）

2 手洗器用給水ホースを取り付ける

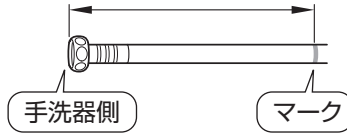
- ① 手洗器用給水ホースにニップルを取り付ける
※手洗器Mサイズ自動水栓/Sサイズの場合



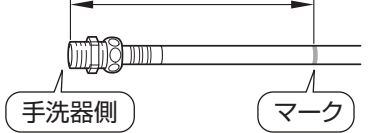
- ② カウンター寸法に合わせ、ホースクランプ固定位置の印を付ける

	A(mm)	
	ハンドル式水栓	自動水栓
Mサイズ	350	-70
Sサイズ	30	

【Mサイズ ハンドル式水栓の場合】
カウンター寸法+A



【Mサイズ自動水栓/Sサイズの場合】
カウンター寸法+A



※図は床給水の場合

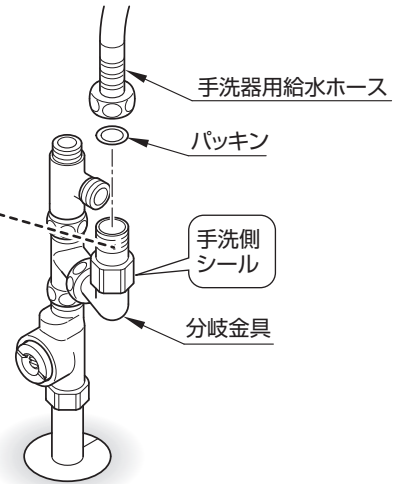
- ③ 分岐金具に取り付ける

- ④ 「手洗器用給水ホース取り回し」(P41)を参照し、ホースクランプで固定する
(手洗器カウンター包装箱に同梱)

注意

手洗器用給水ホースは「手洗側シール」がある接続口に取り付ける

【床給水】



2 止水栓（既存給水流用の場合）（つづき）

手洗器用給水ホース取り回し（参考）



※ ○ は給水ホース固定位置（任意） ※ □ は給水ホース取り回し範囲

※ □ は給水ホース固定位置（マーク付）

※ 間口寸法に関わらず、□ 給水ホース固定位置（マーク付）は、図中の寸法を守って固定してください。

※ 下図を参考に給水ホース取り回し範囲内でホースを取り回し、固定してください。

（単位：mm）

給水位置	間口寸法750mmの場合	間口寸法960mmの場合
水抜方式 (右勝手) 		
水抜方式 (左勝手) 		

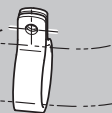
3 部材の取り付け①

注意

□ で囲んだホースクリップの向きに注意

ねじが上になるように固定してください。

給水ホース固定位置寸法は、ねじ穴中心までの長さです。



警告



禁止

給水ホースは電源プラグ・コンセントの上を通したり、電源プラグ、コンセントに接触させたりしない

結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

3

排水部材(排水心200mmの場合)

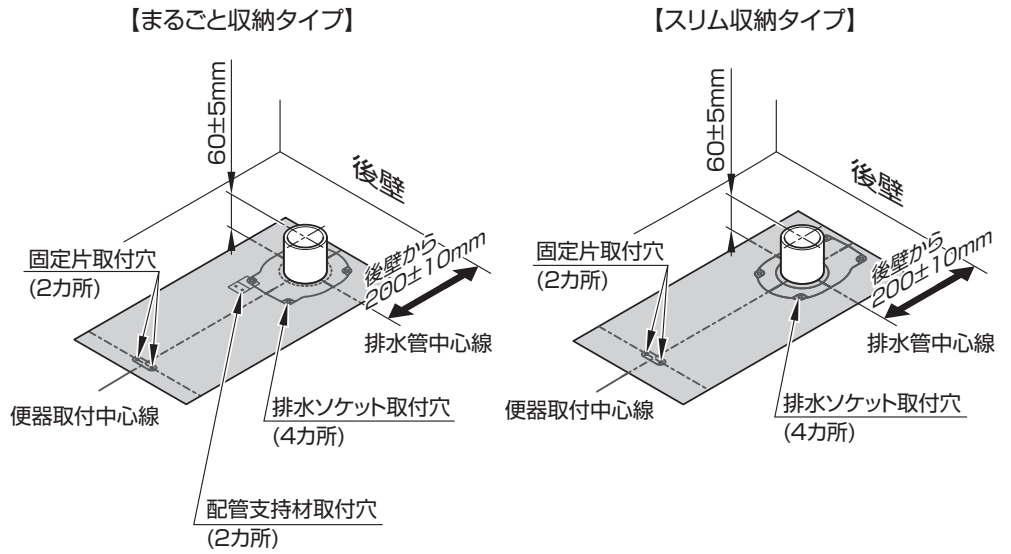
☞【大便器キャビネット部材、手洗器カウンター部】の部材を使用

1 位置決めシートでけがく

① 位置決めシートを排水管の中心線に合わせて床面に置く

② 排水ソケット取付穴位置、便器取り付け中心線をけがく
※鉛筆など、後で消せるものでけがく

③ 下穴をあける
排水ソケット取付穴(φ4.5)
固定片取付穴(φ4.5)
【まるごと収納タイプの場合】
配管支持材取付穴(φ3)



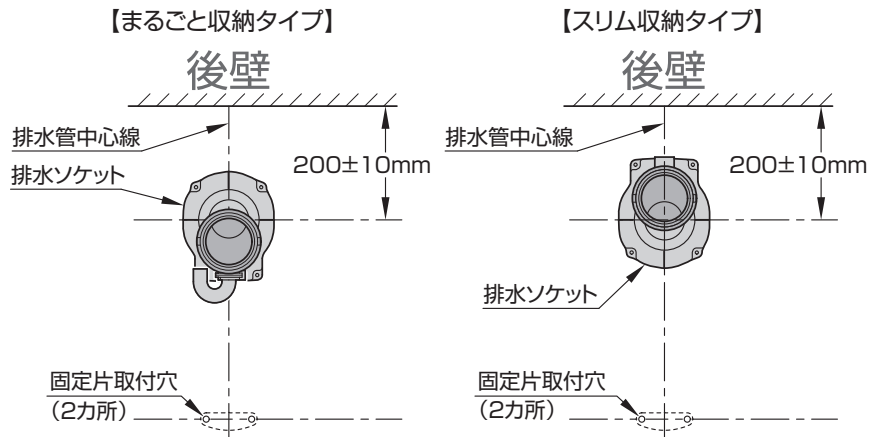
3 部材の取り付け

2 排水ソケットを取り付ける

① 排水ソケットの向きを確認する

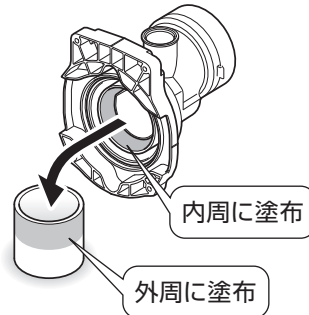
注意

排水ソケット向きに注意
排水ソケットを間違った方向に取り付けると便器の施工が出来なくなります。



② 排水ソケットと排水管に塩ビ用接着剤を塗布する

【VP/VU75】



【VP/VU100】



注意

接着剤塗布位置を確認する

排水管の種類によって異なりますのでご注意ください。接着剤塗布面は、排水ソケット内周、排水管外周となります。間違えますと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。また、臭気漏れの原因となります。



必ず守る

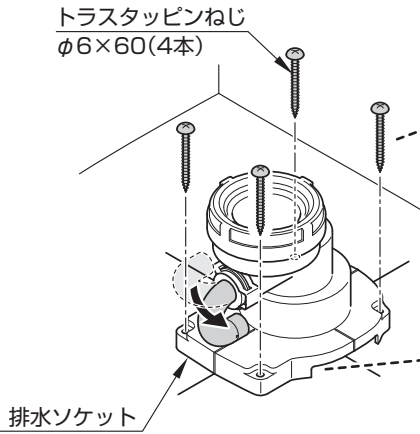
接着剤は必ず、排水ソケットと排水管の両方に塗布する

片側のみ塗布した場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。また、臭気漏れの原因となります。

3 排水部材（排水心200mmの場合）（つづき）

【まるごと収納タイプ】

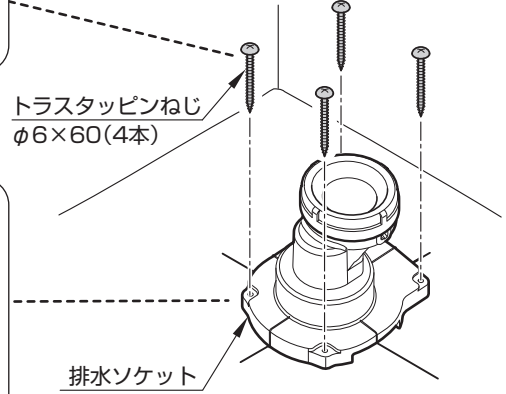
【スリム収納タイプ】



④ 同梱のねじで取り付ける
※#3の長いビットを使用

③ 排水ソケットを床面に着く
まで押し込む

- ・排水管の切断面のバリ、汚れは必ず除去すること
- ・けがいた穴位置、中心線に合わせて置く



ポイント

U字管を下向きに

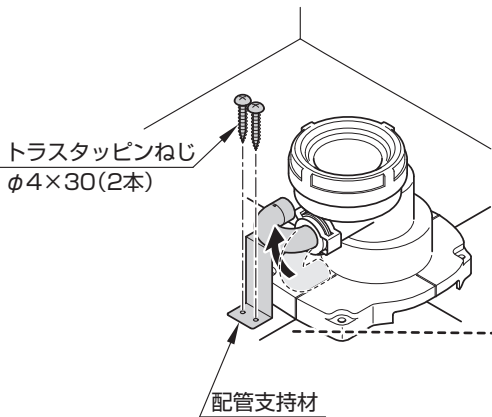
排水ソケット固定時に、U字管を下向きにしてください。

注意



排水ソケットは下面が床面にあたるまで押し込む

押し込まない場合、排水ソケットの固定時に破損するおそれがあります。

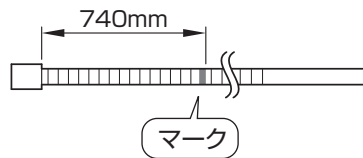


⑤ 【まるごと収納タイプの場合のみ】
U字管を横向きにして、配管支持材を固定する

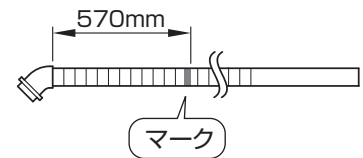
3 手洗器排水ホースを取り付ける

① 手洗器排水ホースに固定位置のマークを付ける

【まるごと収納タイプ】



【スリム収納タイプ】

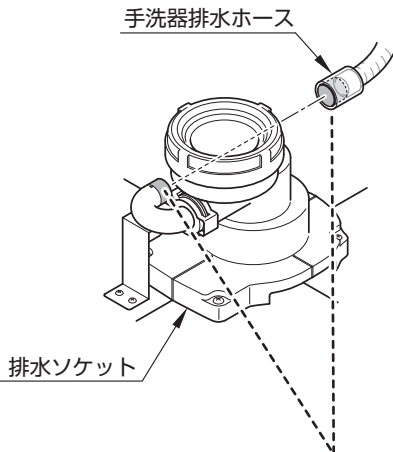


手洗器排水ホース取り回し

まるごと収納タイプ		スリム収納タイプ	
手洗器左勝手	手洗器右勝手	手洗器左勝手	手洗器右勝手
後壁	後壁	後壁	後壁

3 排水部材 (排水心200mmの場合) (つづき)

【まるごと収納タイプ】



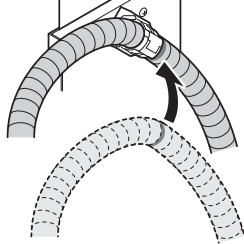
② 排水ソケットのU字管と手洗器排水ホースに接着剤を塗布し、差し込みラインまでしっかり差し込む

③ 側板の下穴(φ2)と後壁の斜線範囲内に配管固定材を取り付ける

ポイント

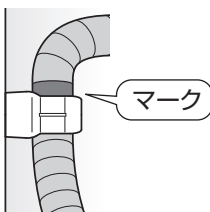
ねじは手締めで行うこと

④ 手洗器排水ホースのマーク部分を配管固定材に固定する



ポイント

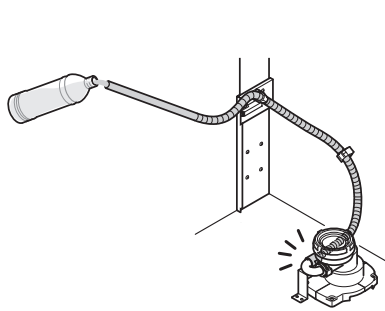
下図のように固定する



水漏れ確認

接続後、すぐに水漏れ確認

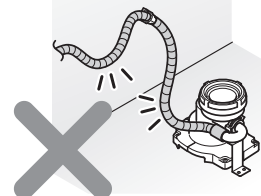
接続後、すぐに水を流して水漏れがないかを確認してください。



逆勾配注意

手洗器排水ホースがたるまないように固定する

手洗器から異音発生のおそれがあります。



【スリム収納タイプ】

注意



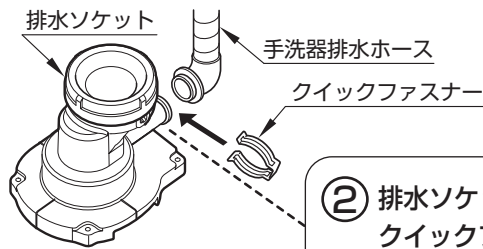
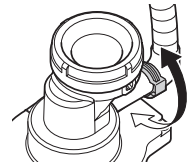
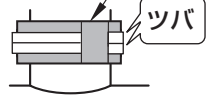
必ず守る

クイックファスナーの全周にツバが掛かっていることを確認する

クイックファスナーがスムーズに1回転することを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

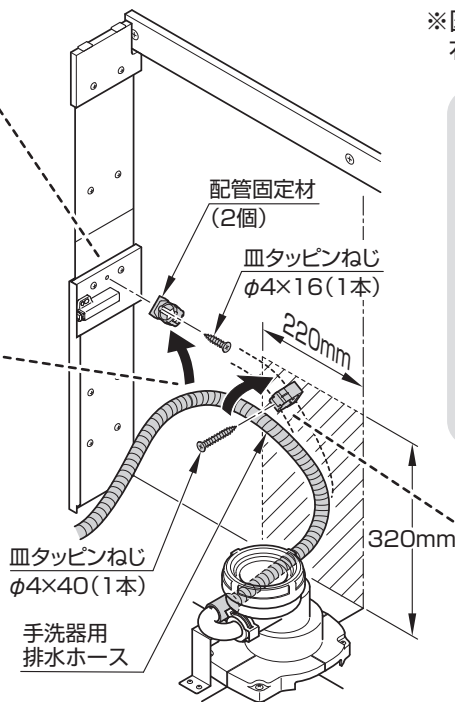
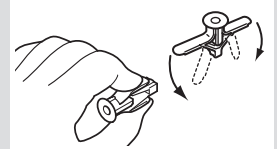
クイックファスナー



② 排水ソケットと手洗器排水ホースをクイックファスナーで取り付ける

※図は手洗器が左勝手の場合です。右勝手の場合は左右反転となります。

下地が石こうボードの場合はボードアンカー(オプション品)の羽を折りたたんで下穴(φ9)に差し込む



⑤ 排水が逆勾配にならないように配管固定材を取り付ける

3 排水部材(排水心可変の場合) 「大便器キャビネット部材、手洗器カウンター部」の部材を使用

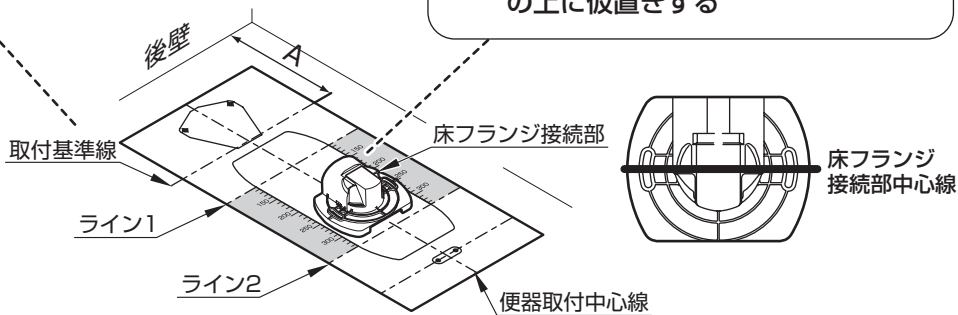
1 既設の便器を外した後、Pシールをきれいに取り除く

2 床フランジ接続部を仮置きする

① 後壁からA寸法の位置に位置決めシートの取付基準線を合わせて置く
取付基準線の位置決めは、左右2カ所で行ってください。

	A(mm)
まるごと収納タイプ	246
スリム収納タイプ	160

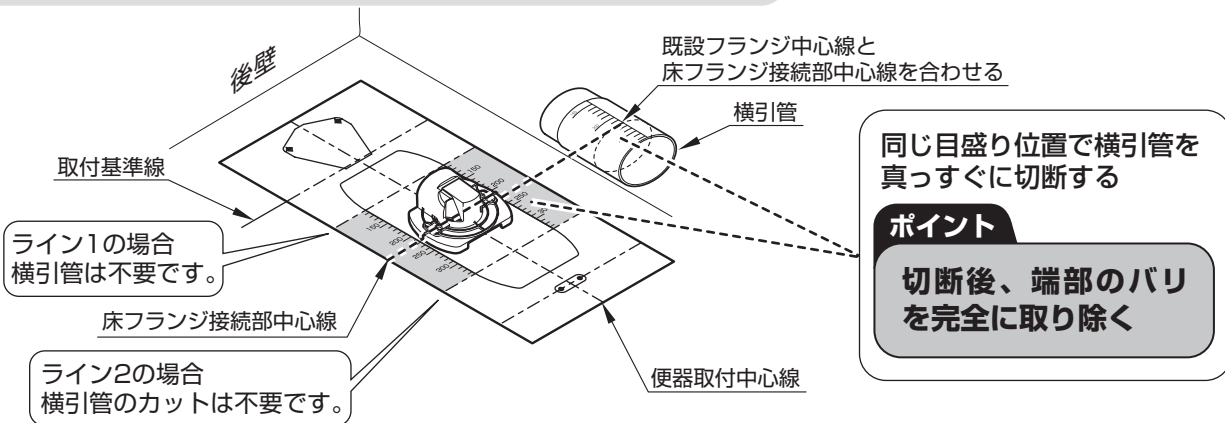
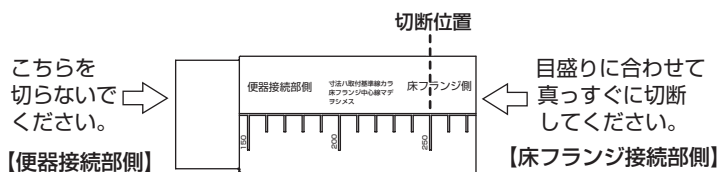
② 床フランジ接続部を既設フランジの上に仮置きする



3 横引管を切断する

排水心の長さに合わせて、横引管を切断する。

(例) 測定寸法が250mmの場合



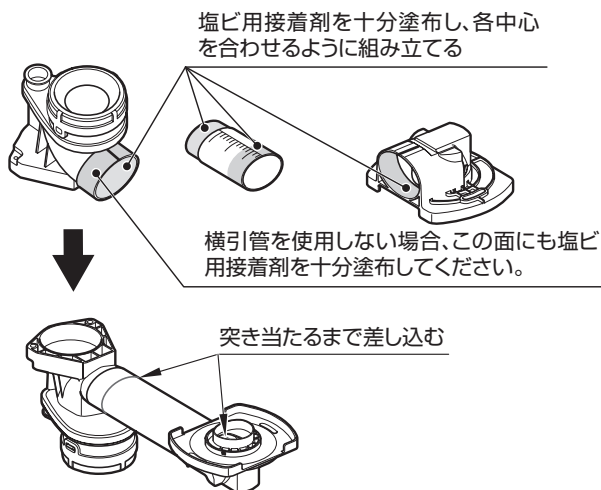
4 排水ソケットを組み立てる

注意

横引管は最後まで、きちんと押し込む
接着が不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす
財産損害発生の原因になります。

必ず守る

床面に対してガタツキがないように接着する
ガタツキが大きいと水漏れして家財などをぬらす
財産損害発生の原因になります。



3 部材の取り付け①

3 排水部材（排水心可変の場合）（つづき）

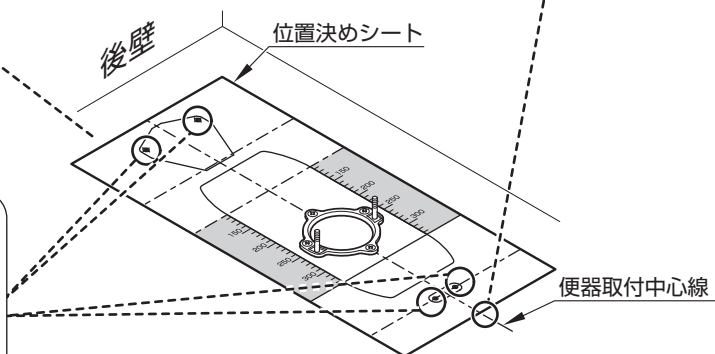
5 位置決めシートでけがく

① ②で合わせた位置に位置決めシートを置く

② 排水ソケット取付穴位置(2カ所)、固定片取付穴位置(2カ所)をけがく

④ 下穴(φ4.5)をあける

③ 便器取付中心線に印をつける
※鉛筆など、後で消せるものでけがく



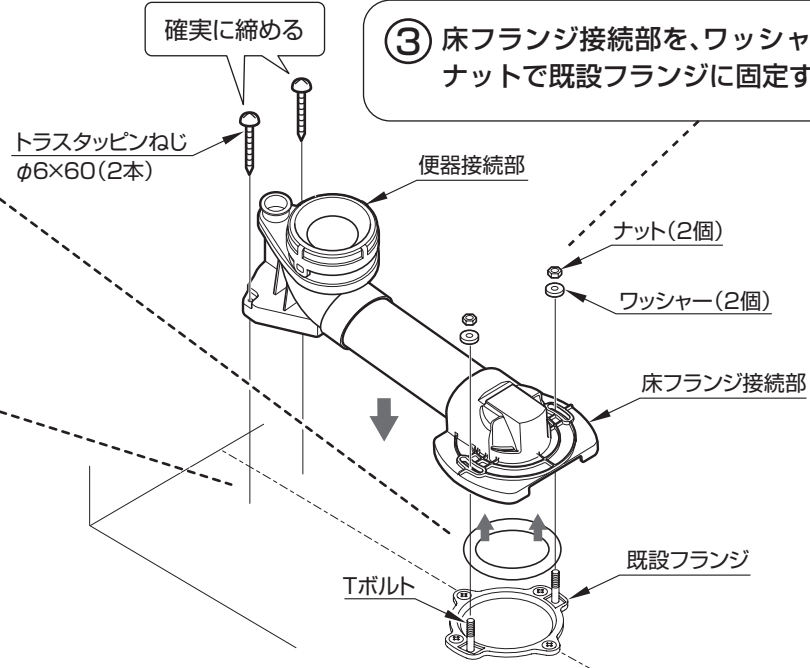
6 排水ソケットを取り付ける

※図は金属フランジの場合

① 【樹脂フランジの場合】
Pシール(樹脂フランジ用)を既設フランジにセットする
【金属フランジの場合】
Pシール(金属フランジ用)を床フランジ接続部にセットする

② 床フランジ接続部を既設フランジに押し付けてから、便器接続部の取付穴に同梱のねじで取り付ける

③ 床フランジ接続部を、ワッシャー、ナットで既設フランジに固定する



⚠ 注意

Pシール取り扱い上の注意

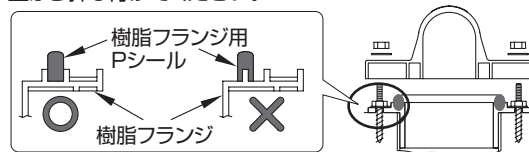
- 既設の床フランジのタイプに合わせ、金属フランジ用Pシールまたは、樹脂フランジ用Pシールを使用する
- 既設のフランジタイプによって、Pシールの取付方法が異なるので注意する



必ず守る

Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や便器が詰まり、汚水があふれたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

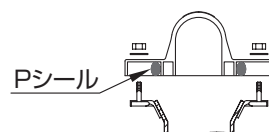
(樹脂フランジ用)
Pシールは必ずフランジ側にセットしてから、排水ソケットを上から押し付けてください。



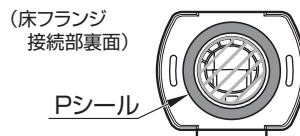
Pシールは溝にきちんと取り付けてください。

(金属フランジ用)

Pシールは必ず床フランジ接続部(排水アジャスター)にはめてから、フランジに押し付けてください。



Pシールが斜線内に入らないようにセットする

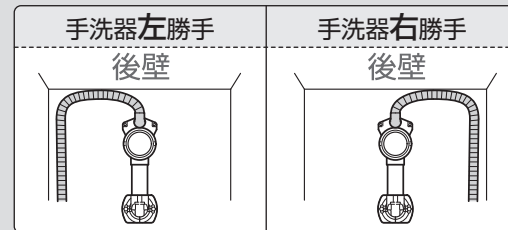


※図は金属フランジの場合

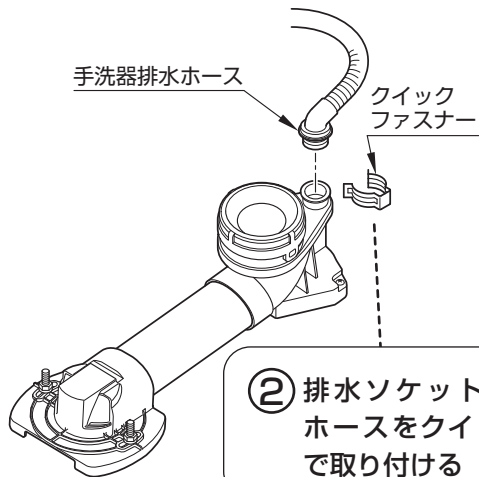
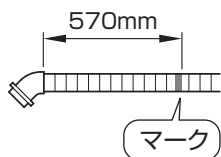
3 排水部材（排水心可変の場合）（つづき）

7 手洗器排水ホースを取り付ける

手洗器排水ホース取り回し



① 手洗器排水ホースに固定位置のマークを付ける

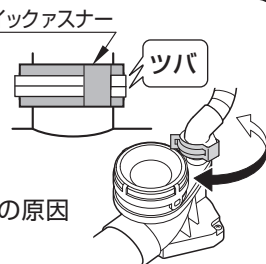


注意

クイックファスナーの全周にツバが掛かっていることを確認する

クイックファスナーがスムーズに1回転することを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



② 排水ソケットと手洗器排水ホースをクイックファスナーで取り付ける

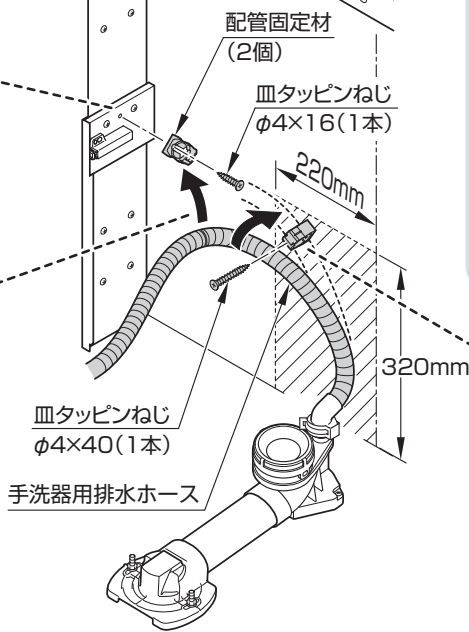
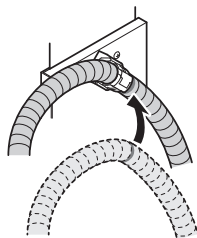
※図は手洗器が左勝手の場合です。右勝手の場合は左右反転となります。

③ 側板の下穴(φ2)と後壁の斜線範囲内に配管固定材を取り付ける

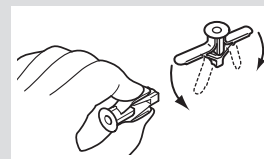
ポイント

ねじは手締めで行うこと

④ 手洗器排水ホースのマーク部分を配管固定材に固定する



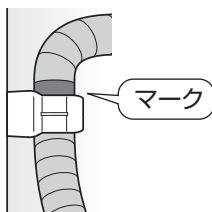
下地が石こうボードの場合はボードアンカー(オプション品)の羽を折りたたんで下穴(φ9)に差し込む



⑤ 排水が逆勾配にならないように配管固定材を取り付ける

ポイント

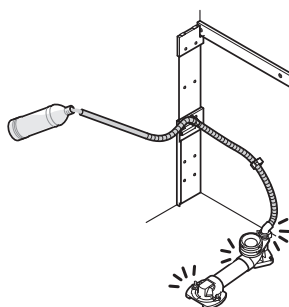
下図のように固定する



水漏れ確認

接続後、すぐに水漏れ確認

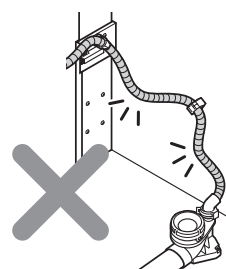
接続後、すぐに水を流して水漏れがないかを確認してください。



逆勾配注意

手洗器排水ホースがたるまないように固定する

手洗器から異音発生のおそれがあります。

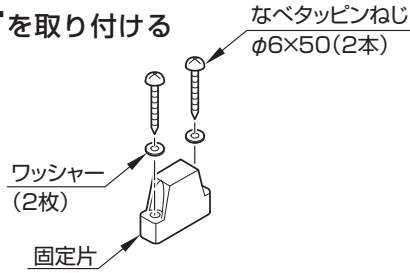


4 大便器

「大便器」の部材を使用

1 固定片取り付け穴に固定片を取り付ける

※#3ビットを使用

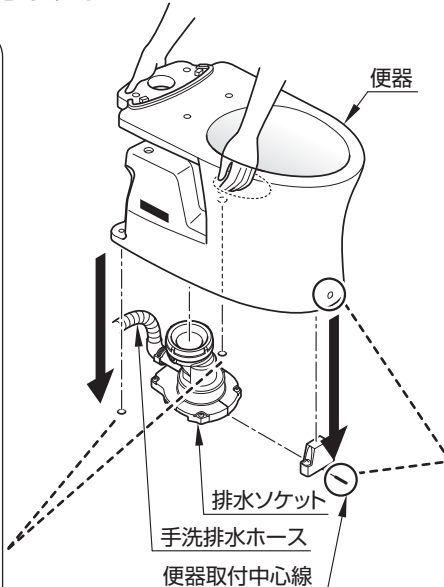
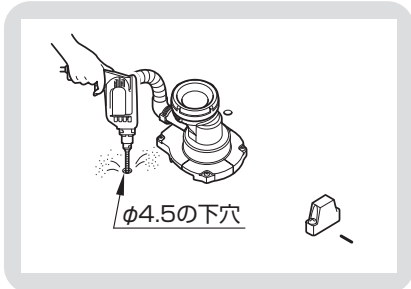


2 大便器を仮置きし、下穴をあける

② 大便器を仮置きし、便器取付位置(左右2カ所)をけがく



③ 大便器をいったん外して、下穴(φ4.5)をあける



便器の持ちかた

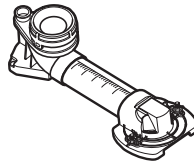


① 便器排水口を排水ソケットにはめ込む

ポイント

床にけがいた印(便器取付中心線)と便器前方の穴を合わせる

【排水心可変の場合】



注意



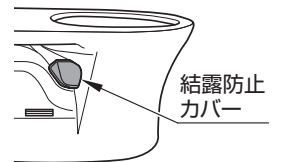
便器で手洗排水ホースをつぶさない

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

注意



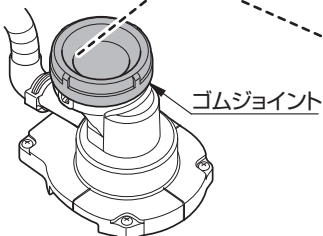
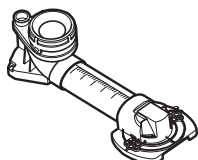
結露防止カバーは取り外さない
再度取り付けることができません。
取り外すと結露水が床をぬらす
おそれがあります。



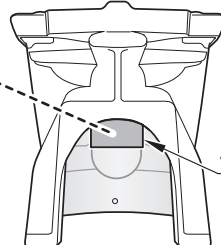
3 大便器を固定する

① 便器排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除く

【排水心可変の場合】



(便器の後ろ図)



便器の排水口

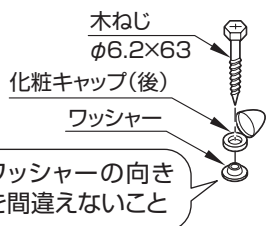
4 大便器 (つづき)

② 便器排水口を排水ソケットにはめ込む

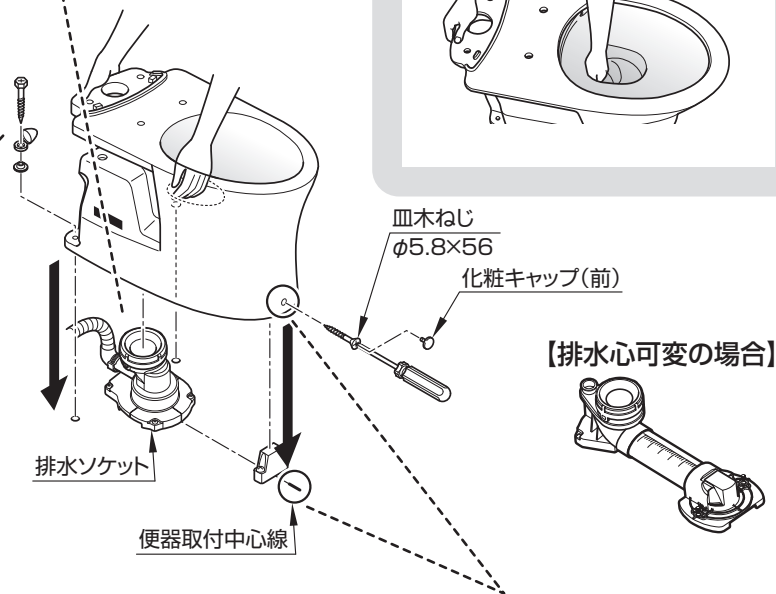
③ 便器後側の取り付け穴(2カ所)を、木ねじ、化粧キャップ、ワッシャーで固定する。
※#3ビットを使用

注意

締め過ぎて便器を割らないこと



便器の持ちかた



注意

便器後部の固定を必ず先に行う



前側の固定を先に行うと便器が後方へスライドし、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

④ 便器前側の取り付け穴に同梱のねじを差し込み、固定片に大便器を固定し、ねじの頭に化粧キャップ(前)を差し込む

ポイント

床にけがいた印(便器取付中心線)と便器前方の穴を合わせる

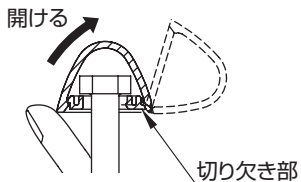
注意

最後の締め増しは、手締めにより行い、便器を割らないように注意すること

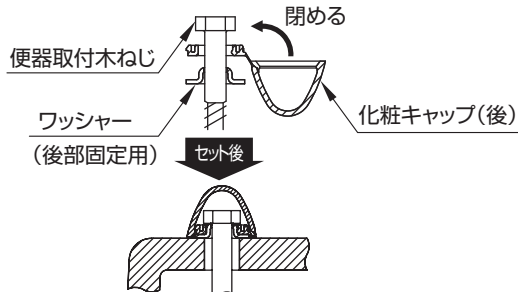
化粧キャップ付きねじの固定方法

【取り付けかた】

① 最初に化粧キャップを開ける。
木ねじを手で持ち、切り欠き部をよけて化粧キャップの下部を矢印の方向に指で押し上げてください。

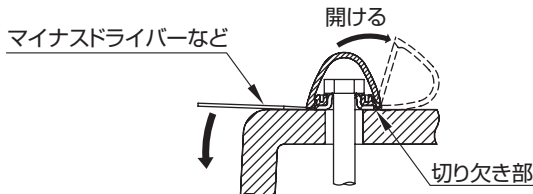


② 木ねじを取り付けたあとは、化粧キャップを矢印の方向に曲げて、「パチッ」と音がるまで押し込む。



【取り外しかた】

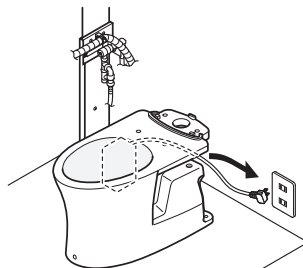
施工後にボルトを外すときは、マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップの切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開いてください。



4 大便器 (つづき)

ヒーター付便器の場合

電源コードをコンセント側に取り回しておく

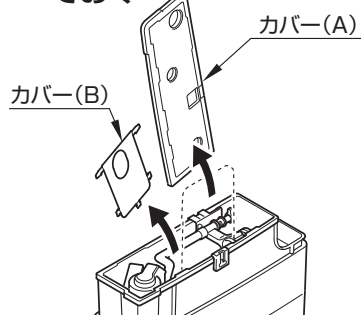


5 セットタンク

 「セットタンク」の部材を使用

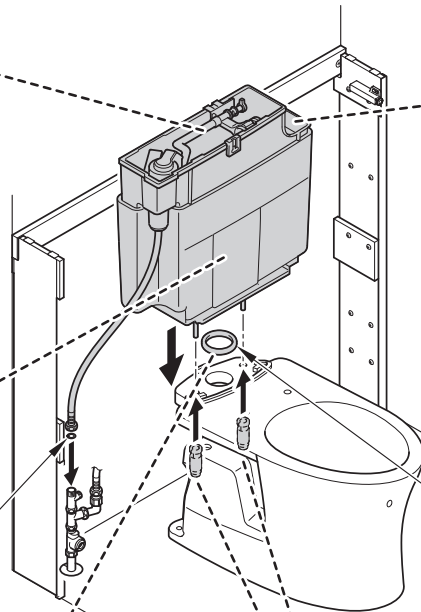
1 セットタンクを取り付ける

- ① カバー(A) (B)を取り出し
ておく



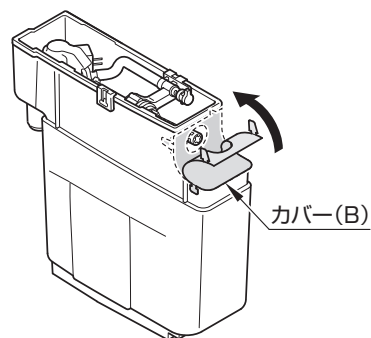
- ② セットタンクを大便器
にセットする

パッキン



パッキン
(セットタンクに付属)

- ⑤ カバー(B)を取り付ける




注意





必ず守る

セットタンクにパッキンがセット
されていることを確認する
水漏れして家財などをめらす財
産損害発生の原因となります。

- ③ 固定ナットでセットタンクを固定する

 取り付けかたは、P52を参照してください。

- ④ セットタンクの給水ホースを分岐金具
に取り付ける

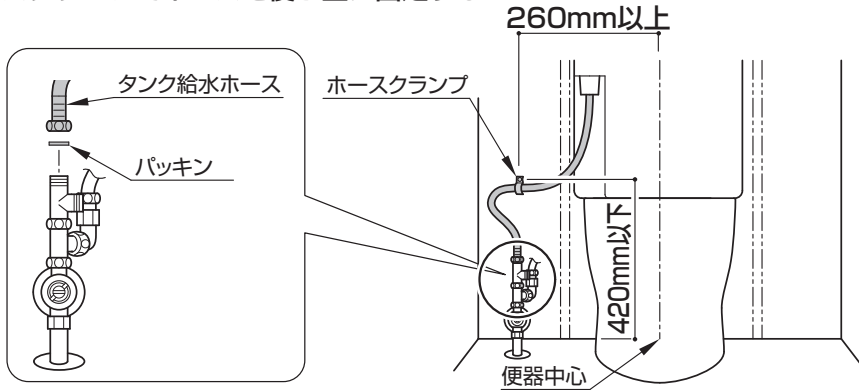
 水抜方式  の取り付けかたは、P51を
参照してください。

5 セットタンク (つづき)

水抜方式

止水栓が左側にある場合

- ① ホースクランプでホースを後ろ壁に固定する

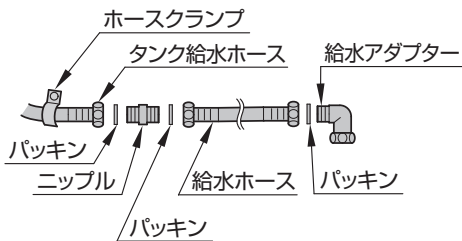


逆勾配注意

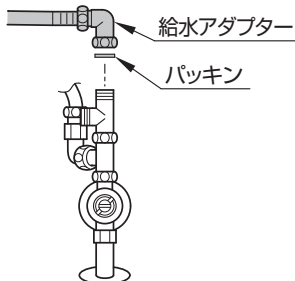
給水ホースがたるまないように固定する。

止水栓が右側にある場合

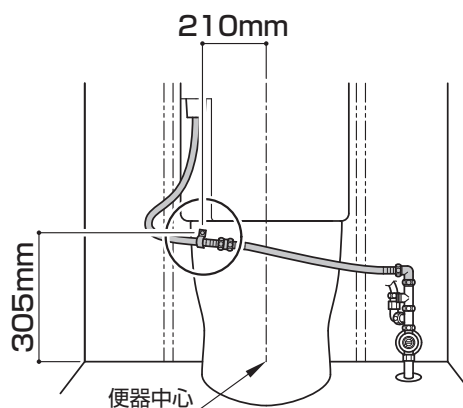
- ① タンク給水ホース、ニップル、給水ホース、給水アダプターを組み付ける。



- ② 給水アダプターを分岐金具に取り付ける。

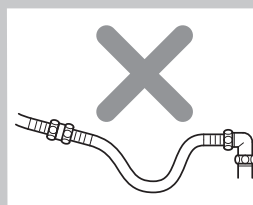


- ③ ホースクランプでホースを後ろ壁に固定する



逆勾配注意

給水ホース (TN98L2X30) がたるまないように固定する。



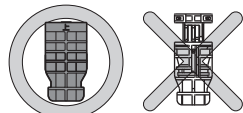
5 セットタンク (つづき)

固定ナットの取り付けかた

⚠ 注意

必ず守る

セットタンクを固定ナット(黒)以外で固定しない
水漏れするおそれがあります。



左右の固定ナットを確実に締める
左右の固定ナットがしっかり締まっていないと、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

固定ナットを手締めで回らなくなるまでかたく締め付けます。
※再度、左右が確実に締まっていることを確認してください。



⚠ 注意

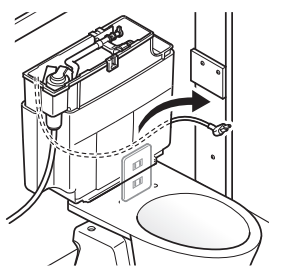


固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う
工具を使用すると破損するおそれがあります。



タンク(水抜き仕様)の場合

タンク用ヒーターの電源コードをコンセント側に取り回しておく



6 コアキャビネット

「側板・後横棧部、便器洗浄ユニット」の部材を使用

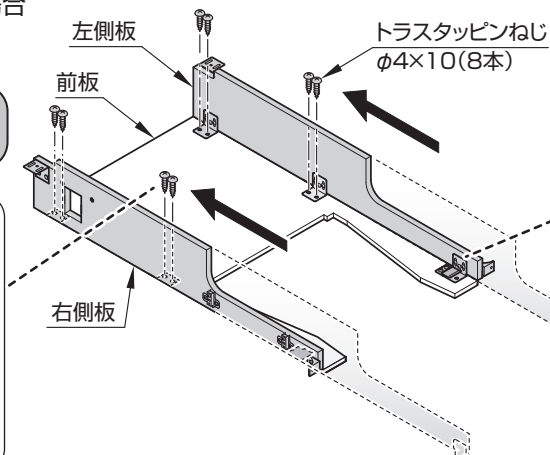
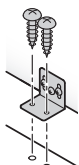
1 前板と側板 (コアキャビネット用) を組み立てる

※図はスリム収納タイプの場合

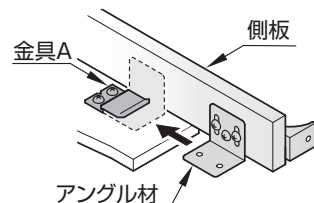
ポイント

ねじは手締めで行うこと

② 同梱のねじで下穴 (8カ所) に固定する



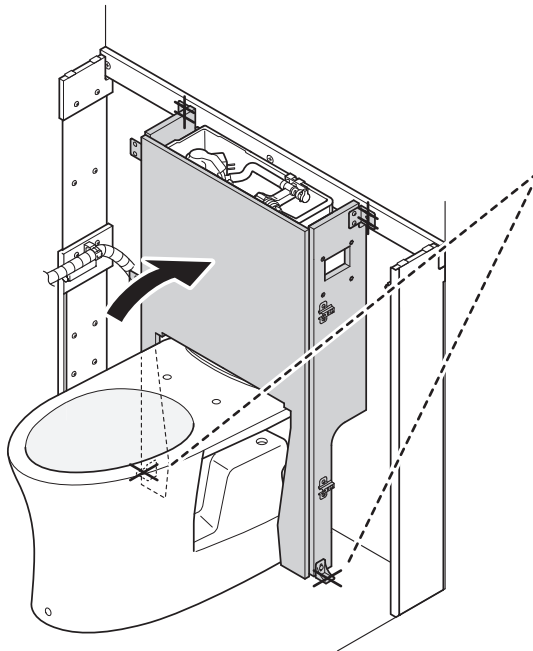
① 側板を下からスライドさせ、アングル材を金具Aに差し込む



6 コアキャビネット(つづき)

2 コアキャビネットを設置する

① コアキャビネットを大便器手前から浮かせて差し込む



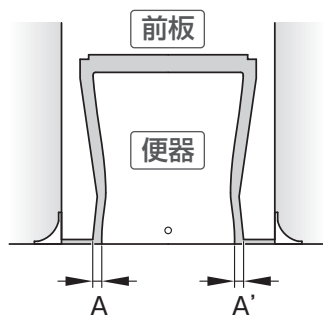
② 下図のようにA、A'が同じ寸法になるように調整し、床に下穴(φ3)をあけ、同梱のねじで床アングルを固定する

トラスタッピンねじ
φ4×30(2本)



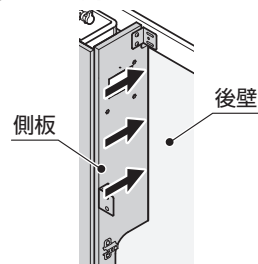
ポイント

A、A'寸法を均等にする

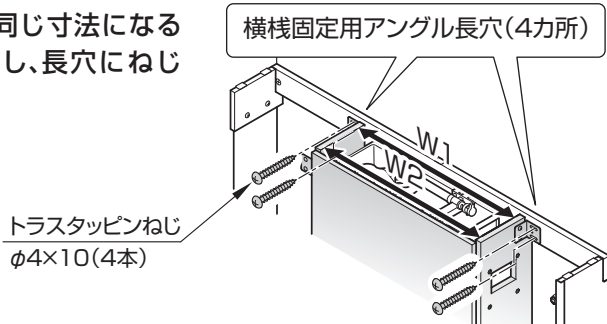


すき間がないように

後壁と側板(コアキャビネット用)のすき間がないように



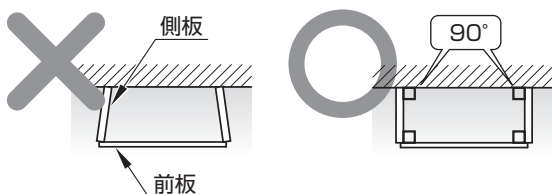
③ W1、W2が同じ寸法になるように調整し、長穴にねじで固定する



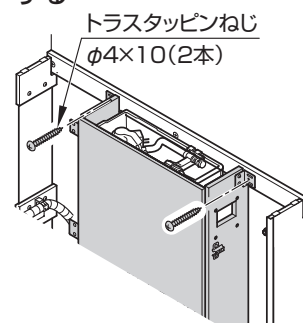
ポイント

左右均等に コアキャビネットの四隅が直角になっていること

W1、W2が同じ寸法でない場合は、長穴のねじをゆるめ、再度調整し直す



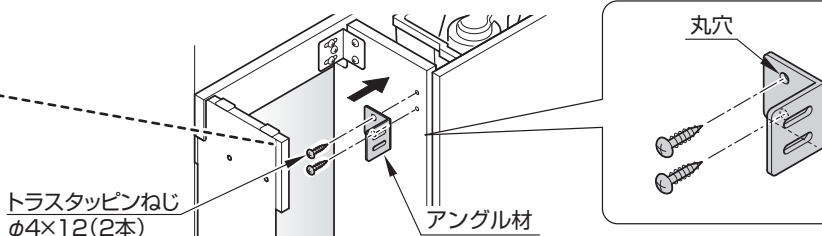
④ 再度、W1、W2の寸法を確認し、丸穴にねじで固定する



ポイント

ねじは手締めで行うこと

⑤ 手洗器側の側板にアングル材を同梱のねじで取り付ける
まるごと収納タイプの場合は不要です。

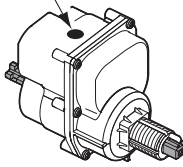


6 コアキャビネット(つづき)

3 洗浄レバー

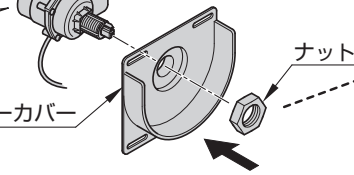
便器洗浄ユニットと同梱の説明書とは、取り付け向きが異なります。
ワッシャーA、ワッシャーBは使用しません。

●印を横(奥側)に向ける



便器洗浄ユニット

洗浄レバーカバー

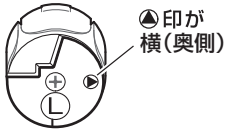


ナット

① 便器洗浄ユニットに
洗浄レバーカバーを取り付
ける

② ナットをしっかり締め付ける

③ ▲印を横(奥側)にしてストッパー
L(緑)をはめ込み、同梱のねじで
固定する



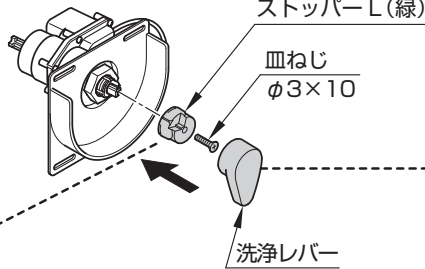
▲印が
横(奥側)

注意

ガタつきがないように
しっかり締め付けること

ストッパーL(緑)

皿ねじ
φ3×10

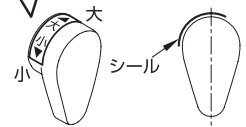


洗浄レバー

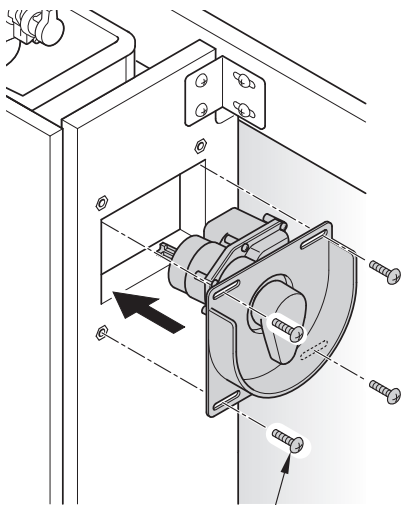
④ 「カチッ」と音がするまで
洗浄レバーを差し込む

シールの貼り付け

シールを貼る



3 部材の取り付け ①

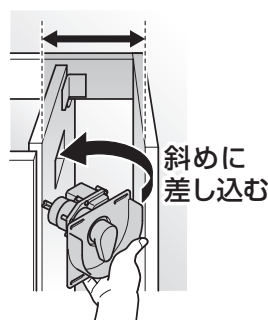


トラス小ねじ
M4×10(4本)

⑤ 便器洗浄ユニットをコアキャビネット側板の穴に差し込み、洗浄レバー
カバーを同梱のねじで固定する

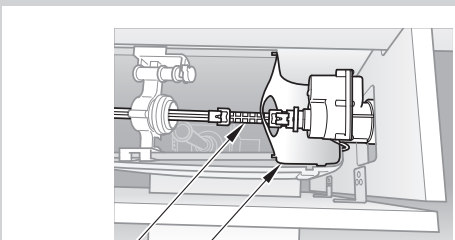
ポイント

間口が狭い場合



斜めに
差し込む

ジョイントがカバー(B)に干渉しないよう
に、洗浄レバーカバーの位置を調整する



ジョイント

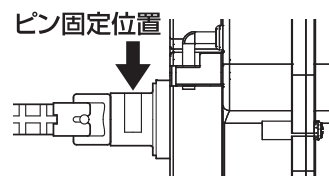
カバー(B)

⑥ ジョイントからピンを取り外す

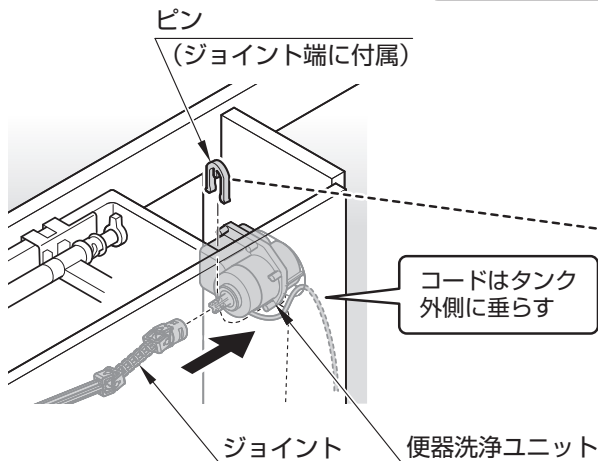
⑦ 便器洗浄ユニットのピン固定位置まで
ジョイントを差し込み、ピンで固定する

ポイント

ジョイントが抜けないことを確認する



ピン固定位置



ピン
(ジョイント端に付属)

コードはタンク
外側に垂らす

ジョイント

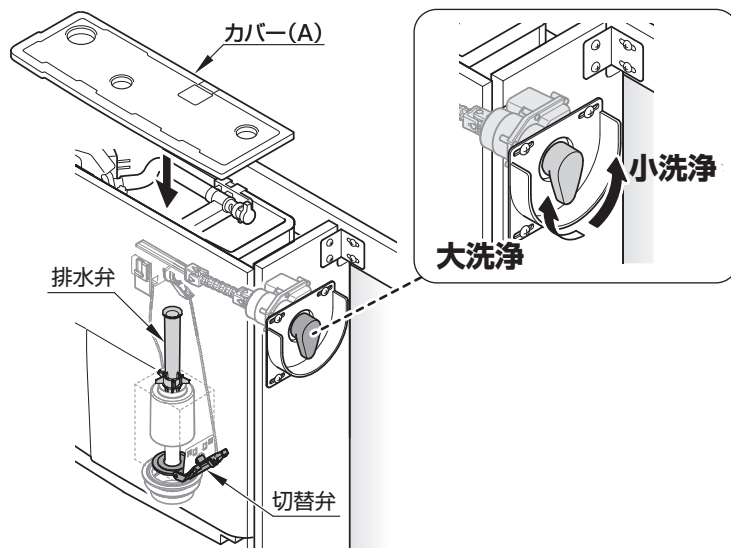
便器洗浄ユニット

6 コアキャビネット(つづき)

⑧ レバーと排水弁の作動を確認する

作動確認

- ① レバーが「大」側、「小」側へ正常に作動すること
- ② レバーを「大」側に回したときは、排水弁のみが引き上がること
- ③ レバーを「小」側に回したときは、排水弁・切替弁が引き上がること



⑨ カバー(A)を取り付ける

7 ウォシュレット 「大便器キャビネット部材、ウォシュレット、便器洗浄ユニット、大便器」の部材を使用

1 ウォシュレットを設置する

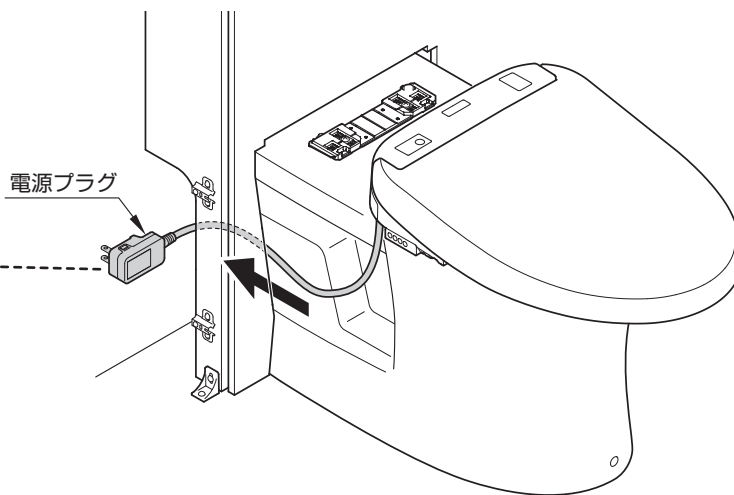
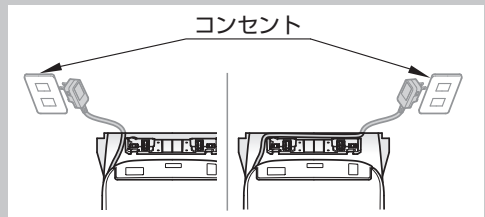
参照 詳しくは、ウォシュレット施工説明書を参照してください。
作業がしやすいように、ウォシュレットを手前に引き出しておく。

2 電源プラグ・給水ホース・便器洗浄ユニットプラグを前板切り欠きに通す

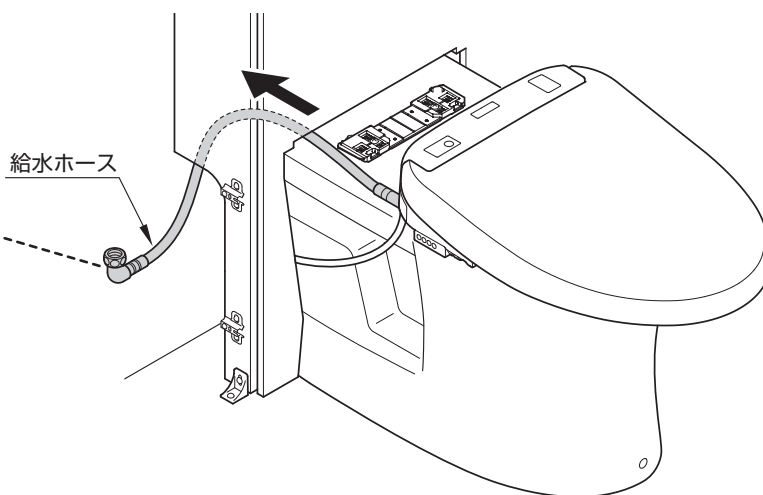
- ① 電源プラグをコンセント側の前板切り欠きに通す

ポイント

電源コードは必ずコンセント側の開口に通す



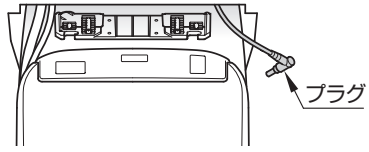
- ② 給水ホースを便器上端と前板のすき間から差し込む



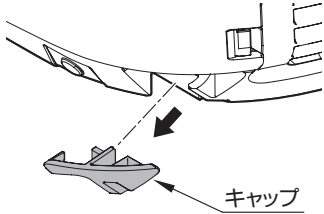
7 ウォシュレット(つづき)

③ プラグ(便器洗浄ユニット)を接続する

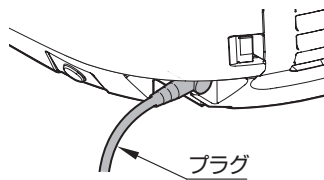
① プラグを右側から取り出す



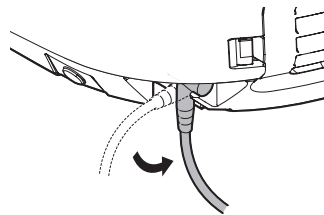
② キャップを外す



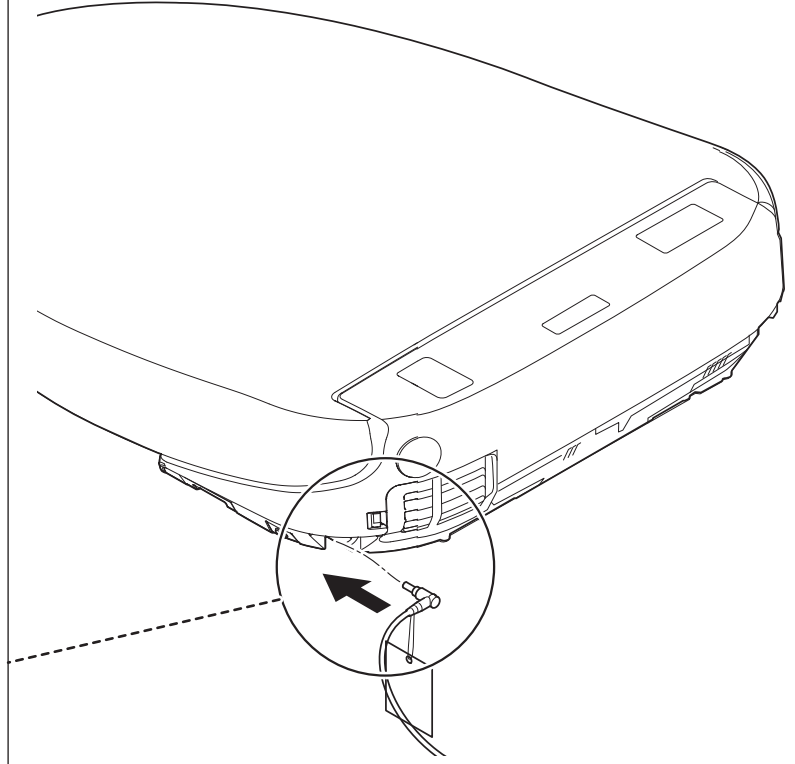
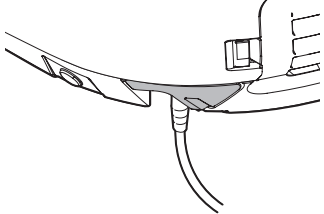
③ プラグを横向きに **根元まで確実に差し込む**



④ プラグを下向きに回す

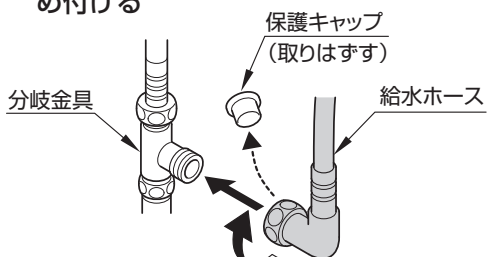


⑤ キャップを取り付ける

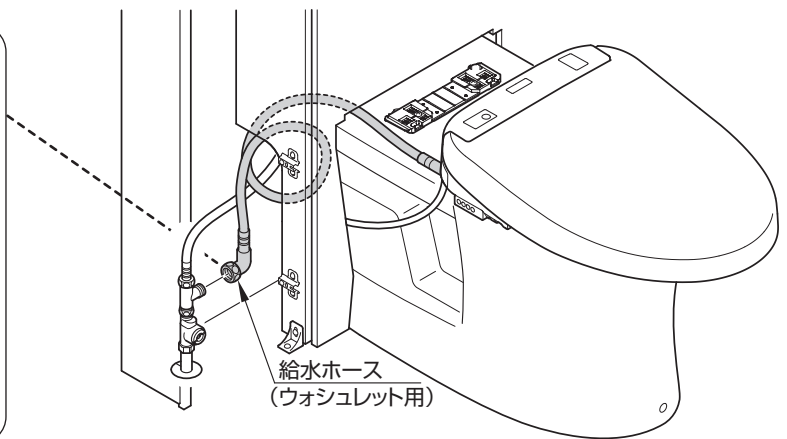


③ ウォシュレット給水ホースを接続する

① 分岐金具に給水ホースの袋ナットを締め付ける



※給水ホースを折り曲げたり、つぶしたりしないでください。



7 ウォシュレット(つづき)

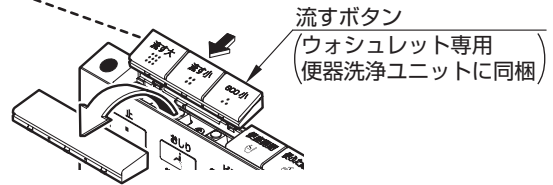
4 リモコンの設定と作動確認

① ウォシュレットの電源プラグをコンセントに差し込む
※ノズルがいったん出て戻る初期動作を行うか確認する

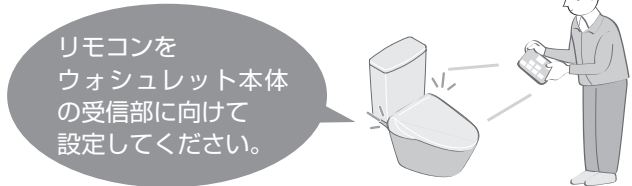
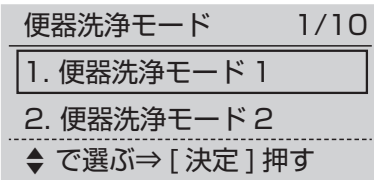
② 流すボタンを取り付ける
(流すボタン取付説明書参照)

ポイント

リモコンには流すボタンが取り付けられていません。
必ず取り付けてください。

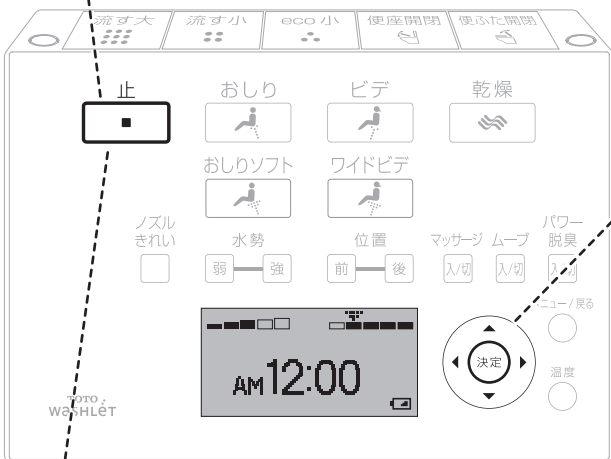


③ 止 10秒以上押す
※リモコンの液晶が下図のようになります。



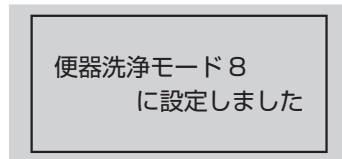
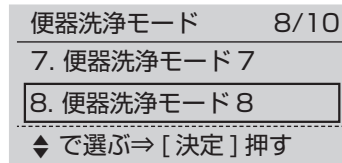
注意

モード設定はウォシュレット本体を取り付け、電源を入れた後に行ってください。
※取り付けずにモード設定をしても設定はされておられません。



※機種によっては、ボタンのレイアウトやリモコンのデザインなどが異なります。

④ 決定 ◆で「便器洗浄モード8」を選び 決定 を押す
ウォシュレット本体から電子音が1回鳴る



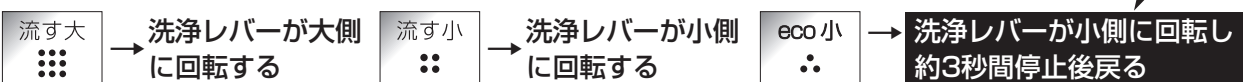
確認 決定後、下記表示になっているか確認してください



⑤ 止 押す → 設定完了

⑥ 作動を確認する
※連続して押すと作動しません。約10秒たってからもう一度ボタンを押してください。

重要



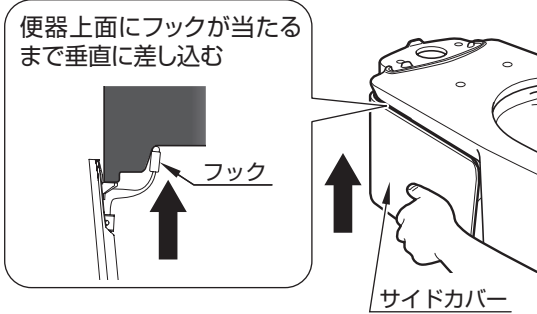
■正しく作動しない場合は、再度手順③から設定してください

7 ウォシュレット(つづき)

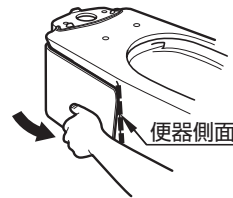
5 サイドカバーを取り付ける

取り付けかた

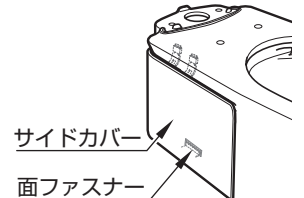
① サイドカバーを差し込む



② サイドカバーを便器側面にあわせる



③ 面ファスナー部をしっかりと押さえる

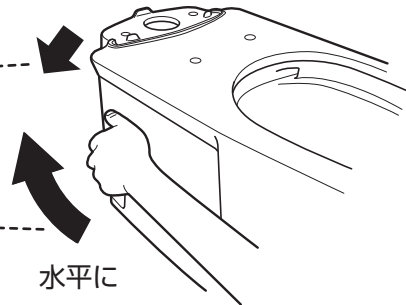


※面ファスナー部をしっかりと押さえて、サイドカバーが外れないことを確認してください。

取り外しかた

② 面ファスナーを外したあと、サイドカバーを下方向へ引っ張り外す。

① サイドカバー後方下側を持ち、水平に引っ張り、面ファスナーを外す。



フックが外れたときの対処方法

フックを持ち上げ、上スナップを軽く押しながら「カチッ」と音がするまで差し込む。

※もう一度、フックの左右、上面がサイドカバーに確実に差し込まれていることを確認してください。

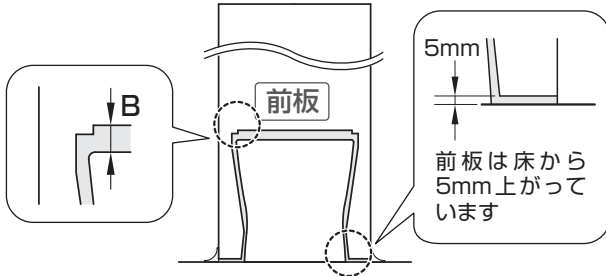


7 ウォシュレット(つづき)

6 はかま目地材を取り付ける

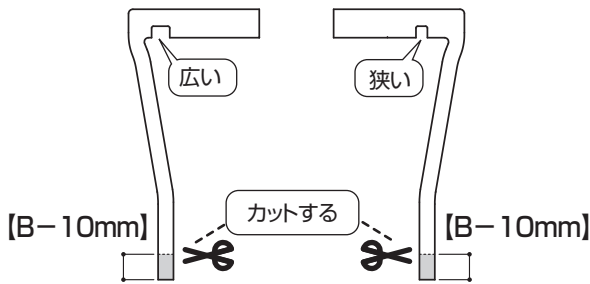
① はかま目地材を前板の下端に合わせてカットする【目安：B-10mm】

① 便器上端(リム面)と前板までの寸法 B を測る



② カットする

【はかま目地材 L(表面)】 【はかま目地材 R(表面)】



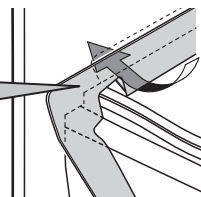
② ウォシュレットを手前に引き出し「はかま目地材 L」を前板に挟み込む

① 便器上面部分から前板に嵌める

※図はコンセントが左側の場合

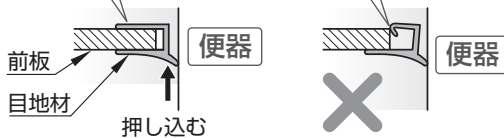
ポイント

給水ホース・電源コードを切り欠きに通す



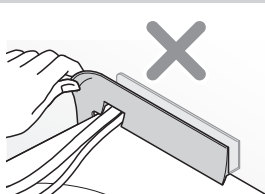
裏側にきちんと入れ込む

目地材が折れ曲がらないこと

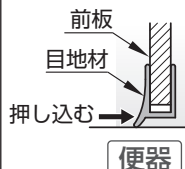


ポイント

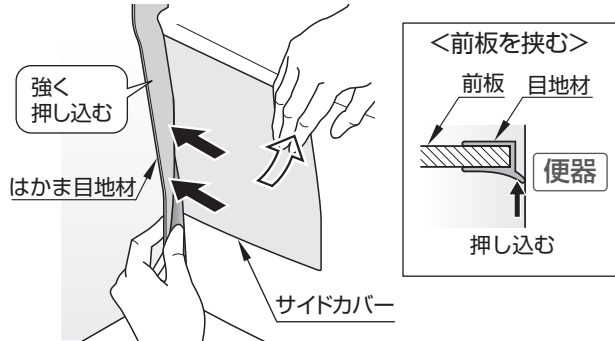
コーナー部を曲げない



<前板を挟む>

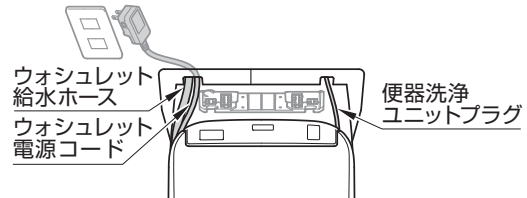


② サイドカバーがずれないように押えながら、はかま目地材を少しひねり上から順に押し込む

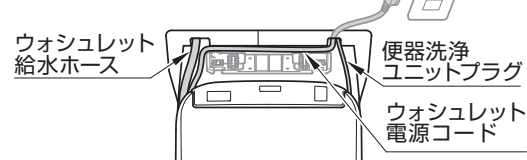


ホース・コードの取り回し

【コンセントが左側の場合】



【コンセントが右側の場合】



③ 同じ要領で「はかま目地材 R」を前板に挟み込む

ポイント

仕上がりは浮き・すき間がないこと

目地材が浮いている場合は、いったん外し、逆側に曲げて矯正する

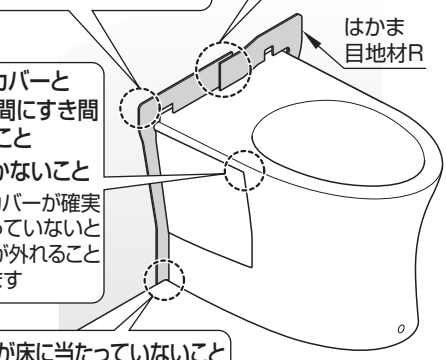
「はかま目地材 R」を上重ねる

サイドカバーと便器の間にすき間がないこと

ぐらつかないこと

サイドカバーが確実にハマっていないと目地材が外れることがあります

目地材が床に当たっていないこと
目地材が当たっていると浮き・すき間ができます



3 部材の取り付け ①

8 固定扉

「大便器キャビネット部材」の部材を使用

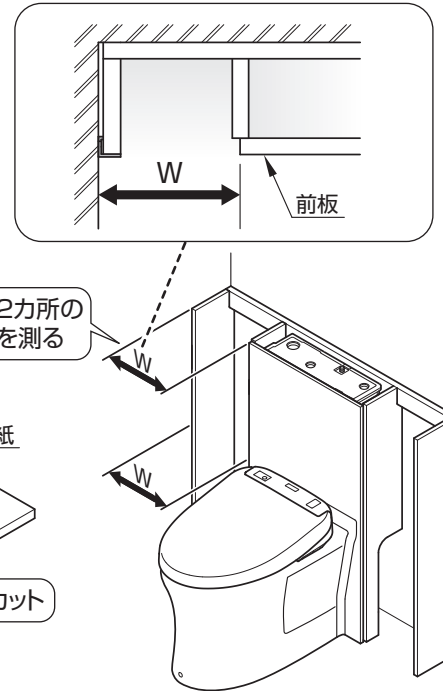
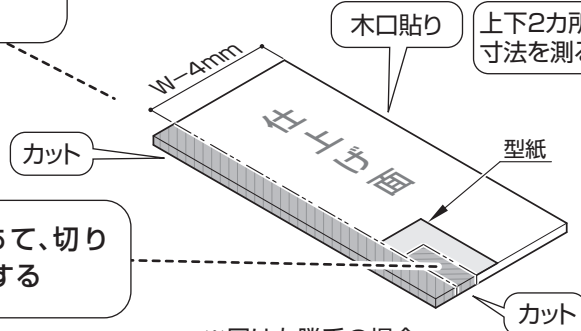
1 固定扉をカットする

ポイント

仕上げ面を上にしてカットすること

- ① 固定扉をW-4mmの幅にカットする

- ② 型紙(本書に同梱)をあて、切り欠きをけがいてカットする



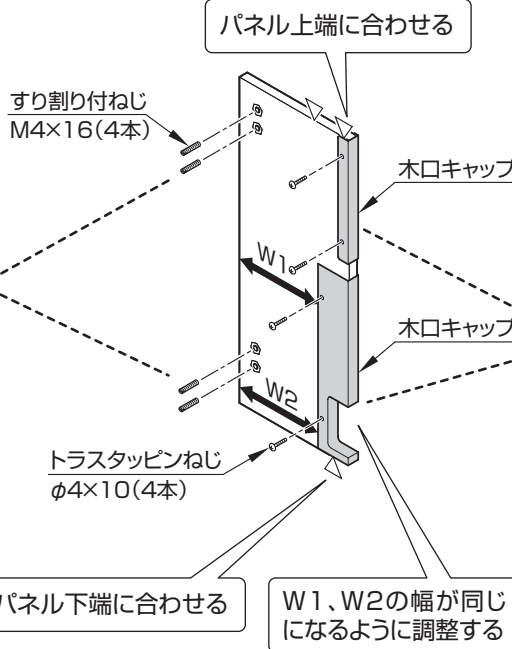
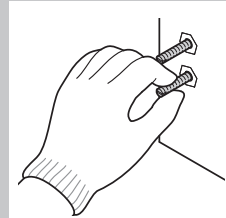
2 すり割り付ねじ、木口キャップを取り付ける

※図はスリム収納タイプの場合

- ② すり割り付ねじを取り付ける

ポイント

手で締める
(工具は使用しない)



- ① 木口キャップをはめて同梱のねじで取り付ける

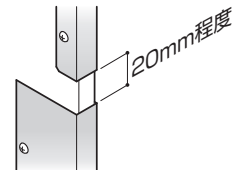
ポイント

ねじは手締めで行うこと

ポイント

すき間があるか確認

上下の木口キャップの間には、カウンターが当たる為、すき間ができます。

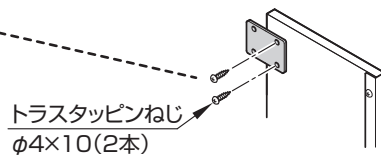


【まるごと収納タイプの場合】

- ③ 平板金を同梱のねじで取り付ける

ポイント

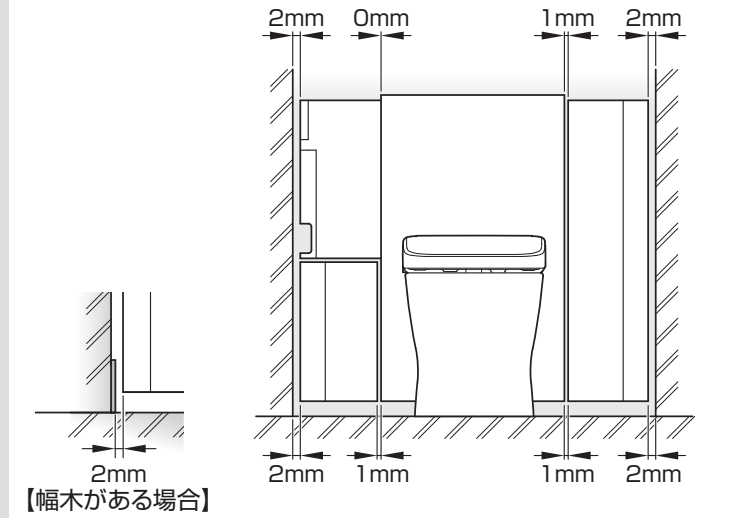
ねじは手締めで行うこと



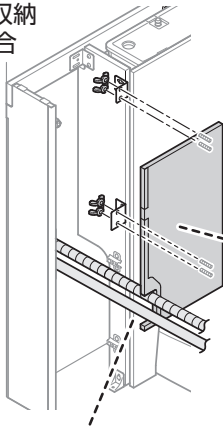
8 固定扉 (つづき)

3 固定扉を取り付ける

仕上げ状態 (目安)



※図はスリム収納タイプの場合



① 手洗器給・排水ホースを、カウンター部パネルの切り欠きに通す

※前板・固定扉に養生シートがある場合は、シートをはがしてください。

② 固定扉を取り付ける

ポイント

ねじは手締めで行うこと

固定方法

【上部】

蝶ナット (2個)

すり割り付ねじ

〈スリム収納タイプ〉

トラスタッピンねじ
φ4×10(2本)

〈まるごと収納タイプ〉

【下部】

蝶ナット (2個)

すり割り付ねじ

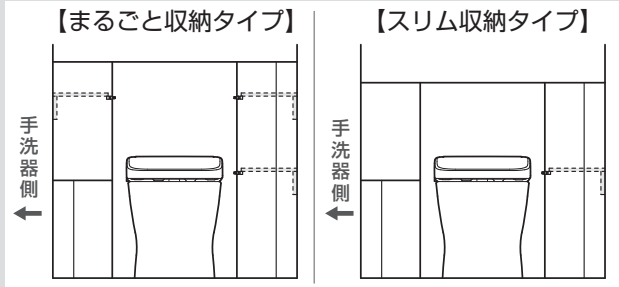
3 部材の取り付け ①

9 棚板・扉

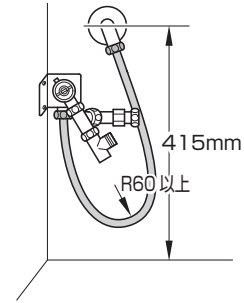
「大便器キャビネット部材、扉セット」の部材を使用

1 棚を取り付ける

棚板設置場所



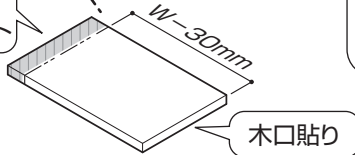
※給水位置が床仕上げ面から415mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。



※図はスリム収納タイプの場合

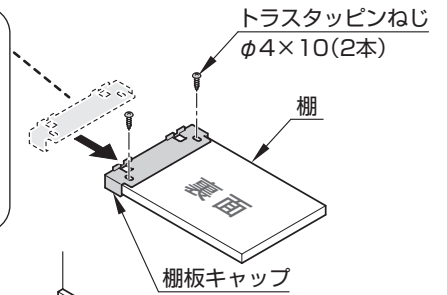
① 棚をW-30mmの幅にカットする

木口貼りされて
いない方をカット

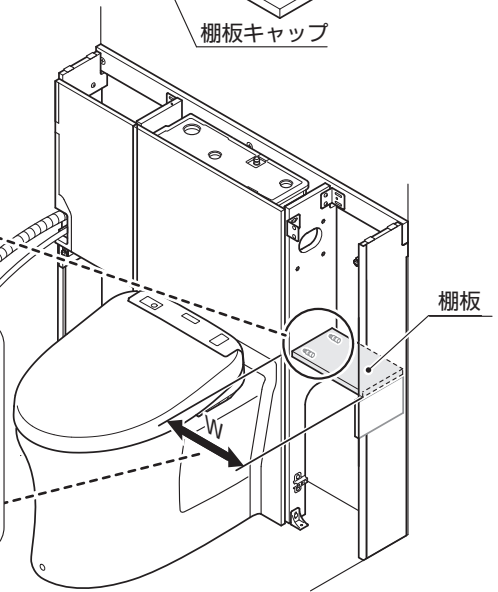
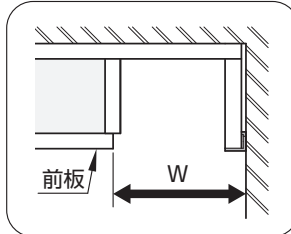
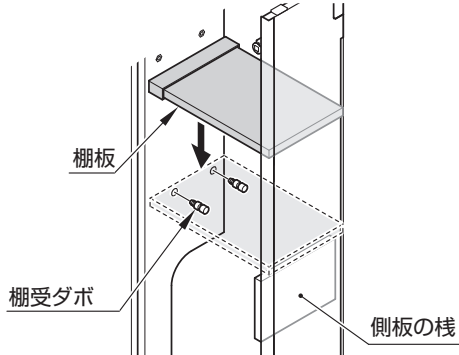


② 棚板キャップをかぶせ
同梱のねじで取り付ける

ポイント
ねじは手締めで行うこと

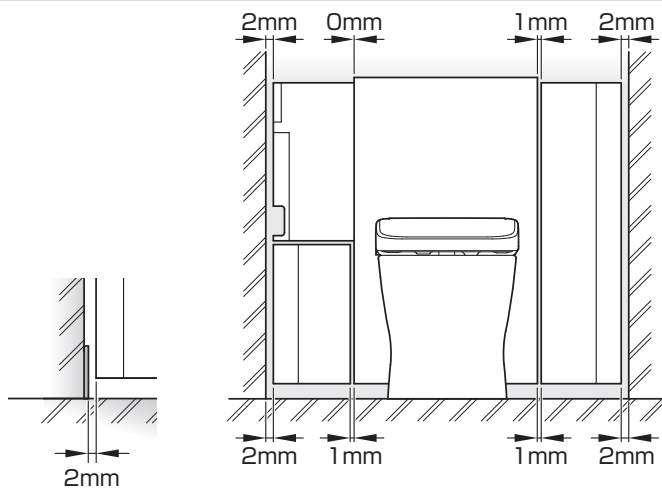


③ コアキャビネットの側板に棚受ダボを取り付け、棚板をセットする



2 扉を組み立てる

仕上げ状態 (目安)



9 棚板・扉 (つづき)

2 扉を組み立てる(つづき)

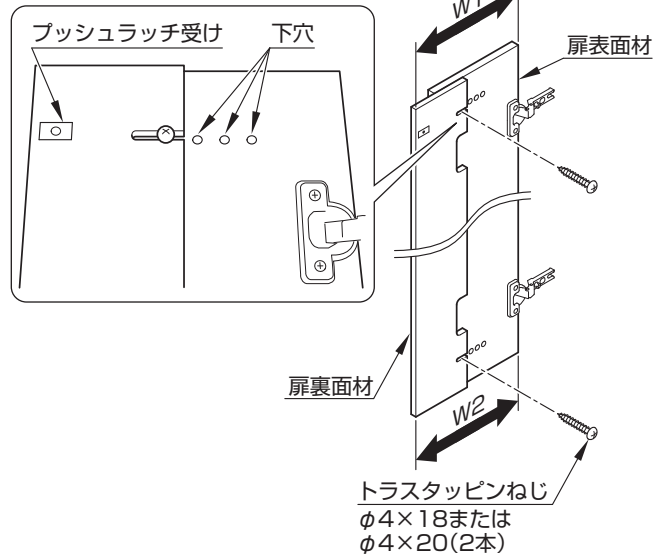
- ① 扉表面材と扉裏面材を重ね合わせ、 $W1 \cdot W2 \cdot W3 \cdot W4$ が $[W-3mm]$ になるように調整する。下穴にねじで固定する

※養生シートがある場合は、取り付け前にシートをはがしてください。

ポイント

- ・幅木がある場合は、幅木の厚さを引いてください。 $W-(3mm+幅木の厚さ)$
- ・ねじは手締めで行うこと
ねじを回しすぎると、ねじがきかなくなります。

※図は右扉セットの場合



ポイント

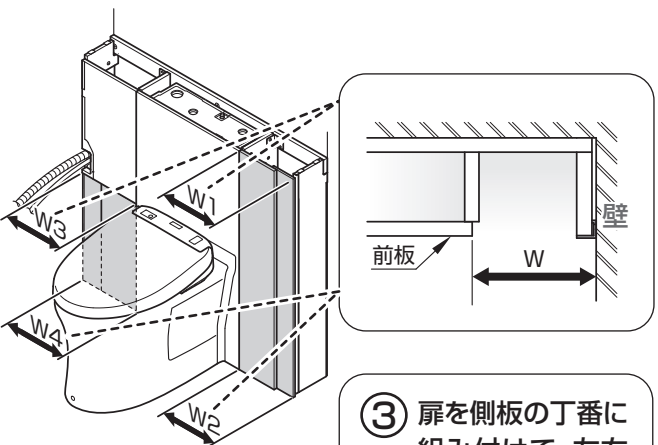
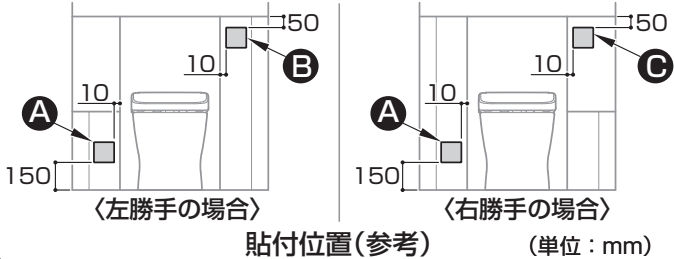
真ん中のねじは「5 部材の取り付け②」で固定する



トラスタッピンねじφ4×18またはφ4×20(1本)は「5 部材の取り付け②」で使用します。紛失しないようにしてください。

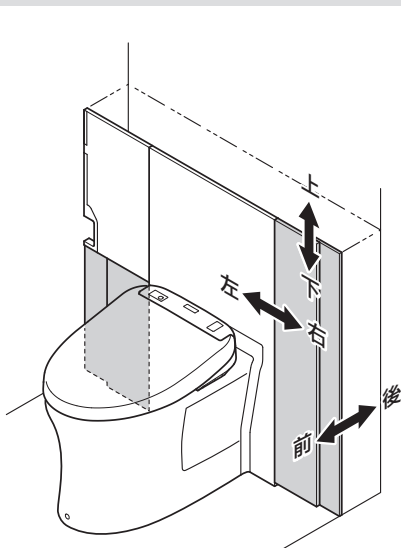
- ② 貼付面は水拭きし、乾燥後にラベルを貼り付ける

- A** 止水栓ラベル (GH04207V) **B** 便器洗浄ラベル (GH04208V) **C** 便器洗浄ラベル (GH04209V)
止水栓がある側に貼る



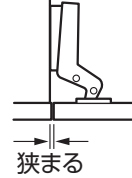
- ③ 扉を側板の丁番に組み付けて、左右のすき間を確認する

扉の調整方法

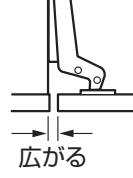


【左右調整】

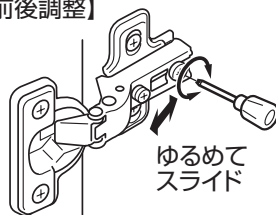
左回し



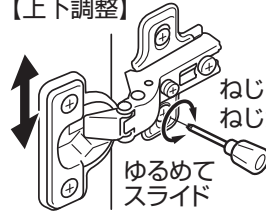
右回し



【前後調整】

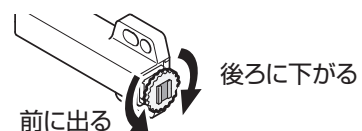


【上下調整】



ねじを回しすぎると
ねじがきかなくなります

※プッシュラッチ部も前後調整
することができます。



手洗器 Mサイズの場合

10-M	手洗器キャビネット、 カウンター	64
11-M	配管ブラケット	69
12-M	手洗器	70

10-M 手洗器キャビネット、カウンター 「手洗器カウンター部材、手洗器キャビネット」の部材を使用

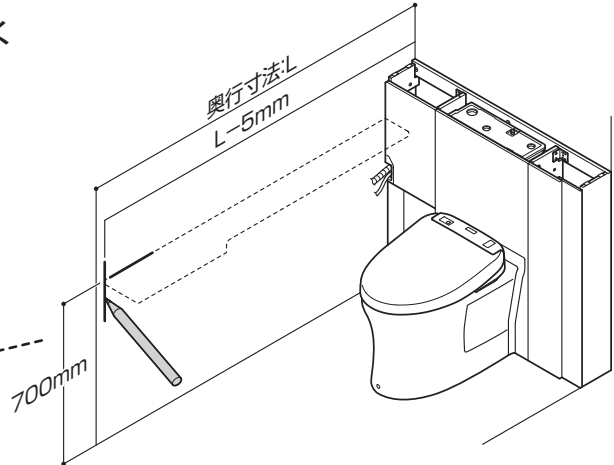
1 カウンターの取り付け位置をけがく

① 奥行寸法：Lを決める

参照 詳しくは、P.6「設置寸法について」を参照してください。

② 次の位置をけがく

- ・手洗器キャビネット端：L-5mm
- ・カウンター上端：床から700mm



2 手洗器キャビネットを加工する【電気温水器付自動水栓の場合】

※あらかじめ扉を外しておくと、施工がしやすくなります。

① 手洗器キャビネットの背板に、コンセント用の穴を開口する

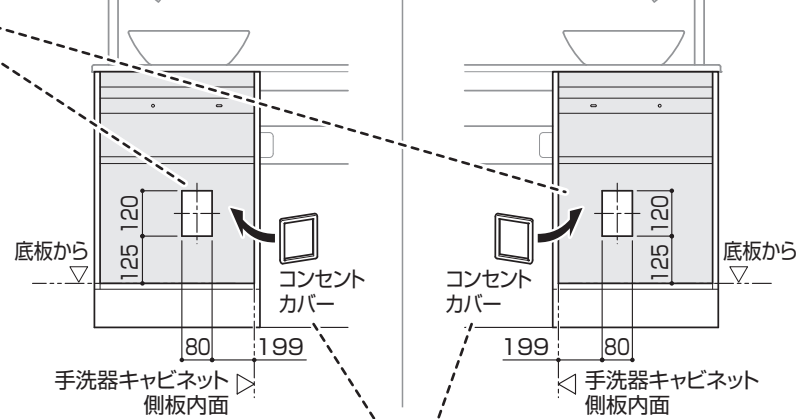
小型のこぎりを使用すると簡単にあけられます。

コンセント用 穴加工位置

(単位：mm)

【左勝手】

【右勝手】



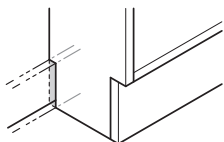
① けがき位置に手洗器キャビネットを仮置きし、水平を確認する

ポイント

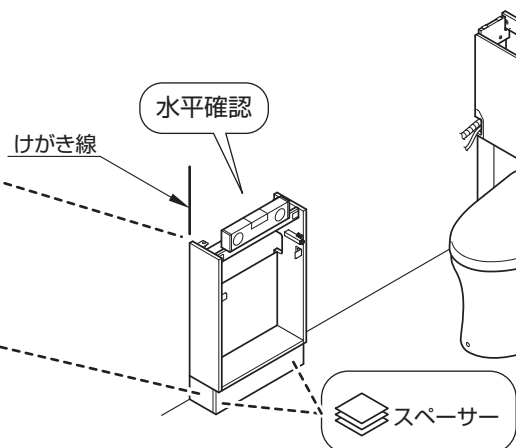
水平が出ていない場合

付属のスペーサーを入れ調整する

幅木がある場合は重なる部分のキャビネットまたは幅木をカット



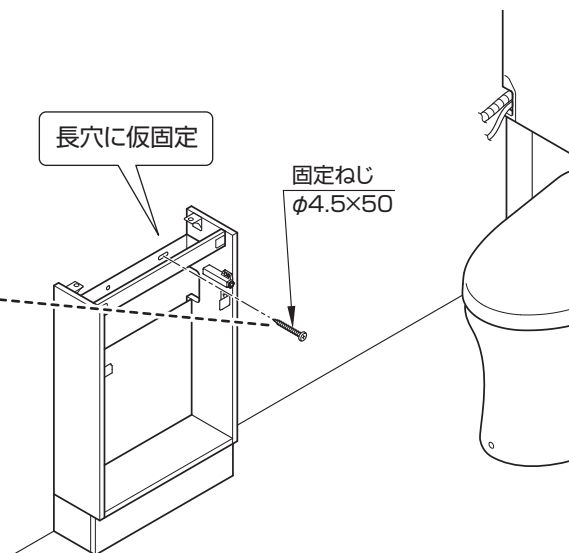
② コンセントカバーを貼り付ける



10-M 手洗器キャビネット、カウンター (つづき)

② 壁裏補強ありの場合、壁にキャビネット取付穴位置をけがき、下穴(φ4)をあける

③ 同梱のねじで仮固定する

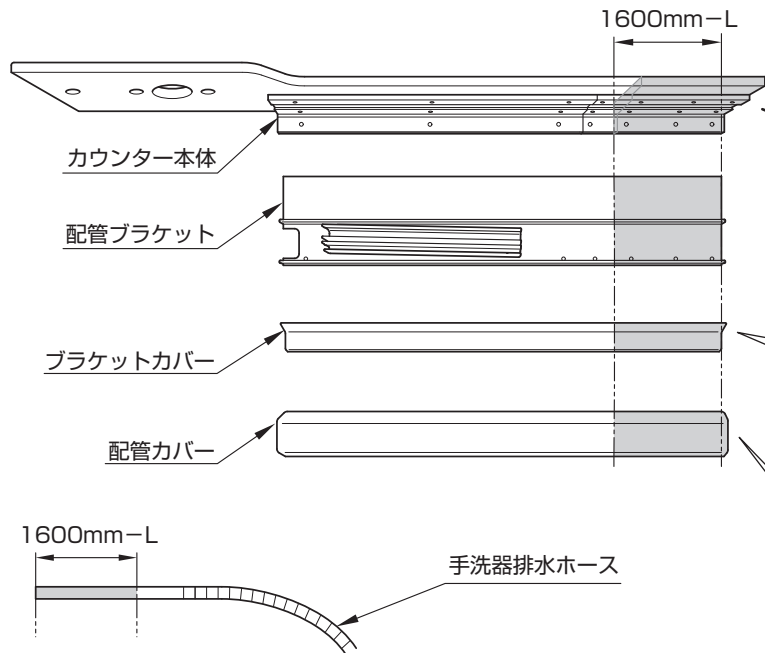


4 カウンター類を加工する

【カウンターをカットする場合】

① カウンター本体、配管ブラケット、配管カバー、ブラケットカバー、手洗器排水ホースをカットする

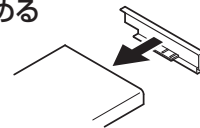
L: 奥行寸法 (奥壁からカウンター先端までの長さ)



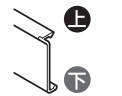
⚠ 注意

❗ **カットした面は滑らかに仕上げる**
必ず守る お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

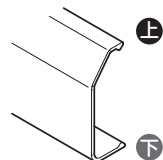
② カウンターのカット面にカウンターキャップをはめる



ブラケットカバーの向き



配管カバーの向き

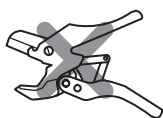


⚠ 注意



手洗器排水ホースをカットする際、押切タイプのパイプカッターは使用しない

必ず守る 手洗器排水ホースの断面が変形し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



ポイント

手洗器排水ホースは斜めにカットしない



10-M 手洗器キャビネット、カウンター (つづき)

5 手洗器キャビネット、カウンターを取り付ける

壁裏補強ありの場合

参照 壁裏補強なしの場合は、P.66を参照してください。

① カウンター本体を仮置きして水平を確認

施工補助材 (現場手配)

水平確認

固定扉に押し当てる

手洗器キャビネットにのせる

ポイント

施工補助材 (現場手配) を用いると
けがきやすい (単位: mm)

② 取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあける

4~5カ所

固定しない穴が出てくる場合があります

4カ所は必ず固定

固定扉側1カ所を固定
※キャビネットから20mm以下
の場合は端から2番目の穴を使用する

※固定用穴が5カ所以上ある場合、5カ所固定してください。

③ カウンターの水平を確認し、同梱のねじで固定する

固定扉に押し当てる

水平確認

トラスタッピンねじ φ4×40

化粧キャップ (2個)

固定ねじ φ4.5×50

⑤ 化粧キャップを取り付ける

④ 手洗器キャビネットを下図のように調整し、同梱のねじで本固定する

押し当てる

カウンターブラケット

手洗器キャビネット

M 3 部材の取り付け ①

10-M 手洗器キャビネット、カウンター (つづき)

5 手洗器キャビネット、カウンターを取り付ける

壁裏補強なしの場合

① 壁に間柱中心位置をけがく

② カウンター本体を仮置きして水平を確認する

手洗器キャビネットにのせる

水平確認

固定扉に押し当てる

③ カウンターブラケットに間柱の位置をけがき、貫通穴(φ5)をあける

カウンターブラケット

間柱の中心位置

φ5の下穴をあける

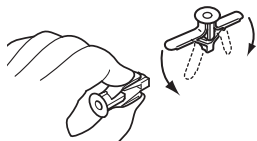
④ 壁に手洗器キャビネットとカウンターブラケットの取付位置をけがき、下穴(ねじ取付用:φ3、ボードアンカー用:φ9)をあける。

間柱位置は、ねじ固定のためボードアンカーは取り付けない

⑤ 壁にボードアンカー(オプション)を取り付ける

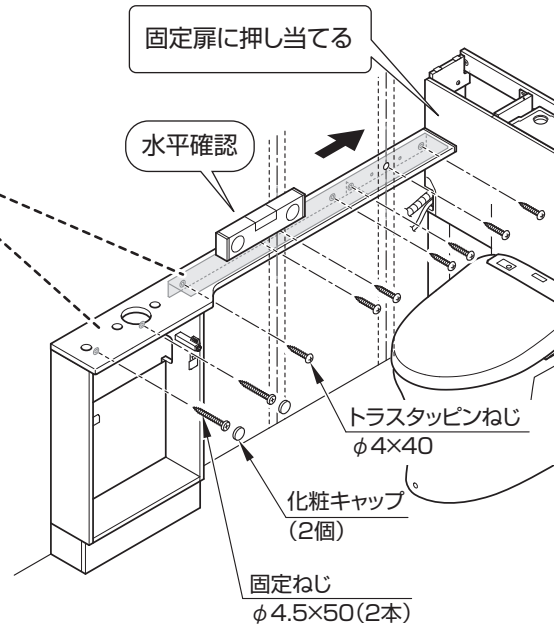
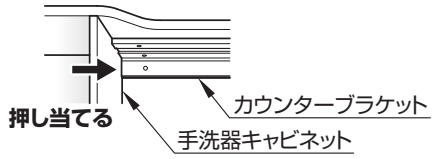
ポイント

ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む



10-M 手洗器キャビネット、カウンター (つづき)

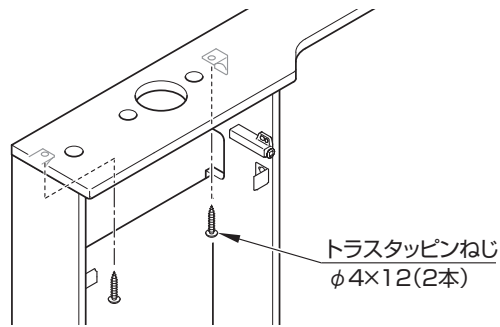
⑥ 手洗器キャビネットを下図のように調整し、同梱のねじで本固定する



⑥ 手洗器キャビネット、カウンターを連結する

ポイント

ねじは手締めで行うこと



11-M 配管ブラケット

「手洗器カウンター部材」の部材を使用

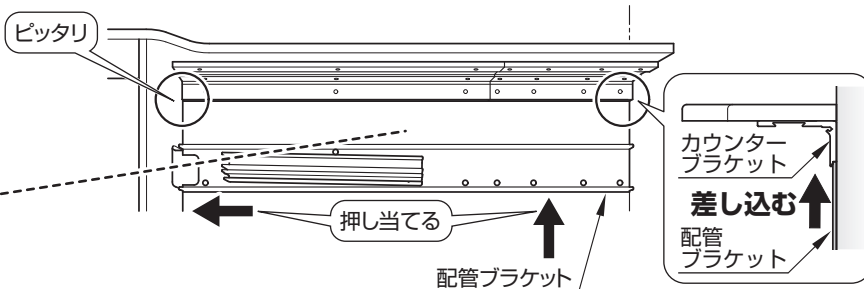
1 配管ブラケットを取り付ける

- ① 配管ブラケットをカウンターと手洗器キャビネットに押し当てる

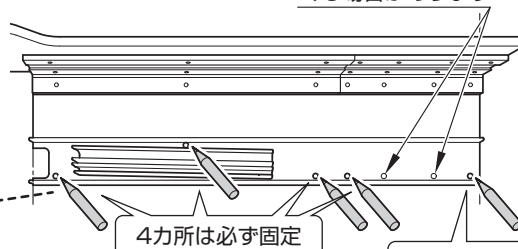
ポイント

取り付け時の注意点

この位置がずれると正しい位置に取り付けができません。



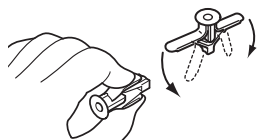
固定しない穴が出てくる場合があります



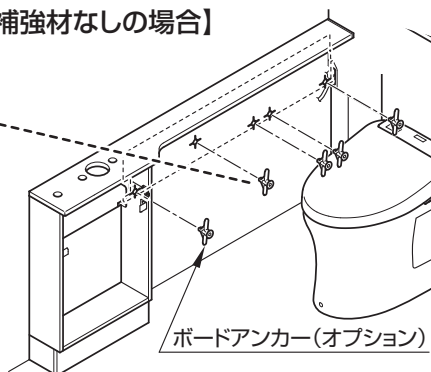
- ② 壁に取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあける
【補強材なしの場合】
ボードアンカー用下穴(φ9)をあけ、ボードアンカー(オプション)を取り付ける

ポイント

ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む



【補強材なしの場合】



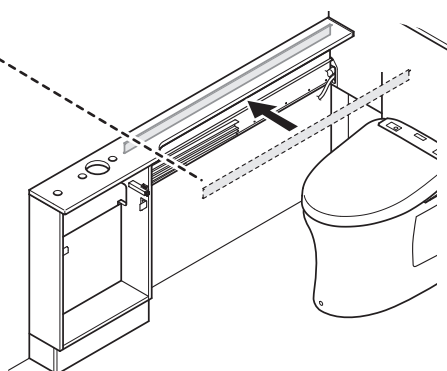
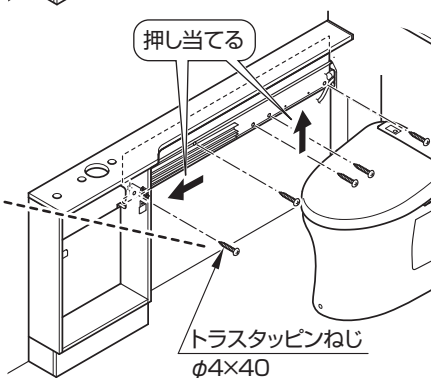
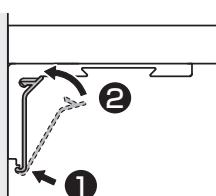
- ③ 配管ブラケットをカウンターと手洗器キャビネットに押し当てながら、同梱のねじで固定する

- ④ ブラケットカバーを取り付ける

ポイント

ブラケットカバーをはめ込む

カウンターに引っ掛けるようにブラケットカバーをセットする



1 排水金具を取り付ける

右図のように排水金具を手洗器にセットする。
ねじ部にシリコン系シーリング剤を塗布し、接続管を締める。

ポイント

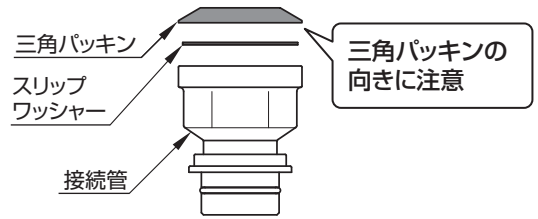
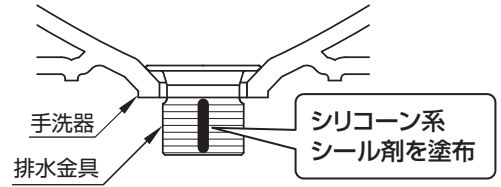
締め付け力の目安としては、手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらいが適切です。

注意

排水金具ねじ部には、必ずシリコン系シーリング剤を塗布する
必ず守る
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

注意

接続管を締め過ぎない
禁止
排水金具が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



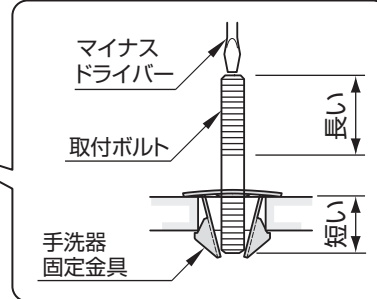
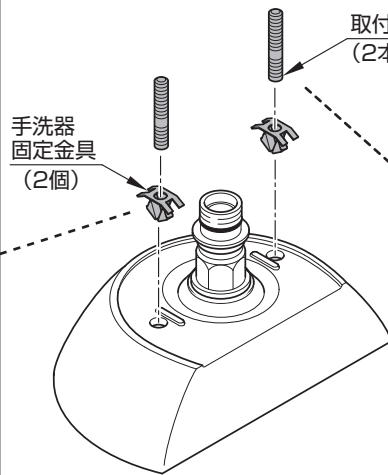
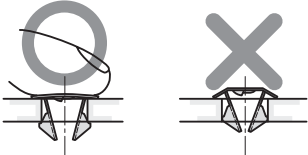
2 手洗器固定金具を取り付ける

① 手洗器裏面の穴に手洗器固定金具を2個取り付ける

ポイント

手洗器固定金具は手洗器を平らなところに置き、陶器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む

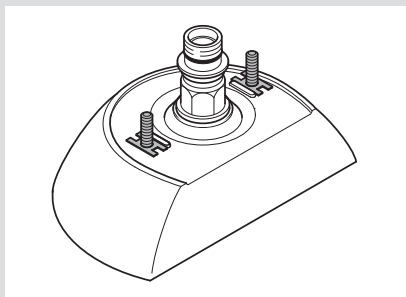
押し込みが足りないと、取付ボルトが途中までしか入らず、手洗器が固定できません。



② マイナスドライバーで取付ボルトを2本取り付ける

ねじが加工されている部分が見えなくなるまで締め付けてください。

取り付け状態



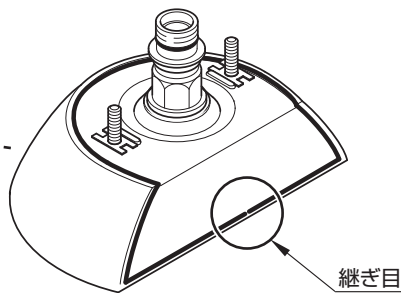
12-M 手洗器 (つづき)

3 クッション材を取り付ける

- ① 手洗器裏面の汚れをふき取り、カウンター・壁に接する部分にクッション材を貼る

ポイント

クッション材を手洗器の端から少し内側に貼り付ける
クッション材は、手洗器の端から少し内側に貼り付けるときれいに仕上がります。



4 手洗器を取り付ける

- ① 左右の位置を調整し、手洗器をカウンターに固定する

ポイント

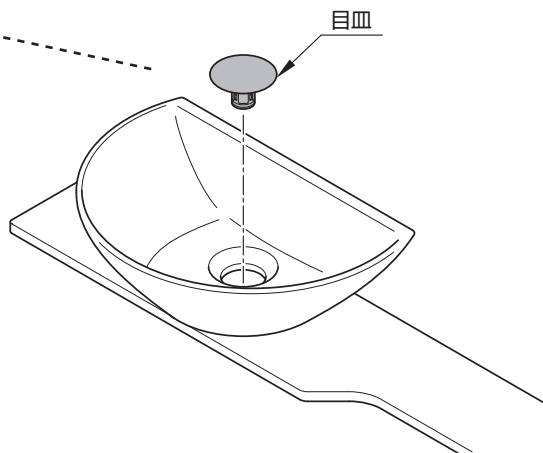
手洗器を壁に押し当てる

ポイント

手締めすること

ワッシャー
(2枚)
取付ナット
(2個)

- ② 目皿を排水口に、しっかりはめ込む



12-M 手洗器 (つづき)

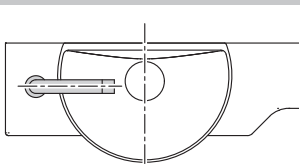
5 水栓金具を取り付ける

【ハンドル式水栓の場合】

水栓金具をカウンターに取り付ける

ポイント

吐水口の向きに注意



ハンドル式水栓金具

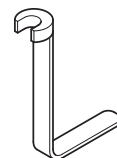
ゴムパッキン

菊座金

六角ナット

ポイント

TZ工具を使用すると作業がしやすくなります



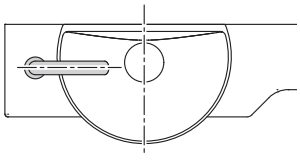
別売品
品番：TZY15N または
TZ15L

【自動水栓の場合】

水栓金具をカウンターに取り付ける

ポイント

吐水口の向きに注意



自動水栓金具

ゴムパッキン

座金

六角ナット

パッキン

座金

六角ナット
連結ホース

センサーコード

6 手洗器排水ホースの仮組み、カット

① 手洗器排水ホースを仮組みする

② カット位置をけがく

③ 手洗器排水ホースを外して
カットする

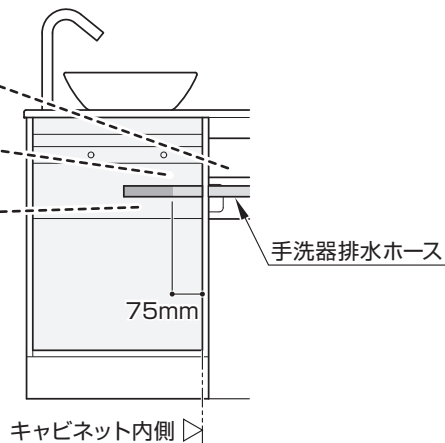
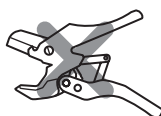
注意

手洗器排水ホースをカットする際、押切タイプの
パイプカッターは使用しない



必ず守る

手洗器排水ホースの断面が変形し、
水漏れして家財などをぬらす財産
損害発生の原因となります。

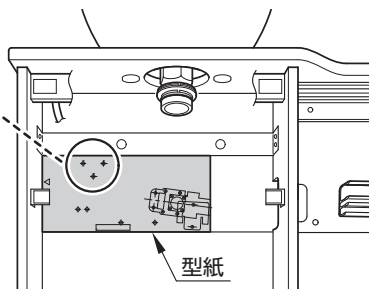


キャビネット内側▷

12-M 手洗器 (つづき)

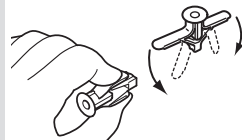
7 取付穴位置をけがき、下穴をあける【自動水栓の場合】

後壁に型紙で取付穴位置を
けがき、下穴(φ3)をあける
自動水栓:5カ所
電気温水器付自動水栓:9カ所



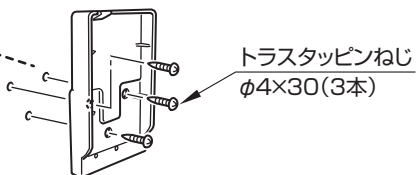
【下地が石こうボードの場合】
下穴(φ9)をあけ、ボードアンカーを入れる

ボードアンカー(オプション品)の羽を
折りたたんで
下穴(φ9)に
差し込む



8 コントローラー固定材の取り付け【自動水栓の場合】

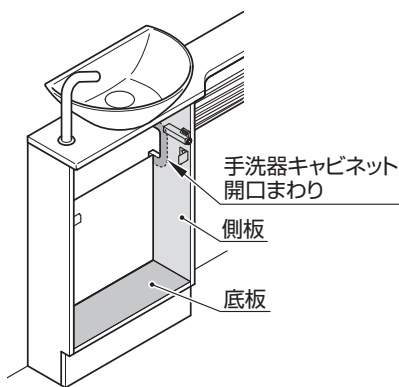
下穴に合わせて、コント
ローラー固定材を同梱の
ねじで取り付ける



9 排水トラップの取り付け

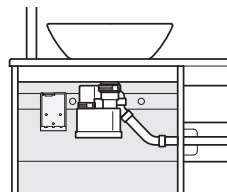
ポイント

- 接着剤を塗る前に、壁・手洗器キャビネット内面の側板・底板を養生する
接着剤が壁・手洗器キャビネットに付着し、汚れます。
- 手洗器キャビネットの開口まわり(手洗器キャビネットの内側と外側)をマスキングテープで養生する

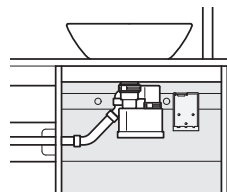


排水トラップ取り付け例

【左勝手】

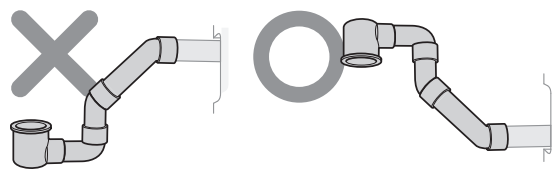


【右勝手】

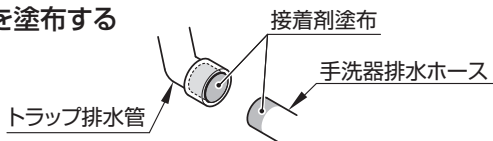


ポイント

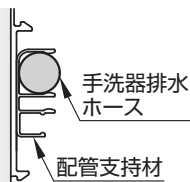
接着する際には向きに注意



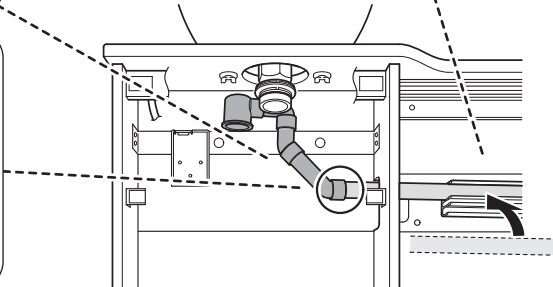
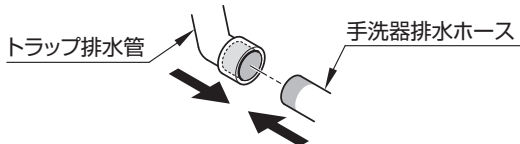
- ① 手洗器排水ホースを配管支持材から外し、手洗器排水ホースの先端とトラップ排水管に塩ビ系接着剤を塗布する



- ② 手洗器排水ホースを配管支持材にはめ込む



- ③ 手洗器排水ホースをスライドさせて、手洗器キャビネット内へ入れ、トラップ排水管を接続する

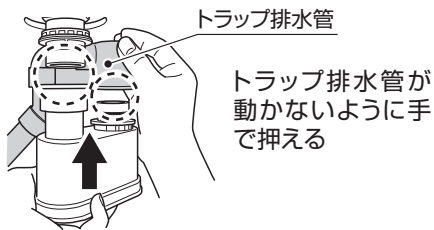


3 部材の取り付け ①

M

12-M 手洗器 (つづき)

④ 2カ所を同時にまっすぐ差し込む



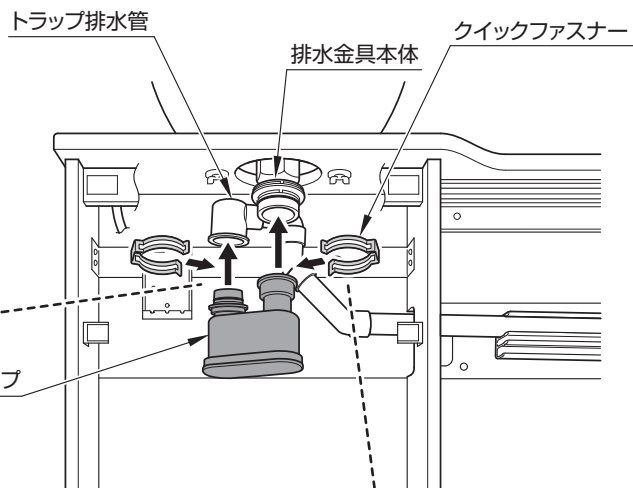
⚠ 注意

斜めに差し込まない

水漏れして家財などをぬらす
財産損害発生の原因となります。



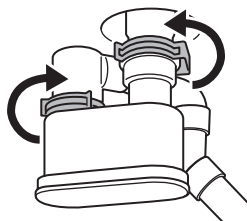
禁止



⑤ クイックファスナーにて固定

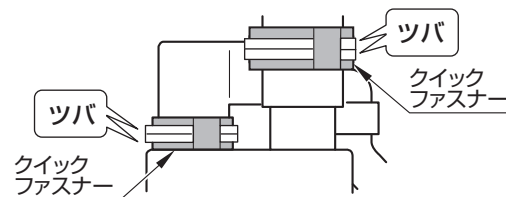
⚠ 注意

クイックファスナーが正しく固定されて
いることを確認する



必ず守る

クイックファスナーの全周にツバが
かかっていることを確認する

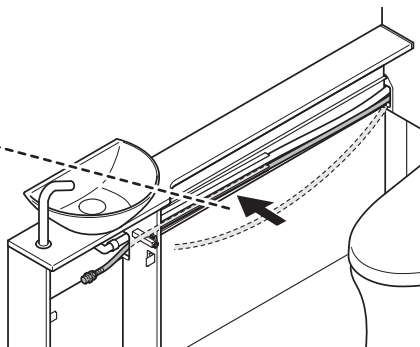
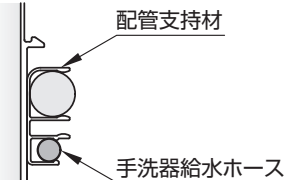


水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

3 部材の取り付け ①

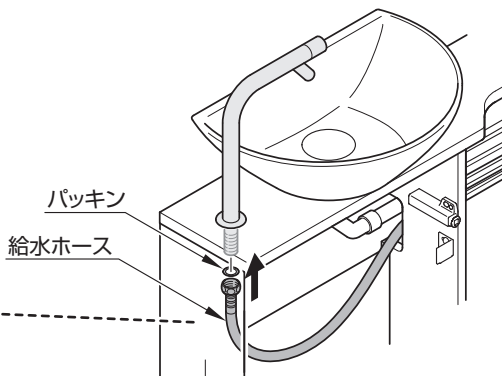
10 手洗器給水ホースの接続

① 手洗器給水ホースを配管 支持材にはめ込む



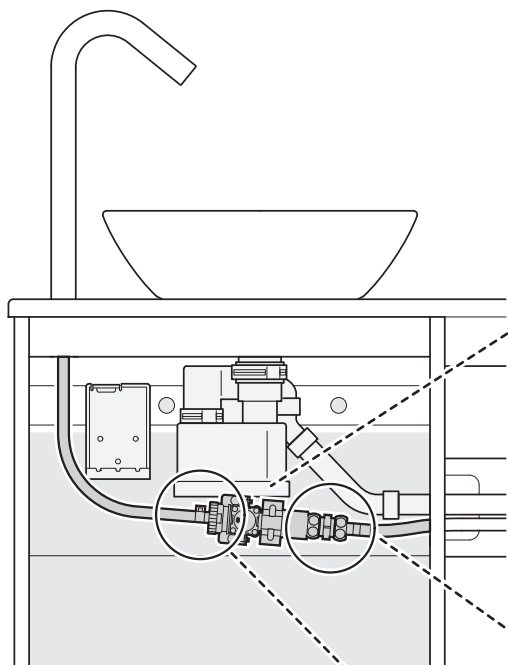
【ハンドル式水栓の場合】

② 手洗器給水ホースを 接続する



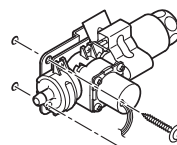
12-M 手洗器 (つづき)

【自動水栓・電気温水器付自動水栓の場合】



※図は自動水栓の場合

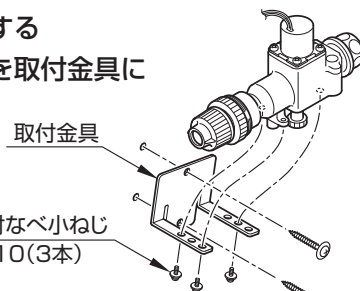
② 自動水栓機能部を後壁の下穴に同梱のねじで固定する



座金付タッピンねじ
φ4.5×38(2本)

寒冷地の場合

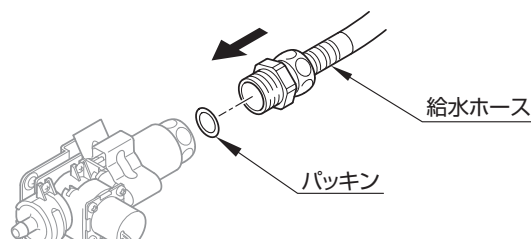
① 取付金具を固定する
② 自動水栓機能部を取付金具に固定する



取付金具
座金付なべ小ねじ
M4×10(3本)

座金付タッピンねじ
φ4.5×38(2本)

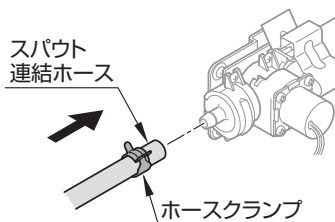
③ 自動水栓機能部に給水ホースを接続する



給水ホース

パッキン

④ スパウト連結ホースを適切な長さに切断し、接続する

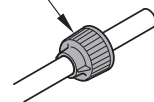


スパウト
連結ホース

ホースクランプ

寒冷地の場合

袋ナット

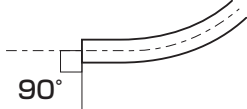


注意



必ず守る

- スパウト連結ホースは、切断面が垂直になるように切断する
- スパウト連結ホース接続後、軽く引っ張り抜けないことを確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



3 部材の取り付け①

M

12-M 手洗器 (つづき)

⑤ コントローラーを取り付ける

①

センサー
コネクター(赤)
センサー
コネクター(緑)

自動水栓スパウトおよび電磁弁から
出ているコネクターを接続する

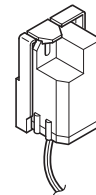
②

コントローラー
固定材

コントローラー下部をひっかけ
ながらはめ込む

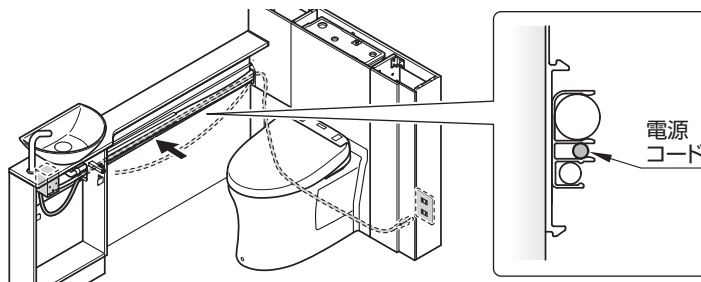
③

カチッ



⑥ 電源コードを配管支持材にはめこむ プラグを、大便器側のコンセント近傍 まで配置しておく

※電気温水器の場合は、手洗器キャビネット内の
コンセントに接続するので不要です。

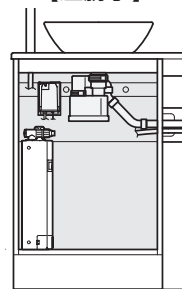


【電気温水器付自動水栓の場合】

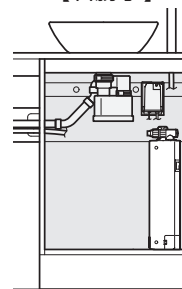
参照 詳しくは、電気温水器の施工説明書を参照してくだ
さい。

電気温水器取り付け位置

【左勝手】



【右勝手】

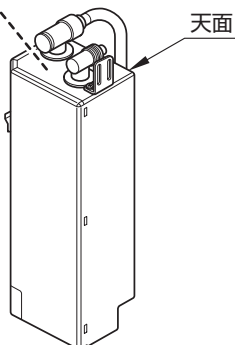
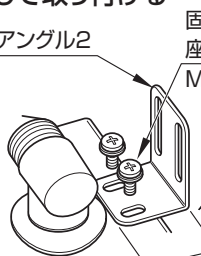


① 電気温水器に固定アンクル2を同梱の ねじで取り付ける

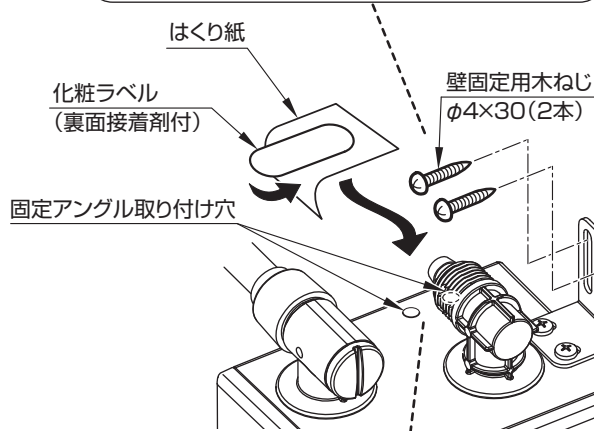
固定アンクル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)

短辺側を
本体に取り付ける

31.5mm

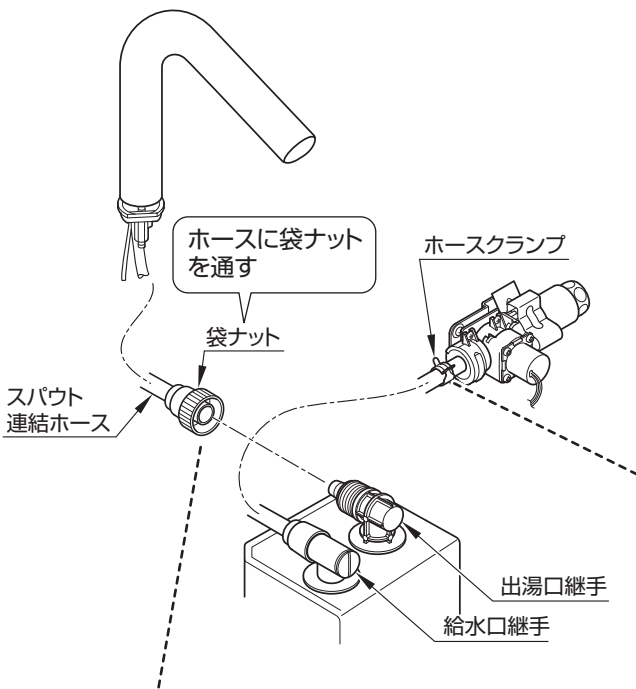


② 本体を同梱のねじで取り付ける

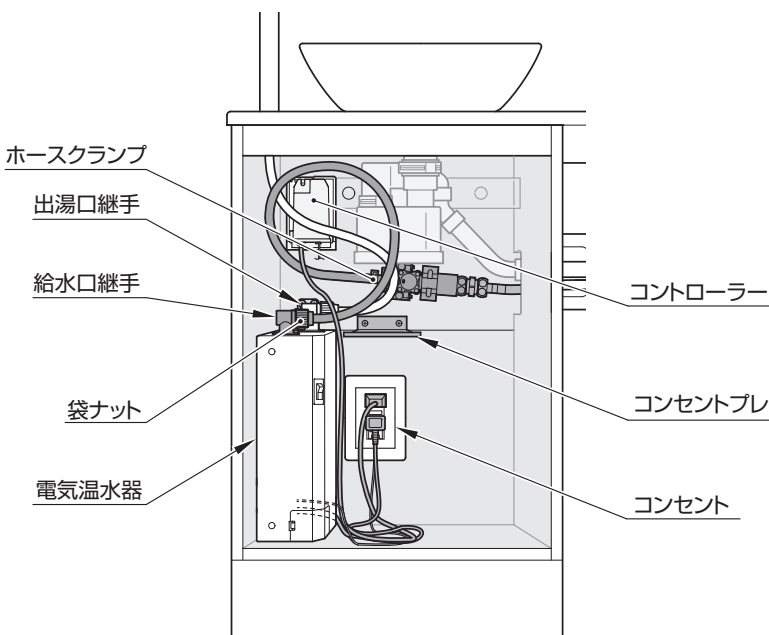


③ 化粧ラベルで電気温水器本体
上部の固定アンクルを取り付
けない方(長辺側)の穴に貼り
付けてふさぐ

12-M 手洗器 (つづき)



⑤ 出湯口継手にスパウト連結ホースを差し込み、袋ナットで締め付ける



注意



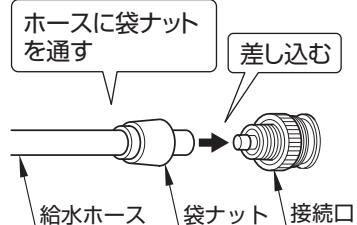
必ず守る

電気温水器の電源コード・アース線は、キャビネットと電気温水器との間や、扉に挟まないように取り回す
コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

④ ホースと機能部をホースクランプで締め付ける



寒冷地の場合



注意

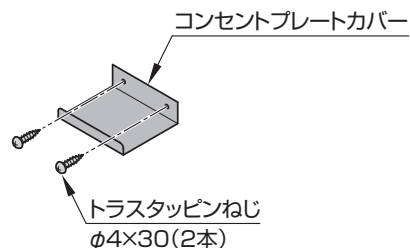


必ず守る

- ・ホースが確実に差し込まれているか確認する
- ・ホースが折れ曲がることのないように注意する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

⑥ コンセントプレートカバーを取り付ける

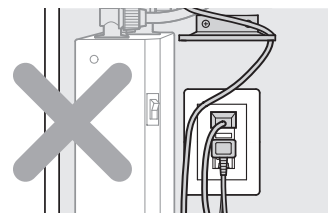


警告



禁止

電源コードはコンセントプレートカバーの上を通さない
結露水がコードを伝わりコンセントにかかり、火災や感電のおそれがあります。



手洗器 Sサイズの場合

10-S	手洗器キャビネット、 カウンター	78
11-S	配管ブラケット	82
12-S	手洗器	84

10-S 手洗器キャビネット、カウンター 「手洗器カウンター部材、手洗器キャビネット」の部材を使用

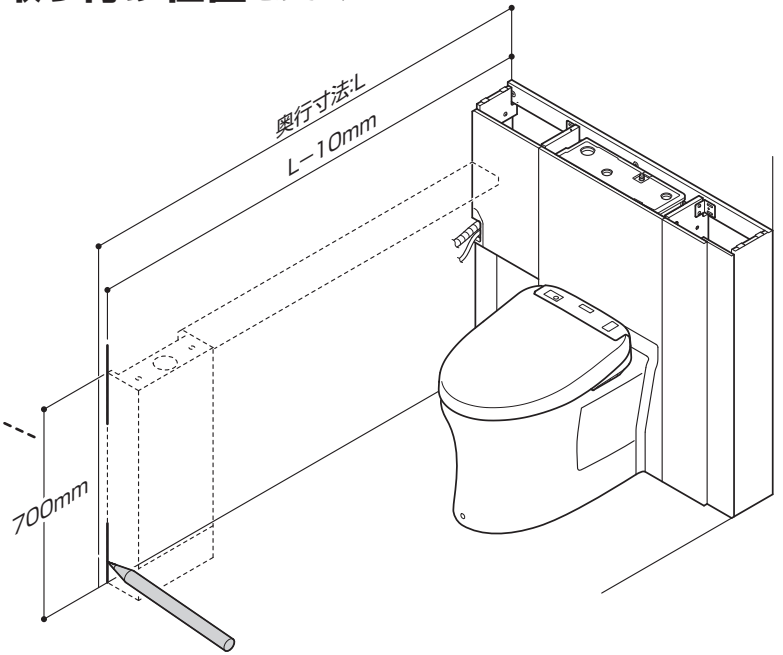
1 キャビネット、カウンターの取り付け位置をけがく

① 奥行寸法：Lを決める

参照 詳しくは、P.6「設置寸法について」を参照してください。

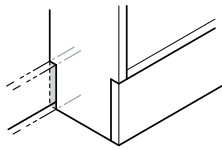
② 次の位置をけがく

- ・手洗器キャビネット端：L-10mm
- ・カウンター上端：床から700mm



2 手洗器キャビネットを仮固定する

① 幅木がある場合は重なる部分のキャビネットまたは幅木をカット



② 手洗器キャビネットを取付位置に仮置きし、水平を確認する

③ 壁に手洗器キャビネット取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあける

※ 壁裏補強なしの場合はボードアンカー(オプション)を使用する。ボードアンカーの下穴はφ9となります。

④ 同梱のねじで長穴側を仮固定する



ポイント

水平が出ていない場合、
付属のスペーサーを入れ
調節する

10-S 手洗器キャビネット、カウンター (つづき)

3 カウンター類を加工する

【カウンターをカットする場合】

① カウンター・キャビネット間の寸法を確認する

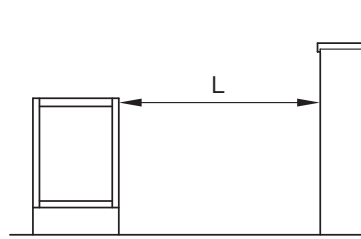
⚠ 注意



カットした面は滑らかに仕上げる

必ず守る

お客様の手が触れ、けがを
するおそれがあります。

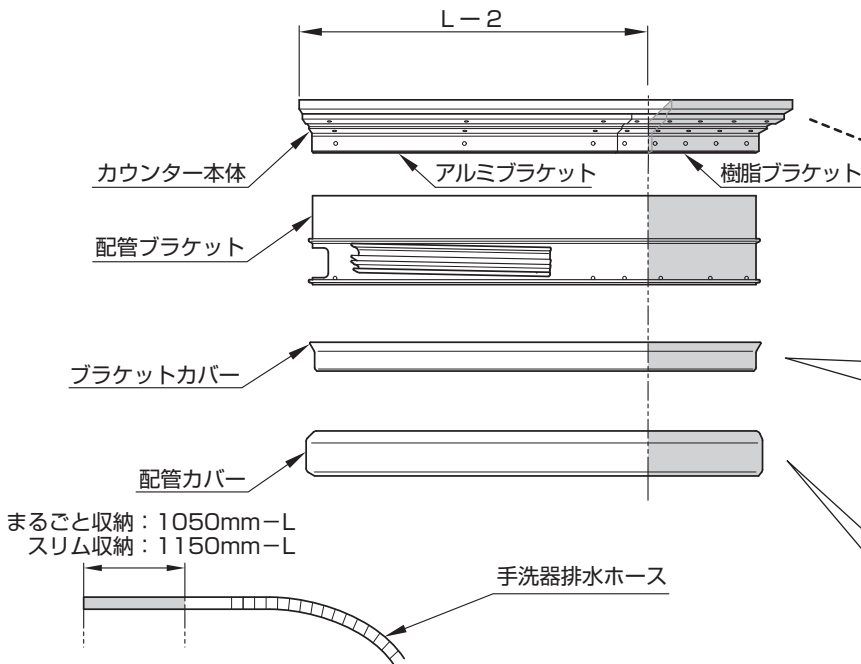


② カウンター本体、配管ブラケット、配管カバー、 ブラケットカバー、手洗器排水ホースをカットする

※樹脂ブラケット側をカットする

キャビネット上端の高さにて大便器キャビネットと手洗器
キャビネット側板までの寸法Lを測り、L-2mmの寸法に
カウンター・配管ブラケット・配管カバー・ブラケットカバー・
手洗器排水ホースをカットする。

L：カウンター寸法（奥壁からキャビネットまでの長さ）

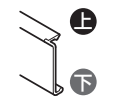


まるごと収納：1050mm-L
スリム収納：1150mm-L

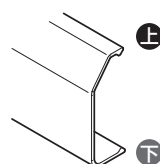
③ カウンターのカット面に カウンターキャップを はめる



ブラケットカバーの向き



配管カバーの向き



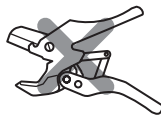
⚠ 注意



**手洗器排水ホースをカットする際、
押切タイプのパイプカッターは使用
しない**

必ず守る

手洗器排水ホースの断面が変形し、水漏
れして家財などをぬらす財産損害発生の
原因となります。



ポイント

**手洗器排水ホースは斜めにカット
しない**



10-S 手洗器キャビネット、カウンター (つづき)

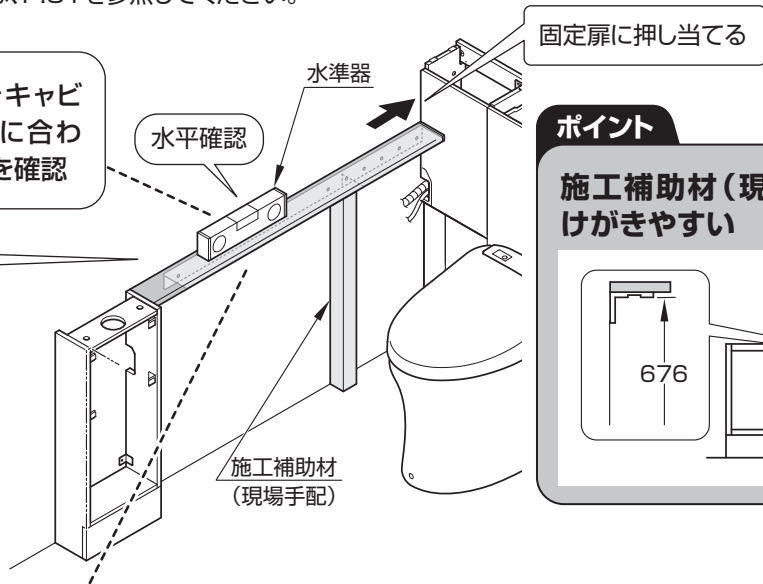
4 カウンター、手洗器キャビネットを取り付ける

壁裏補強ありの場合

参照 壁裏補強なしの場合は、P.81を参照してください。

- ① カウンター本体をキャビネット上端の高さに合わせ仮置きして水平を確認

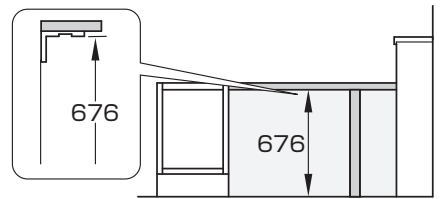
手洗器キャビネットに高さを合わせる



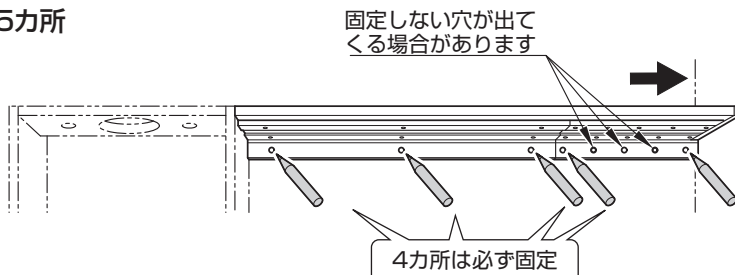
ポイント

施工補助材 (現場手配) を用いると
けがきやすい

(単位: mm)

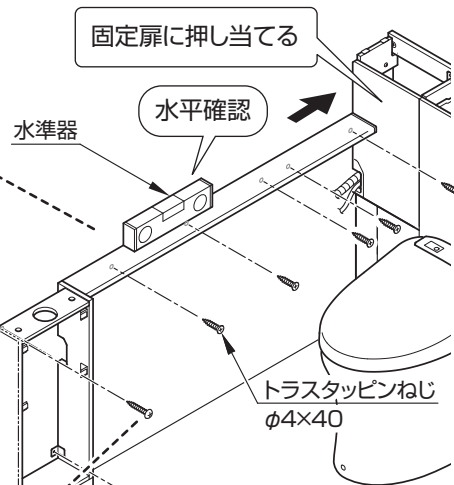


- ② 取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあける
4~5カ所

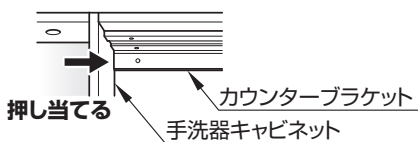


※固定用穴が5カ所以上ある場合、5カ所固定してください。

- ③ カウンターの水平を確認し、
大便器固定扉に押し当て
同梱のねじで固定する



- ④ 仮止めていた手洗器キャビネットを
カウンターに押し当て同梱のねじで
本固定する



固定ねじ(下穴φ3)
φ4×40(3本)

10-S 手洗器キャビネット、カウンター (つづき)

4 カウンター、手洗器キャビネットを取り付ける

壁裏補強なしの場合

① 壁に間柱中心位置をけがく

② カウンター本体をキャビネット上端の高さに合わせ仮置きして水平を確認

手洗器キャビネットの高さに合わせる

固定扉に押し当てる

水準器
水平確認

③ カウンターブラケットに間柱の位置をけがき、貫通穴(φ5)をあける

カウンターブラケット

間柱の中心位置

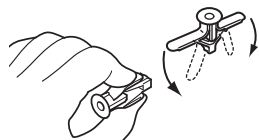
φ5の下穴をあける

④ 壁にカウンターブラケットの取付位置をけがき、下穴(ねじ取付用:φ3、ボードアンカー用:φ9)をあけて壁ボードアンカー(オプション)を取り付ける

間柱位置は、ねじ固定のためボードアンカーは取り付けない

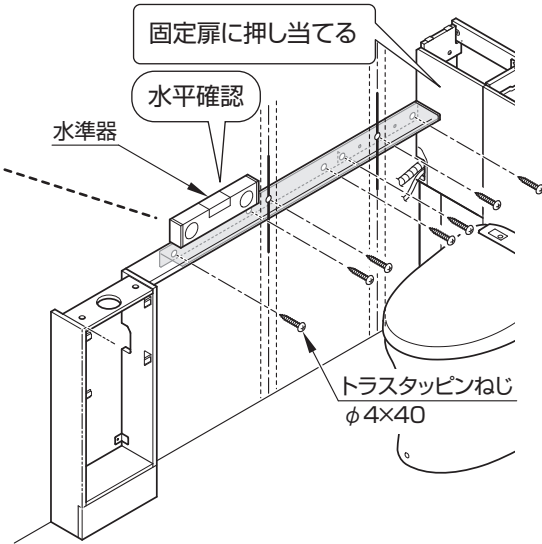
ポイント

ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む

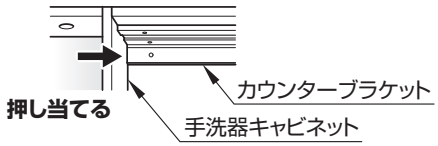


10-S 手洗器キャビネット、カウンター (つづき)

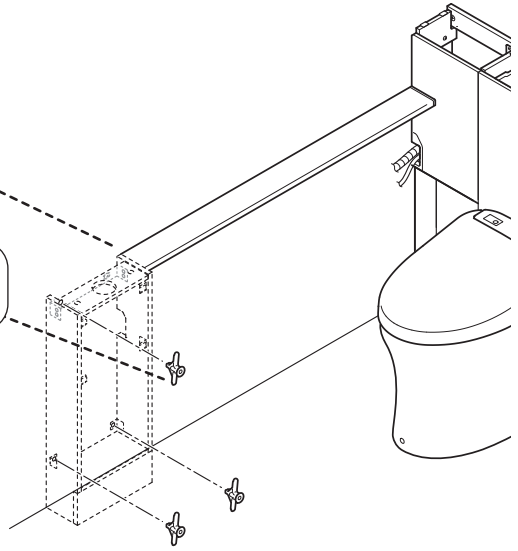
- ⑤ キャビネットの高さに合わせカウンターの水平を確認し、大便器固定扉に押し当て同梱のねじで固定する



- ⑥ 手洗器キャビネットをカウンターに押し当て取付位置をけがき、いったんキャビネットを外したあと下穴(ボードアンカー用:φ9)をあける

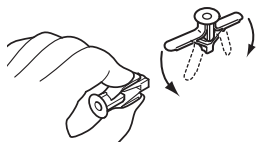


- ⑦ 壁にボードアンカー(オプション)を取り付ける

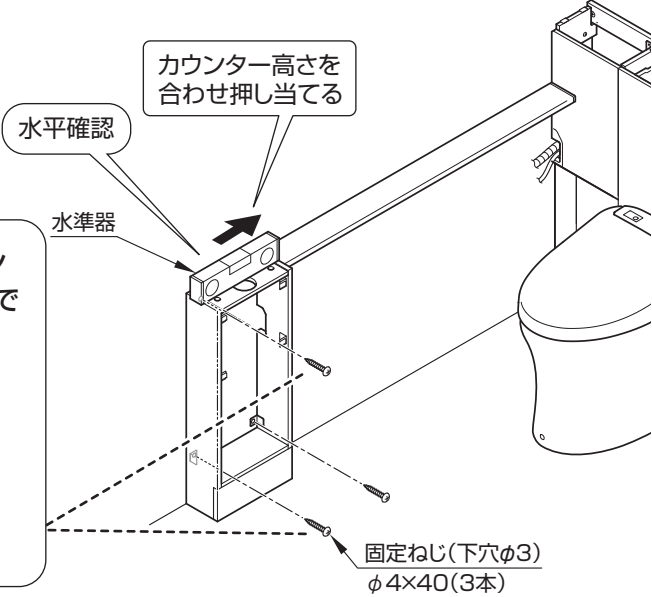
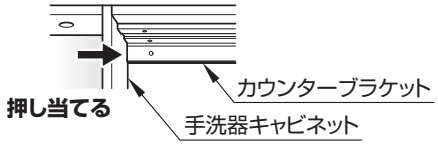


ポイント

ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む



- ⑧ 手洗器キャビネットを右図のようにカウンターに押し当て高さを調整し、同梱のねじで本固定する



11-S 配管ブラケット

「手洗器カウンター部材」の部材を使用

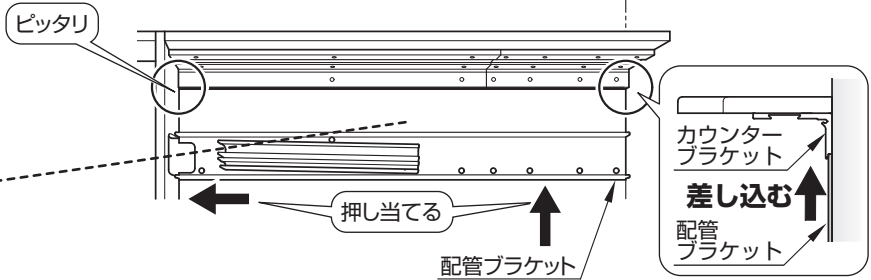
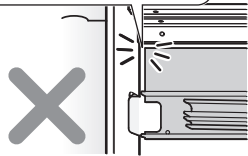
1 配管ブラケットを取り付ける

- ① 配管ブラケットをカウンターと手洗器キャビネットに押し当てる

ポイント

取り付け時の注意点

この位置がずれると正しい位置に取り付けができません。



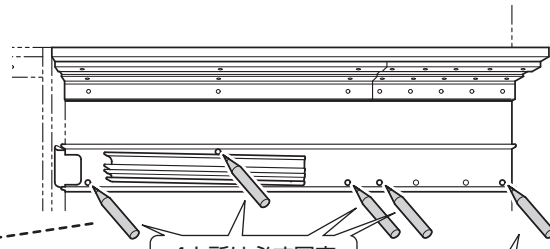
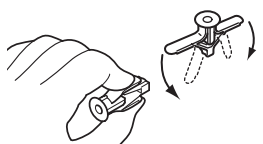
- ② 壁に取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあける

【補強材なしの場合】

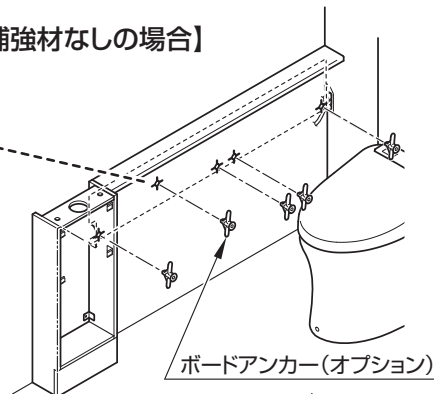
ボードアンカー用下穴(φ9)をあけ、ボードアンカー(オプション)を取り付ける

ポイント

ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む



【補強材なしの場合】



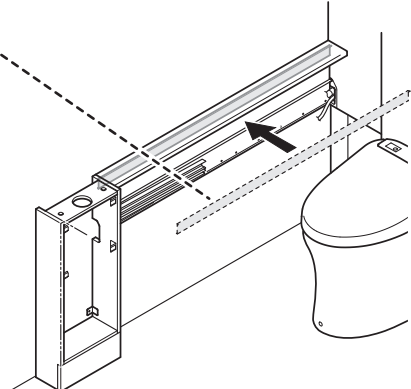
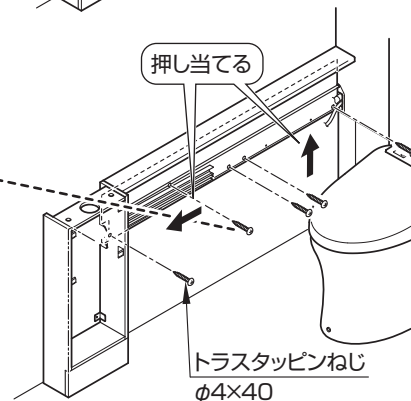
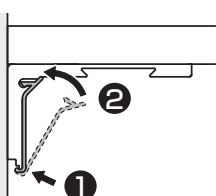
- ③ 配管ブラケットをカウンターと手洗器キャビネットに押し当てながら、同梱のねじで固定する

- ④ ブラケットカバーを取り付ける

ポイント

ブラケットカバーをはめ込む

カウンターに引っ掛けるようにブラケットカバーをセットする



1 排水金具を取り付ける

① 右図のように排水金具を手洗器にセットする。
ねじ部にシリコン系シーリング剤を塗布し、接続管を締める。

ポイント

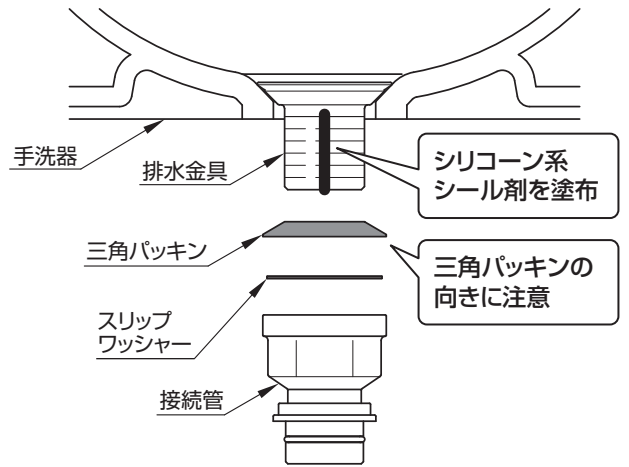
締め付け力の目安としては、手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらいが適切です。

注意

排水金具ねじ部には、必ずシリコン系シーリング剤を塗布する
必ず守る 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。

注意

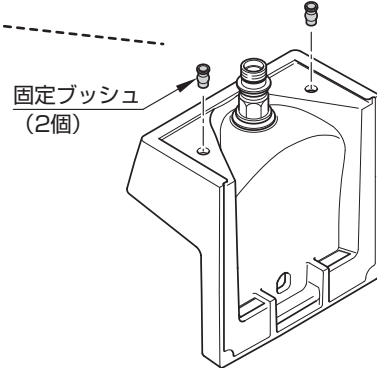
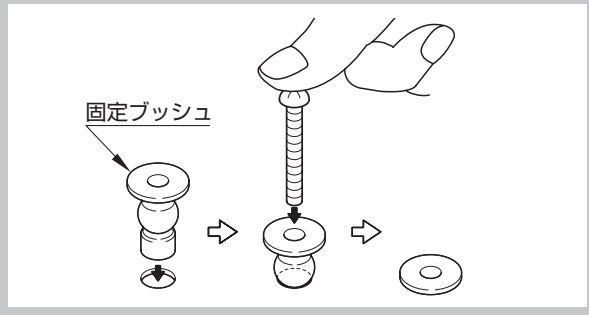
接続管を締め過ぎない
排水金具が破損し、水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。



② 手洗器裏面の穴に固定ブッシュを2個取り付ける

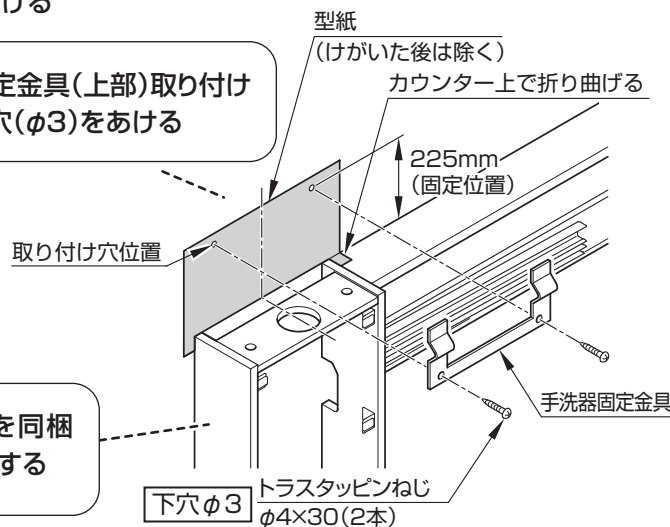
ポイント

取付けねじで押すと容易に挿入できます。



2 手洗器を取り付ける

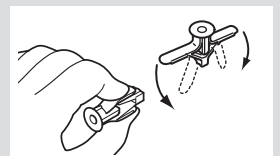
① 型紙で、手洗器固定金具(上部)取り付け位置をけがき、下穴(φ3)をあける



② 手洗器固定金具を同梱のねじで壁に固定する

【下地が石膏ボードの場合】
下穴(φ9)をあけ、
ボードアンカーを入れる

ボードアンカー(オプション品)の羽を折りたたんで下穴(φ9)に差し込む



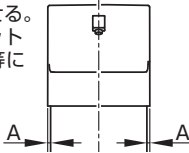
12-S 手洗器 (つづき)

④ 手洗器を手洗器固定金具に差し込む

ポイント

手洗器を図のように合わせる

左右のチリを合わせる。
手洗器とキャビネット
の段差「A」が均等
になるようにする。

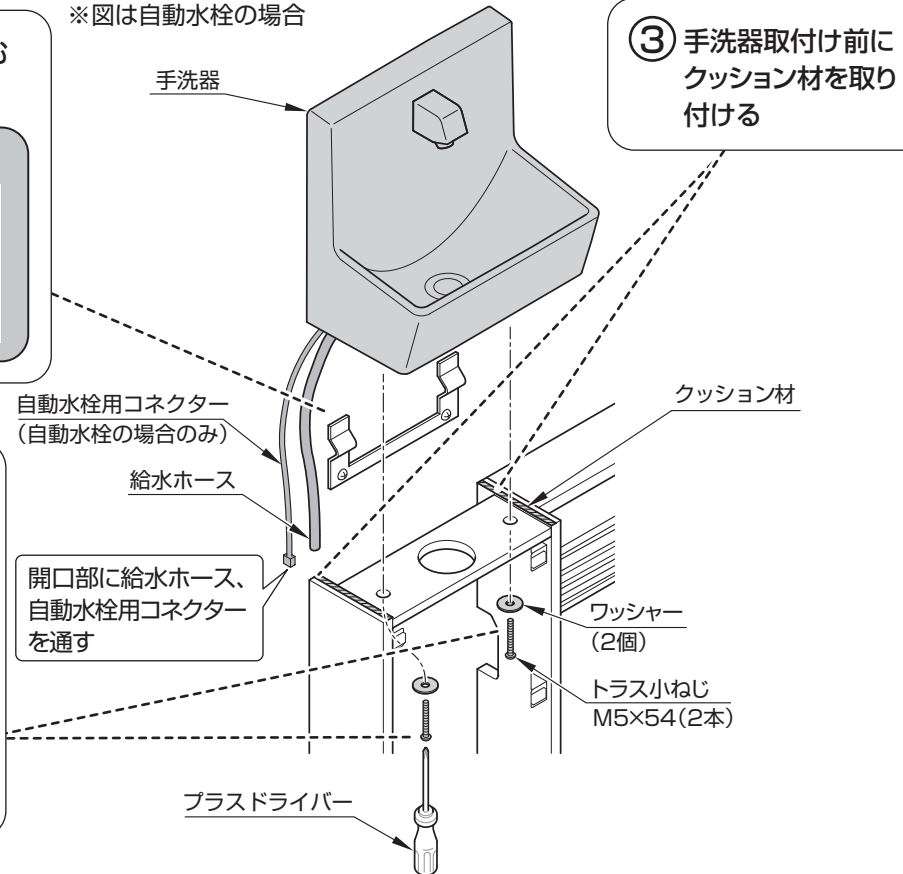


⑤ 手洗器キャビネットの下から トラス小ねじM5×54(2本)と ワッシャー(2個)で固定する。 ※トラス小ねじは回らなくなる までしっかり締め付けてくだ さい。

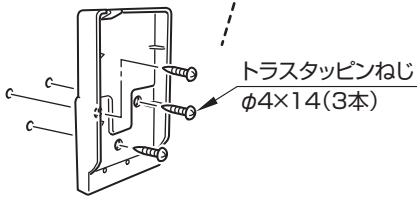
ポイント

手締めすること

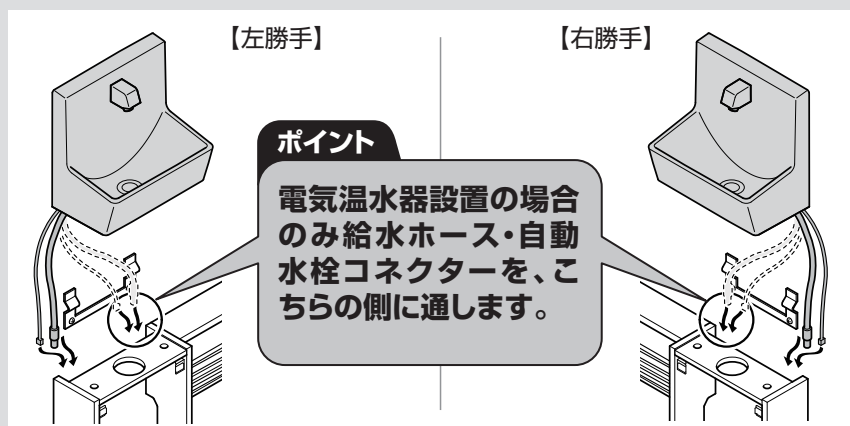
※図は自動水栓の場合



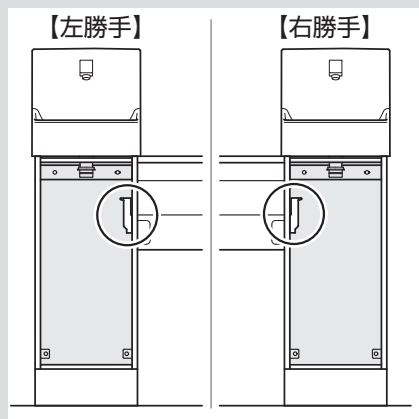
⑥ 【自動水栓の場合のみ】 側板の下穴に合わせて、 コントローラ固定材を 取り付ける



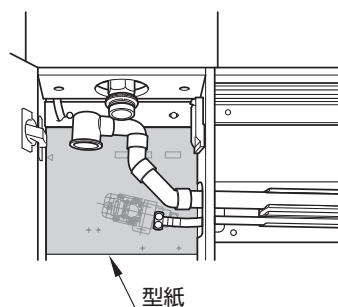
キャビネット開口部にホース類を通す際の注意点



コントローラ固定材の 取り付け位置

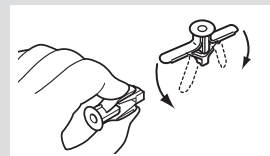


⑦ 【自動水栓の場合のみ】 後壁に型紙で取付位置を けがき下穴(φ3)をあける 自動水栓：2カ所 電気温水器付自動水栓：6カ所



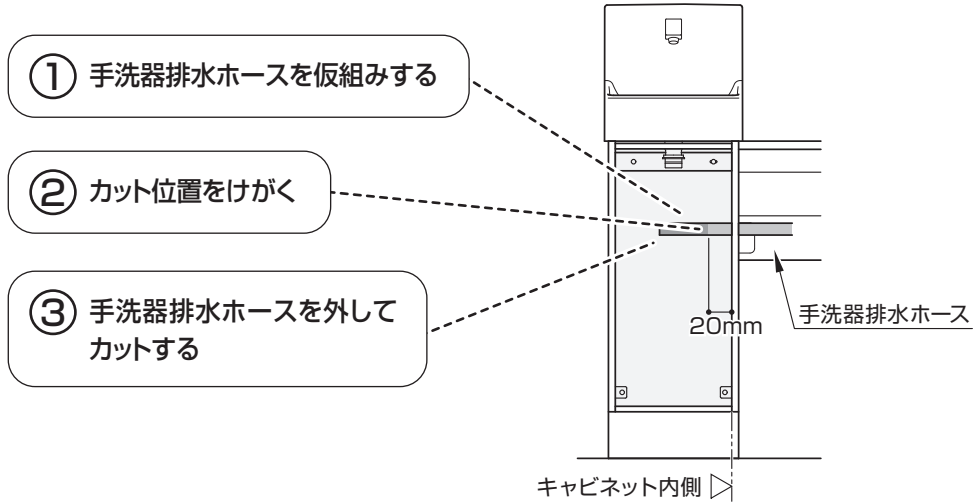
【下地が石こうボードの場合】
下穴(φ9)をあけ、
ボードアンカーを入れる

ボードアンカー(オプション
品)の羽を折りたたんで下穴
(φ9)に差し込む



12-S 手洗器 (つづき)

3 手洗器排水ホースの仮組み、カット



注意



必ず守る

手洗器排水ホースをカットする際、押切タイプのパイプカッターは使用しない

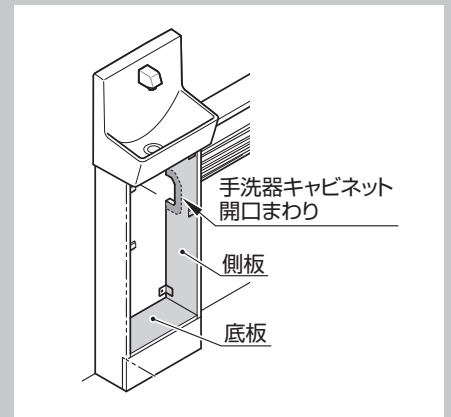
手洗器排水ホースの断面が変形し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



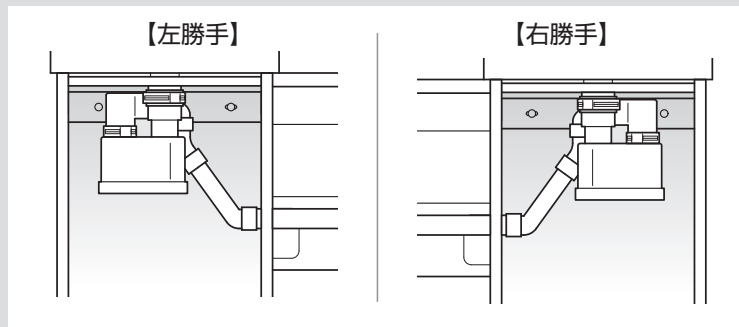
4 排水トラップの取り付け

ポイント

- 接着剤を塗る前に、壁・手洗器キャビネット内面の側板・底板を養生する
接着剤が壁・手洗器キャビネットに付着し、汚れます。
- 手洗器キャビネットの開口まわり(手洗器キャビネットの内側と外側)をマスキングテープで養生する

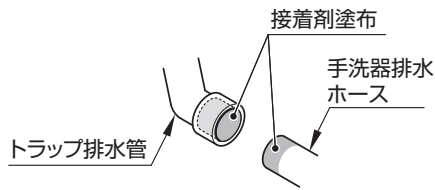


排水トラップ取り付け例

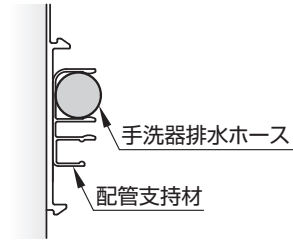


12-S 手洗器 (つづき)

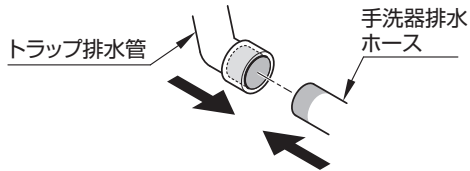
- ① 手洗器排水ホースを配管支持材から外し、手洗器排水ホースの先端とトラップ排水管に塩ビ系接着剤を塗布する



- ② 手洗器排水ホースを配管支持材にはめ込む

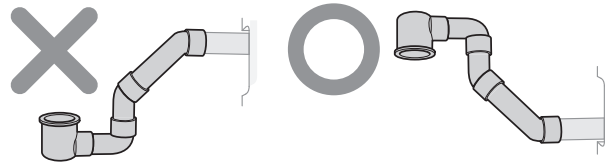


- ③ 手洗器排水ホースをスライドさせて、手洗器キャビネット内へ入れ、トラップ排水管を接続する

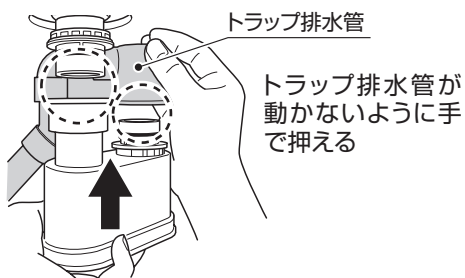


ポイント

接着する際には向きに注意



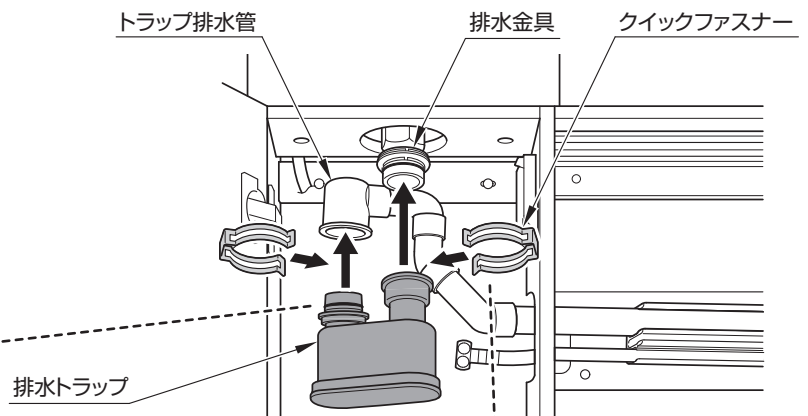
- ④ 2カ所を同時にまっすぐ差し込む



注意

斜めに差し込まない

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



- ⑤ クイックファスナーにて固定

12-S 手洗器 (つづき)

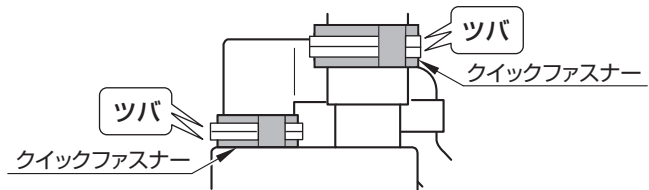
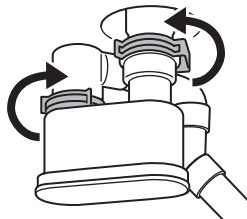
注意

クイックファスナーが正しく固定されていることを確認する

クイックファスナーの全周にツバがかかっていることを確認する



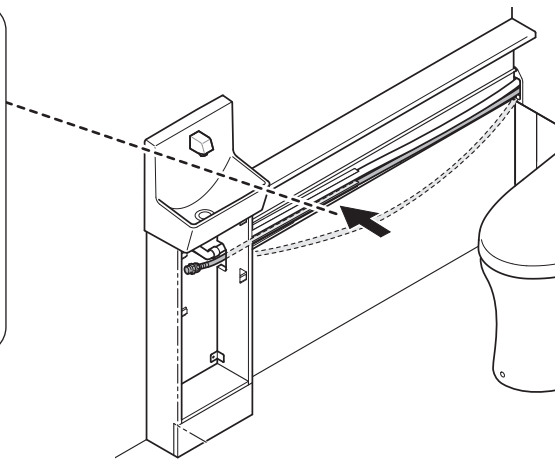
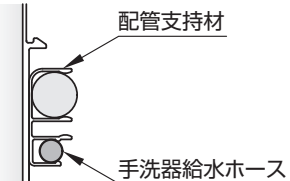
必ず守る



水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。

5 手洗器給水ホースの接続

① 手洗器給水ホースを配管支持材にはめ込む

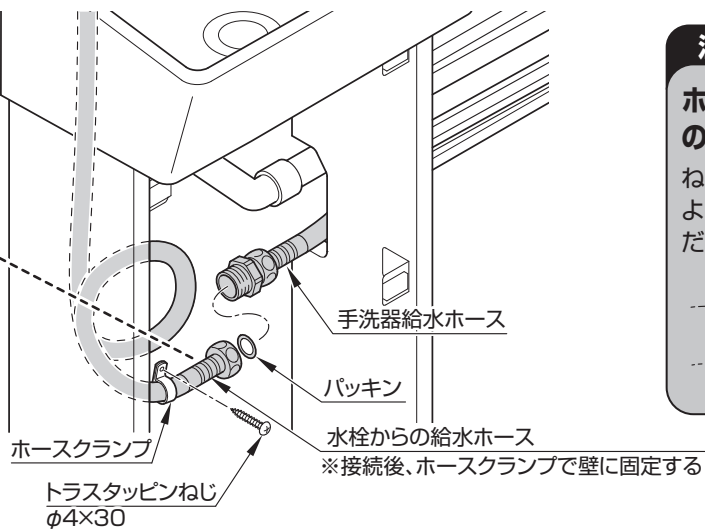


3 部材の取り付け ①

S

【ハンドル式水栓の場合】

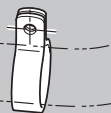
② 手洗器給水ホースを接続する



注意

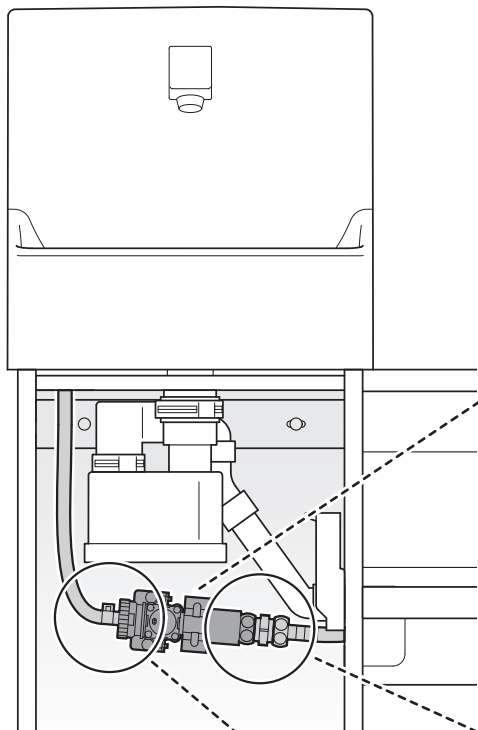
ホースクランプの向きに注意

ねじが上になるように固定してください。



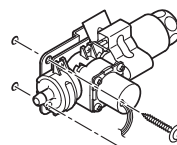
12-S 手洗器 (つづき)

【自動水栓・電気温水器付自動水栓の場合】



※図は自動水栓の場合

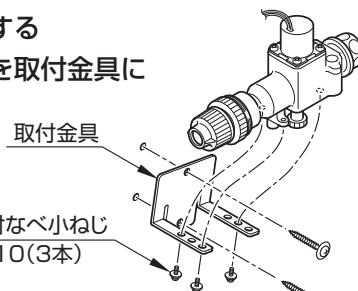
② 自動水栓機能部を後壁の下穴に同梱のねじで固定する



座金付タッピンねじ
φ4.5×38(2本)

寒冷地の場合

① 取付金具を固定する
② 自動水栓機能部を取付金具に固定する

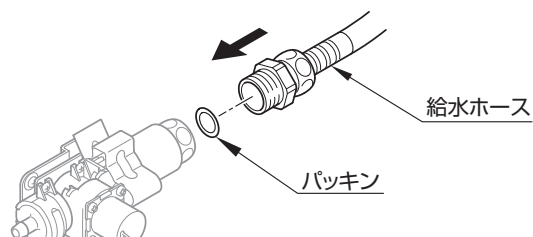


取付金具

座金付なべ小ねじ
M4×10(3本)

座金付タッピンねじ
φ4.5×38(2本)

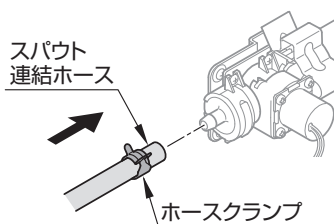
③ 自動水栓機能部に給水ホースを接続する



給水ホース

パッキン

④ スパウト連結ホースを適切な長さに切断し、接続する

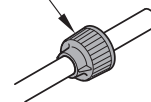


スパウト
連結ホース

ホースクランプ

寒冷地の場合

袋ナット

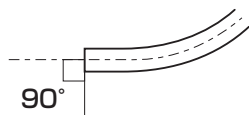


注意

- スパウト連結ホースは、切断面が垂直になるように切断する
- スパウト連結ホース接続後、軽く引っ張り抜けないことを確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



必ず守る



90°

12-S 手洗器 (つづき)

⑤ コントローラーを取り付ける

① センサー
コネクター(赤)
センサー
コネクター(緑)

自動水栓スパウトおよび電磁弁から
出ているコネクターを接続する

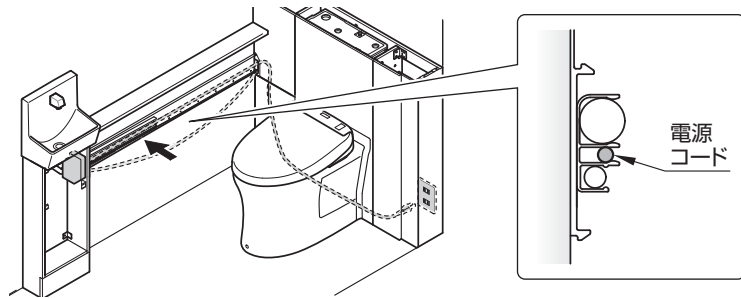
② コントローラー
固定材

コントローラー下部をひっかけ
ながらはめ込む

③ カチッ

⑥ 電源コードを配管支持材にはめこむ プラグを、大便器側のコンセント近傍 まで配置しておく

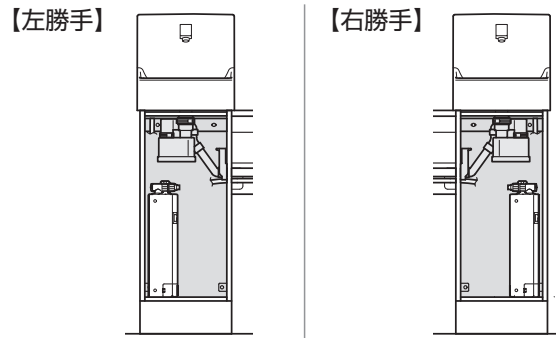
※電気温水器の場合は、手洗器キャビネット内の
コンセントに接続するので不要です。



3 部材の取り付け ① 【電気温水器付自動水栓の場合】

参照 詳しくは、電気温水器の施工説明書を参照してくだ
さい。

電気温水器取り付け位置



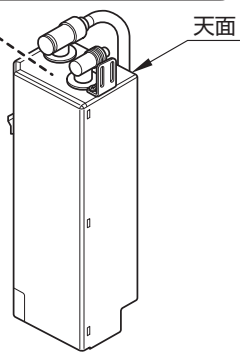
① 電気温水器に固定アンクル1を同梱の ねじで取り付ける

固定アンクル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)

短辺側を
本体に取り付ける

固定アンクル1

16.5mm



② 本体を同梱のねじで取り付ける

はくり紙

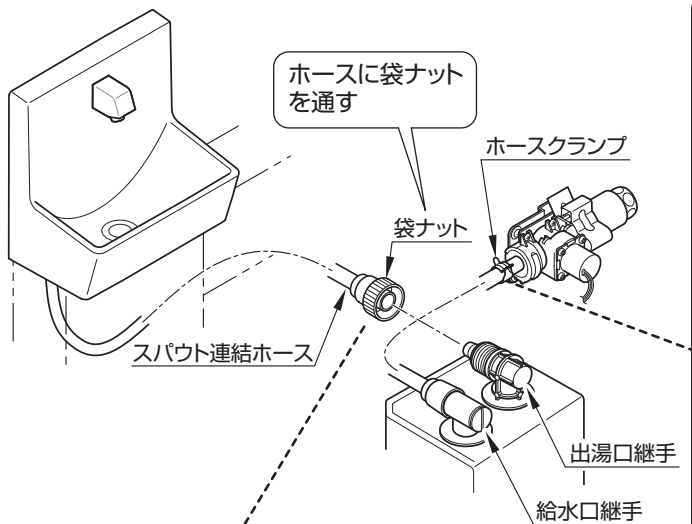
化粧ラベル
(裏面接着剤付)

壁固定用木ねじ
φ4×30(2本)

固定アンクル取り付け穴

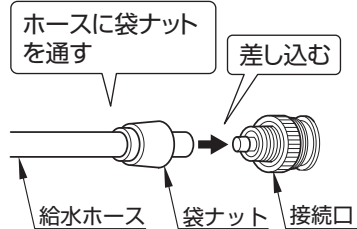
③ 化粧ラベルで電気温水器本体
上部の固定アンクルを取り付
けない方(長辺側)の穴に貼り
付けてふさぐ

12-S 手洗器 (つづき)



④ ホースと機能部をホースクランプで締め付ける

❄️ 寒冷地の場合



⚠️ 注意

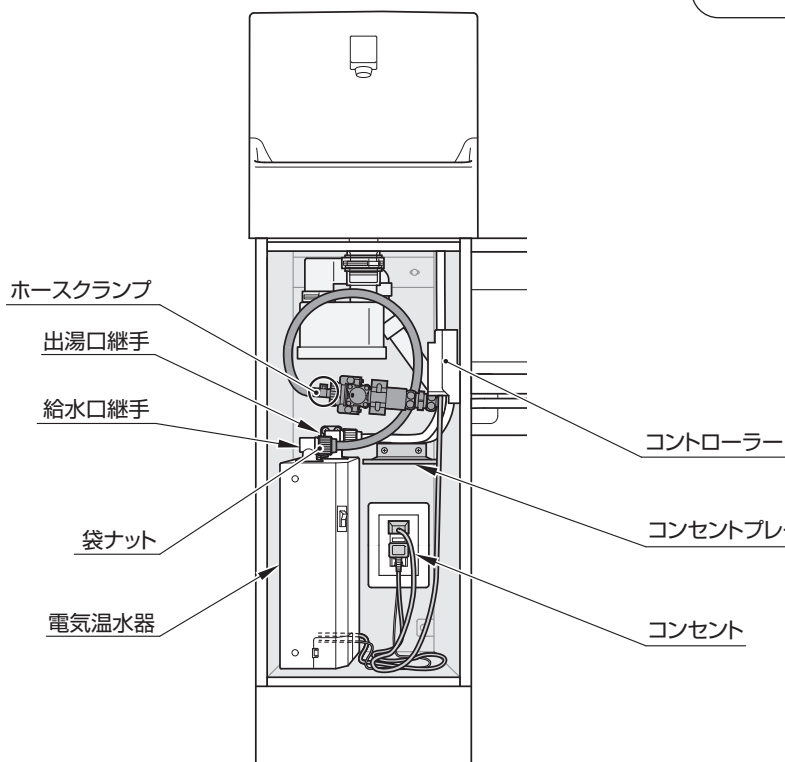


必ず守る

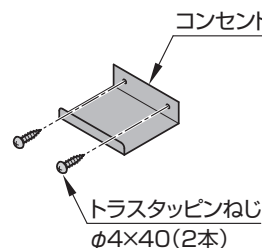
- ・ホースが確実に差し込まれているか確認する
- ・ホースが折れ曲がることのないように注意する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

⑤ 出湯口継手にスパウト連結ホースを差し込み、袋ナットで締め付ける



⑦ コンセントプレートカバーを取り付ける

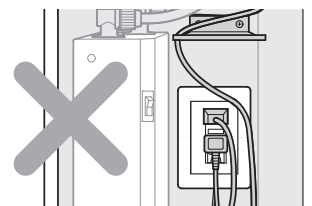


⚠️ 警告

電源コードはコンセントプレートカバーの上を通さない
結露水がコードを伝わりコンセントにかかり、火災や感電のおそれがあります。



禁止



⚠️ 注意



必ず守る

電気温水器の電源コード・アース線は、キャビネットと電気温水器との間や、扉に挟まないように取り回す
コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

13 試運転・確認

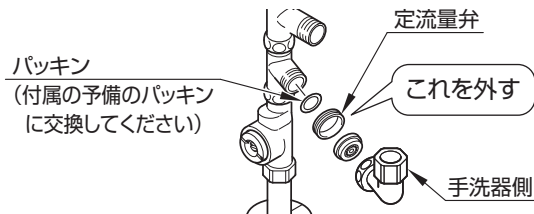
試運転をする前に

試運転をする前に、止水栓を開けてください。確認後は、止水栓を閉めてください。



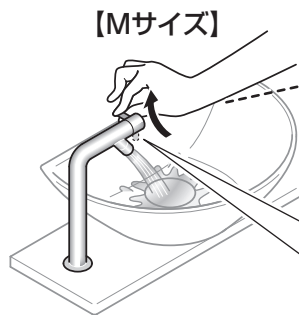
注意

吐水量が少ない場合は、分岐金具の手洗器側を外して定流量弁を外してください。必要に応じて止水栓にて流量を調整してください。

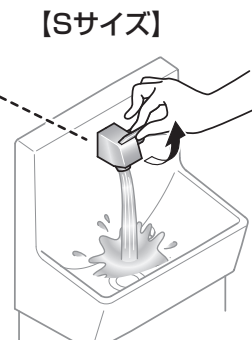
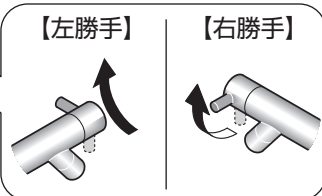


1 水栓

ハンドル式水栓

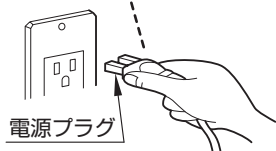


ハンドルを回して吐水を確認する

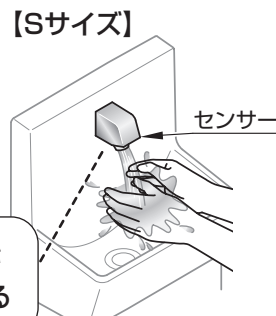


自動水栓

① コンセントに電源プラグを差し込む



② 手を差し出し、水が出ることを確認する



2 ウォシュレット

ウォシュレットに同梱されている施工説明書の手順に従って、吐水確認をする。

3 電気温水器

電気温水器に同梱されている施工説明書の手順に従って、吐水確認をする。

4 大便器

2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する。

5 洗浄レバー

① 手動で確認する

洗浄レバーを手で操作して、便器洗浄が大・小洗浄とも正常に行われることを確認する。洗浄レバーが、スムーズに回転することを確認する。(キャビネットとの干渉がないこと)

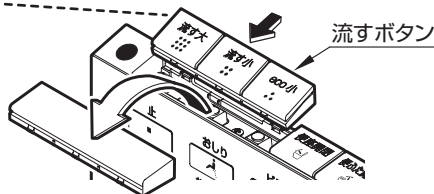


注意

正常に作動しない場合、洗浄レバーカバーの取り付け位置を確認してください。

② リモコンに流すボタンが取り付けられているか確認する

流すボタンの取付方法は流すボタン取付説明書を参照してください。



13 試運転・確認 (つづき)

③ リモコンで便器洗浄を確認する

「大」・「小」・「eco小」のボタンを押して、それぞれ「大」・「小」・「eco小」の洗浄を行うことを確認する。

※連続して押すと作動しません

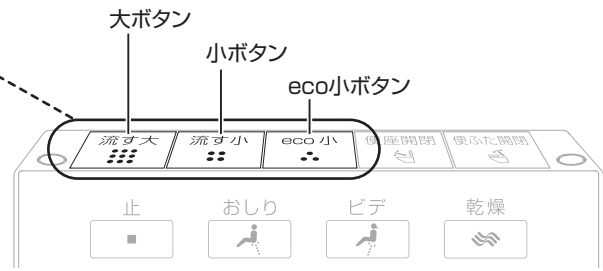
約10秒たってからもう一度ボタンを押してください

流す大 → 洗浄レバーが大側に回転する

流す小 → 洗浄レバーが小側に回転する

eco小 → 洗浄レバーが小側に回転し
約3秒間停止後戻る

重要



※機種によっては、ボタンのレイアウトやリモコンのデザインなどが異なります。

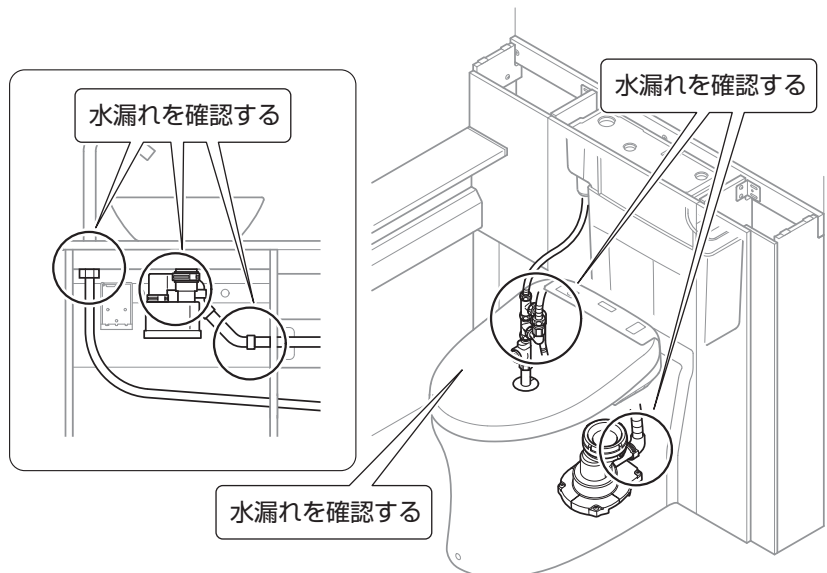
試運転が完了したら「運転入/切」が、「入」になっていることを確認してください。(「入」のときは、「運転ランプ」が点灯します)

「運転入/切」が「切」のときは、電源プラグをコンセントに差し込んでもウォシュレットは作動しません。

※お客様に引き渡すまでに時間があっても「運転入/切」を切らないでください。

6 給・排水の水漏れ確認

2~3度洗浄させて、給水管や排水管の接合部から水漏れなどの異常がないことを確認する。



3 部材の取り付け ①

試運転で必ず実施してください

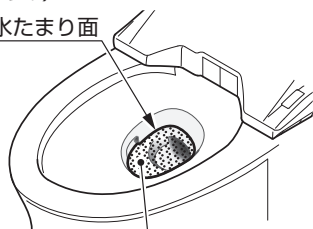
大洗浄をしたあと、水たまり面の状態を確認してください。

正常な状態

設定変更は不要です。

(設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。)

正常な水たまり面

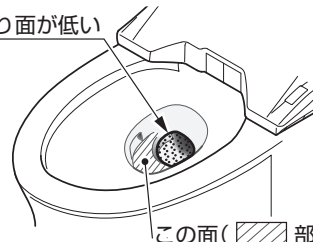


水たまり面が低い状態

設定変更を行ってください。

(洗浄水量を変えずに水たまり面を正常な状態にすることができます。)

水たまり面が低い



〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉

ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

※水たまり面が低いと汚物付着の原因になります。

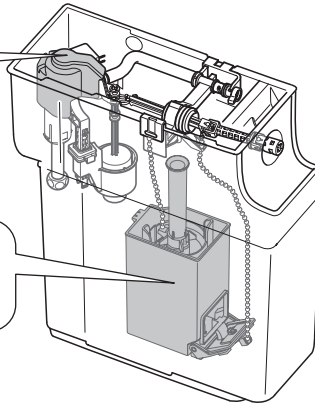
排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。

13 試運転・確認 (つづき)

タンク内を調整する際のご注意

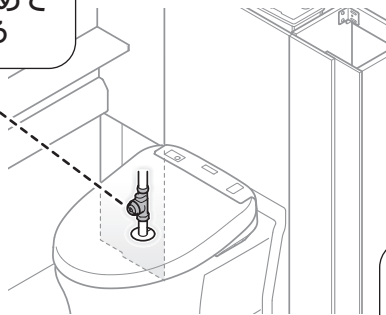
漏水防止カバーを外さない

制御筒に力を加えない
排水弁が浮いて、水が流れっぱなしになるおそれがあります。

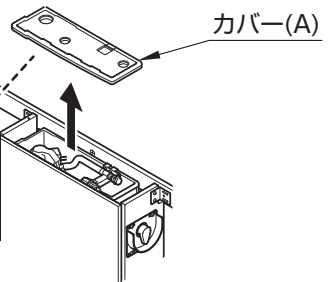


水たまり面が低い場合の対応方法

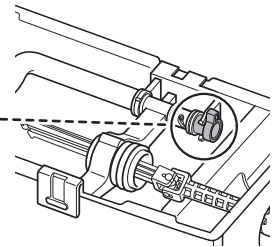
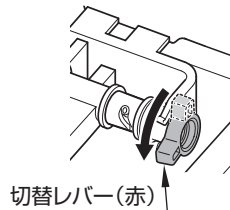
① 止水栓を閉めて
給水を止める



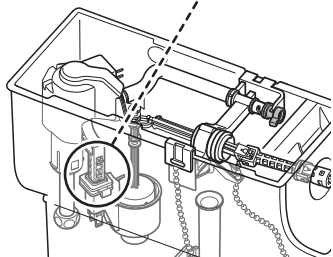
② カバー(A)を
外す



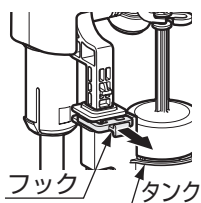
③ 切替レバー(赤)を手
前に90°回転させ、
そのまましておく



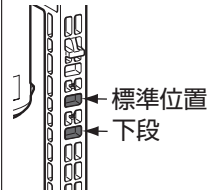
④ フックを解除し、ボールタップの
タンク取付位置を下段に変更する



① フックを解除する



②



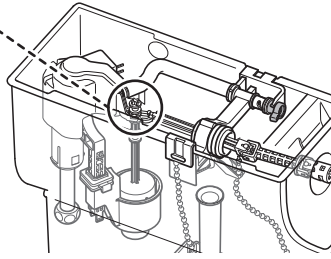
③ 下段に下げ、フックを
差し込む



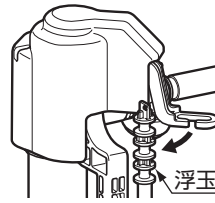
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

13 試運転・確認 (つづき)

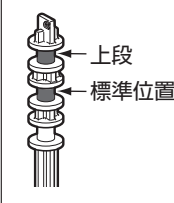
⑤ ボールタップの浮玉取付位置を、上段の凹部に変更する



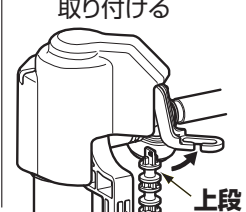
① 浮玉を外す



②

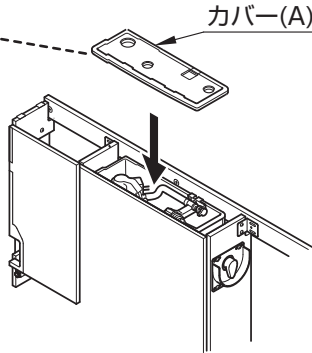


③ 上段の凹部を取り付ける



位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

⑥ カバー(A)を元に戻す



⑦ 取り付け完了後の確認

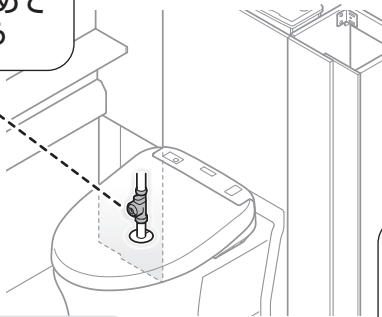
- ・ 止水栓を開け、2~3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- ・ 正常に洗浄するか確認する
- ・ 洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

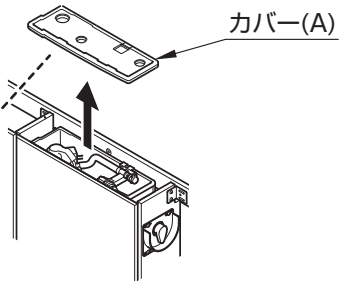
大洗浄4.8L、小洗浄3.6L、eco小洗浄3.4L仕様を「大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L仕様」または「大洗浄8L、小洗浄6L、eco小洗浄5.5L仕様」に変更することができます。

大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L仕様への切替方法

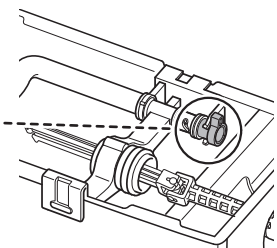
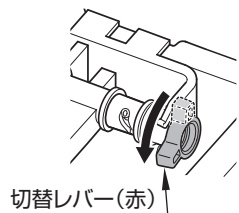
① 止水栓を閉めて給水を止める



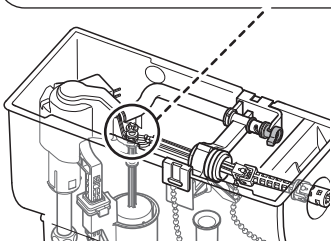
② カバー(A)を外す



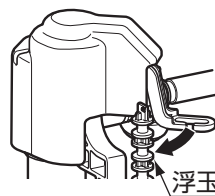
③ 切替レバー(赤)を手前に90°回転させ、そのまましておく



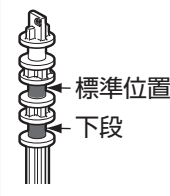
④ ボールタップの浮玉取付位置を、下段の凹部に変更する



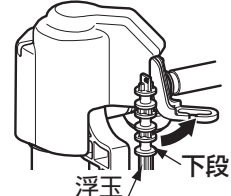
① 浮玉を外す



②



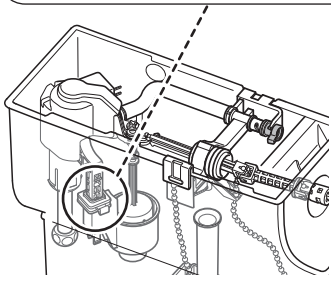
③ 下段の凹部を取り付ける



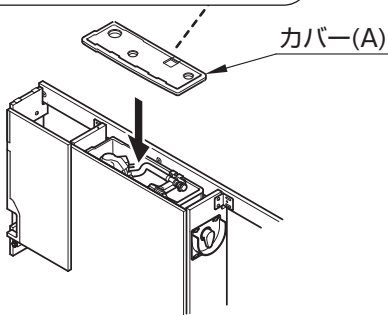
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

13 試運転・確認 (つづき)

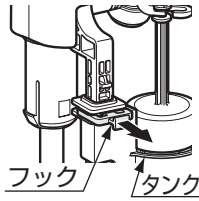
⑤ フックを解除し、ボールタップのタンク取付位置を上段に変更する



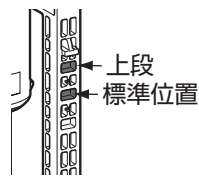
⑥ カバー(A)を元に戻す



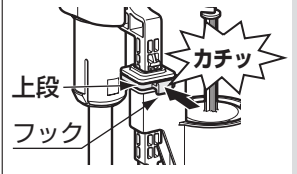
① フックを解除する



②



③ 上段に上げ、フックを差し込む



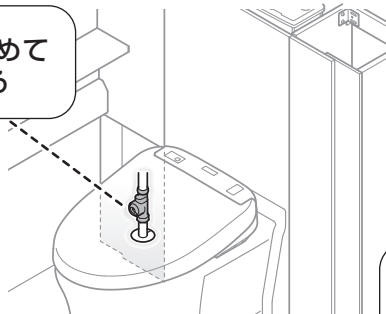
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

⑦ 取り付け完了後の確認

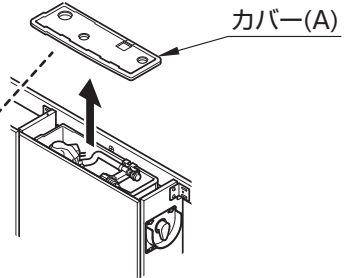
- ・ 止水栓を開け、2~3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- ・ 正常に洗浄するか確認する
- ・ 洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する

大洗浄8L、小洗浄6L、eco小洗浄5.5Lへの切替方法

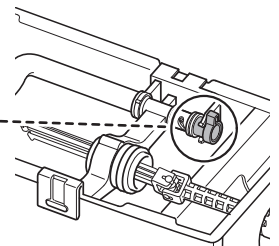
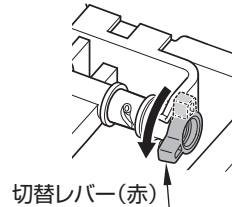
① 止水栓を閉めて給水を止める



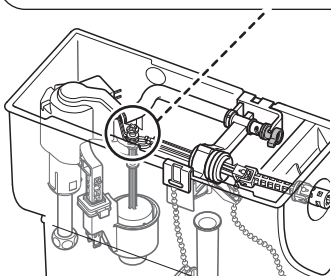
② カバー(A)を外す



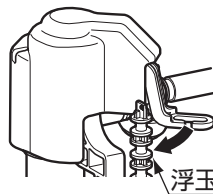
③ 切替レバー(赤)を手前に90°回転させ、そのまましておく



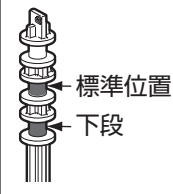
④ ボールタップの浮玉取付位置を、下段の凹部に変更する



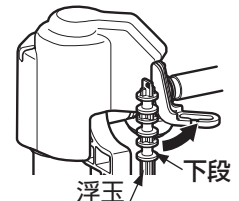
① 浮玉を外す



②



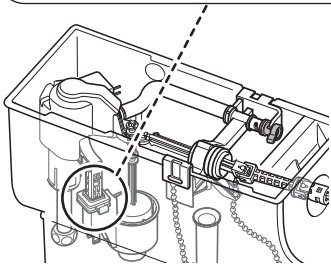
③ 下段の凹部を取り付ける



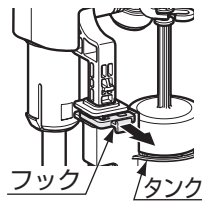
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

13 試運転・確認 (つづき)

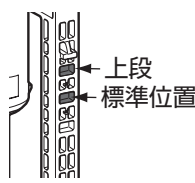
⑤ フックを解除し、ボールタップのタンク取付位置を上段に変更する



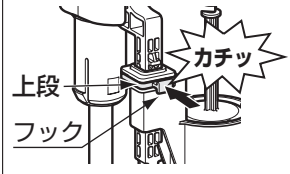
① フックを解除する



②



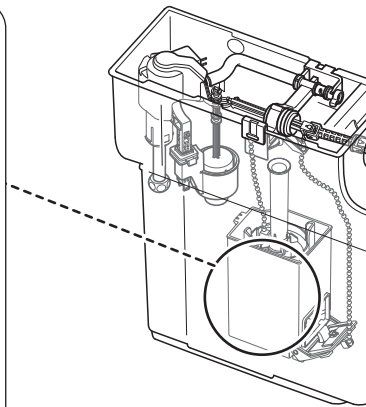
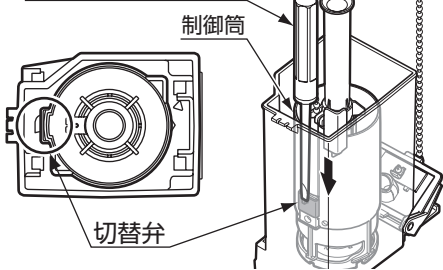
③ 上段に上げ、フックを差し込む



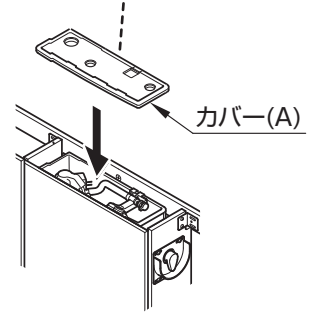
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

⑥ 先の長いマイナスドライバーを排水弁の上方から差し込み、制御筒横の切替弁を下げる

マイナスドライバーなど



⑦ カバー(A)を元に戻す

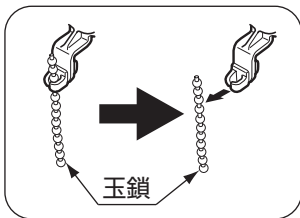


⑧ 取り付け完了後の確認

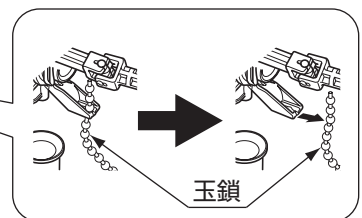
- ・ 止水栓を開け、2~3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- ・ 正常に洗浄するか確認する
- ・ 洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する

● 制御筒横の切替弁を下げる事ができなかった場合

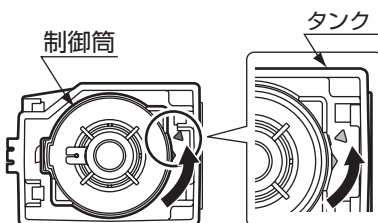
① カバー(B)を外す



② 玉鎖を外す

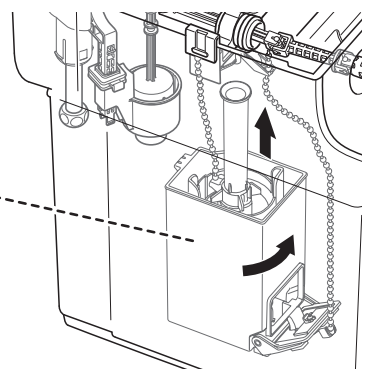
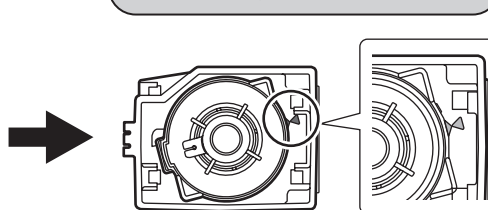


③ 制御筒を反時計回りに回し外す
制御筒の矢印とタンクの矢印を合わせる



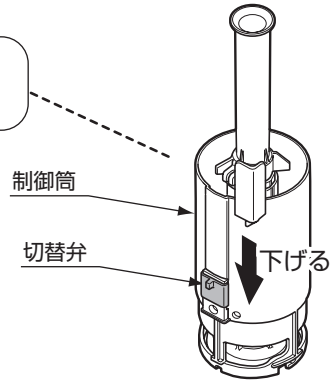
注意

制御筒の取り外し時に樹脂タンクに傷を付けないこと

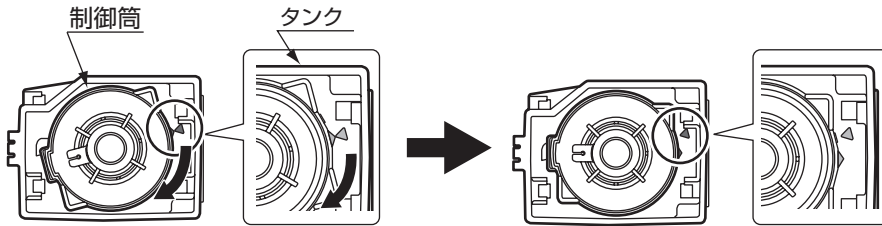


13 試運転・確認 (つづき)

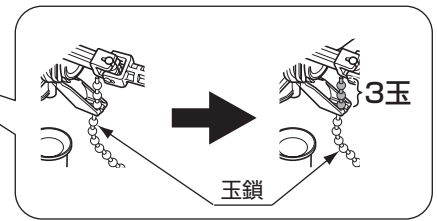
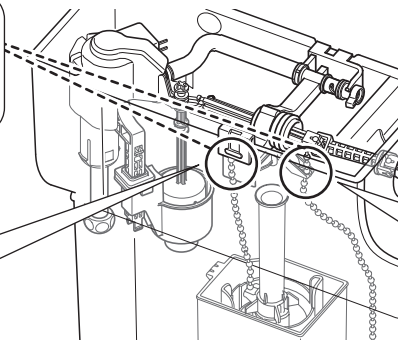
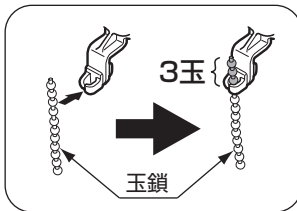
④ 制御筒横の切替弁を下げる



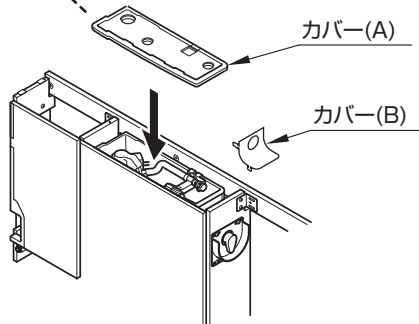
⑤ 制御筒を時計回りに回し取り付ける



⑥ 玉鎖を3玉余し取り付ける
正しく取り付けないと止水不良
になります



⑦ カバー(A)、(B)を元に戻す



⑧ 取り付け完了後の確認

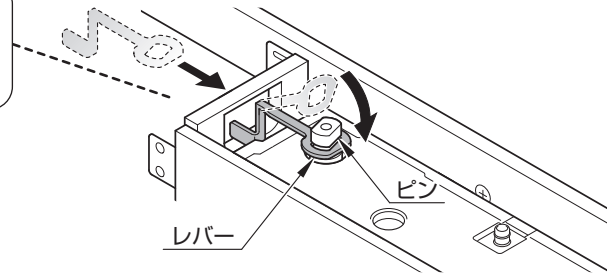
- ・ 止水栓を開け、2~3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- ・ 正常に洗浄するか確認する
- ・ 洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する

14 流動レバー

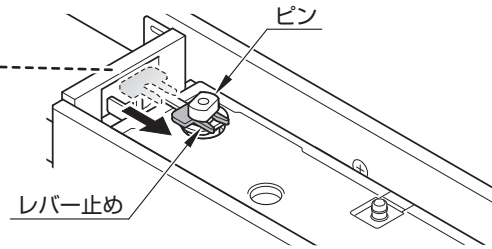
👉 「セットタンク」の部材を使用

🐼 寒冷地の場合

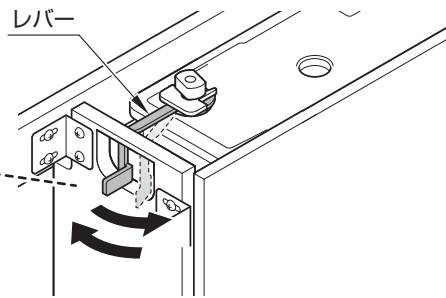
- ① レバーを側板の切欠きから通し、
上からピンに差し込む



- ② レバー止めでピンを挟み込む



- ③ 流動レバーの作動確認
流動レバーを手前に回し、水を流す。
作動確認後は流動レバーを奥壁側に
回し、「閉」の状態になっていることを
確認する。
確認後、止水栓を閉める。



15 天板

「天板セット、大便器キャビネット部材」の部材を使用

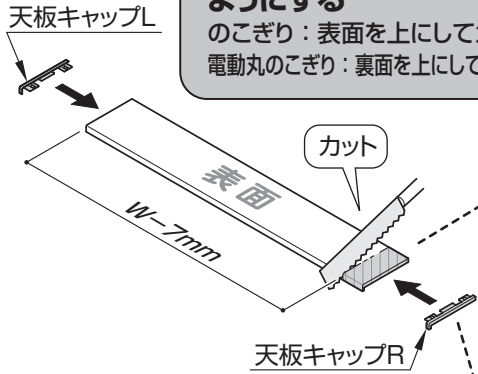
まるごと収納タイプの場合

1 天板を加工する

ポイント

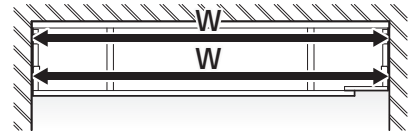
チッピングを起こさないようにする

のこぎり：表面を上にしてカット
電動丸のこぎり：裏面を上にしてカット



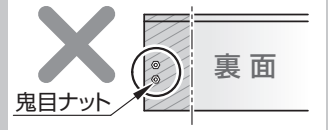
① 奥側と手前の寸法Wを測り、狭い方を基準にして、天板をW-7mmの寸法にカットする

※「間口寸法Wの測定範囲」(P30)参照



ポイント

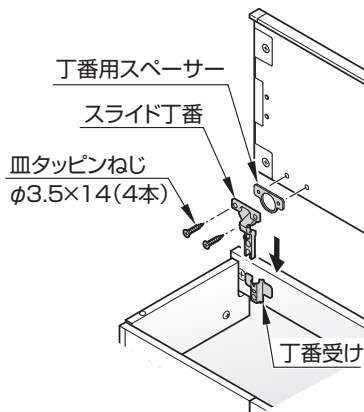
まるごと収納タイプの場合、カットする位置に注意する



② 天板キャップをはめる
(ここではねじ固定しない)

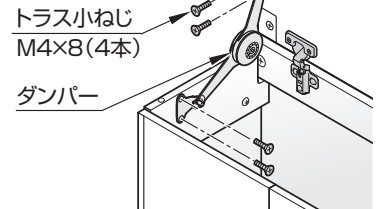
2 天板を取り付ける

① 丁番用スペーサー・スライド
丁番を同梱のねじで天板に取り付ける

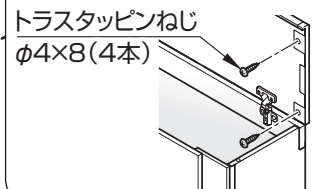


② 天板を横棧に取り付ける

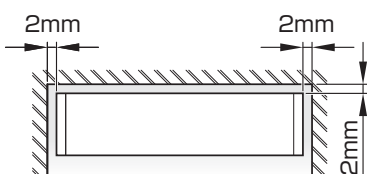
④ ダンパーを同梱のねじで取り付ける



③ 天板キャップを左右調整し、ねじで固定する



仕上げ状態 (目安)

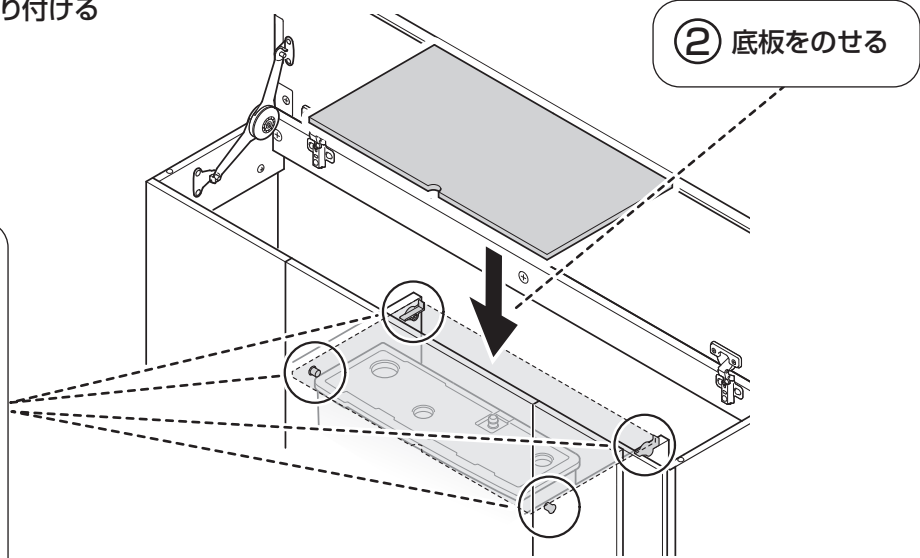
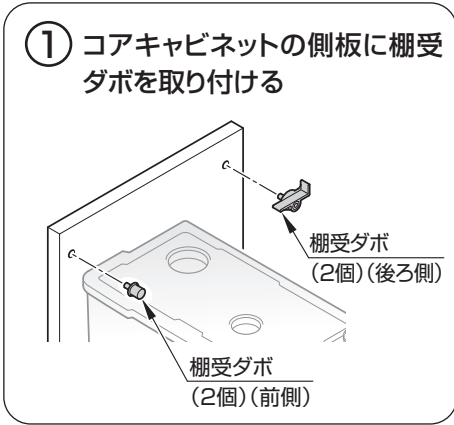


ポイント

- ねじは手締めで行うこと
- 天板の両端が壁をこすらないこと
- ダンパーが側板と干渉しないこと

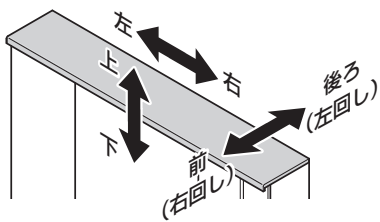
15 天板 (つづき)

3 タンク上収納底板を取り付ける

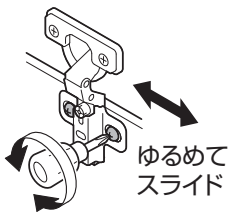


4 天板の調整

スライド丁番

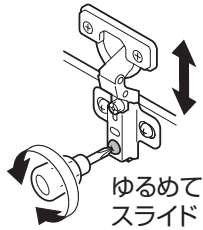


【左右調整】

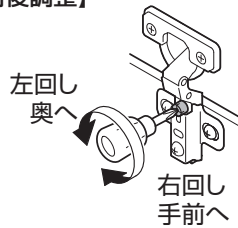


ねじを回しすぎると
ねじがきかなくなります

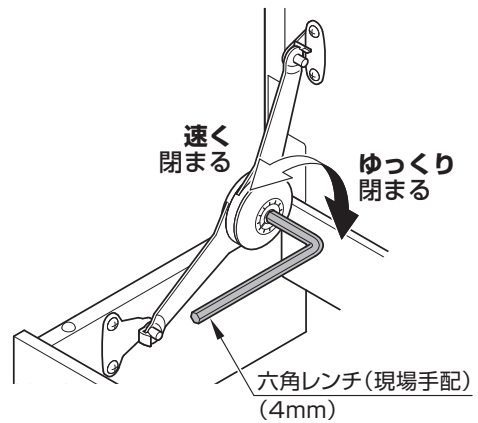
【上下調整】



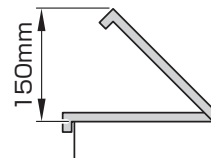
【前後調整】



ダンパー



前板上端150mmの高さから自然に
閉じ始める固さに調整する



15 天板 (つづき)

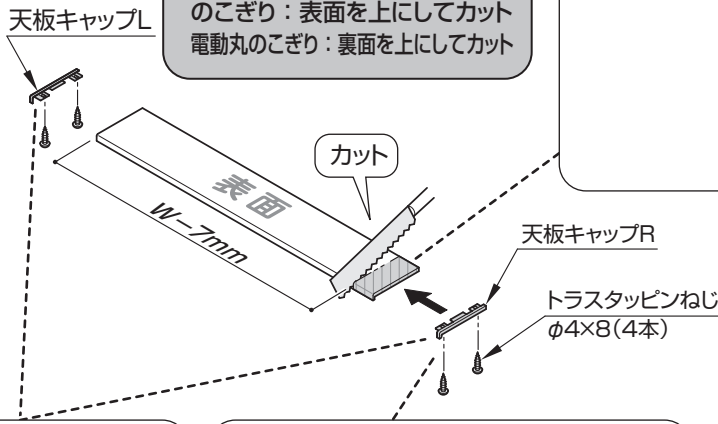
スリム収納タイプの場合

1 天板を加工する

ポイント

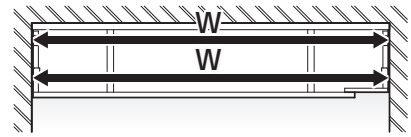
チッピングを起こさないようにする

のこぎり：表面を上にしてカット
電動丸のこぎり：裏面を上にしてカット



① 奥側と手前の寸法Wを測り、狭い方を基準にして、天板をW-7mmの寸法にカットする

※「間口寸法Wの測定範囲」(P30)参照



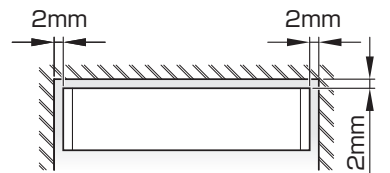
② 天板キャップをはめる

③ 天板を仮置きし、左右を調整し、天板キャップをねじで固定する

ポイント

ねじは手締めで行うこと

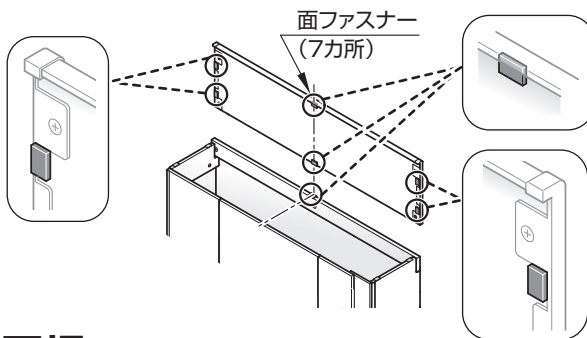
仕上げ状態 (目安)



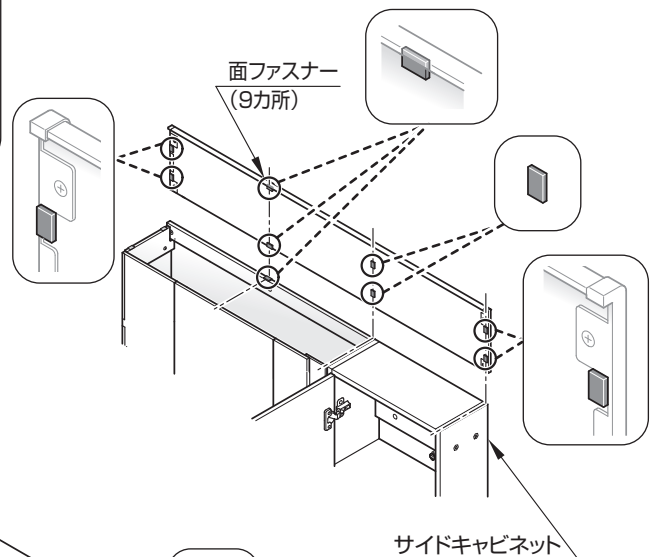
④ 天板裏と横棧に付属の面ファスナーを貼る(7カ所)
※ひろびろ間口タイプの場合:9カ所

注意

- ・面ファスナーの向き (縦横) に注意する
- ・面ファスナーが天板キャップにかからないこと



【ひろびろ間口タイプの場合】



2 天板を取り付ける

天板をキャビネットに固定する

ポイント

面ファスナーとしっかりかみ合うように押し込む

上から強く押さえ側板、前板、コアキャビネットについている面ファスナーとしっかりかみ合うように押し込む。



注意

シール剤は打たない
点検・洗浄レバーの操作などで開けることがあります。

4 器具類の取り付け

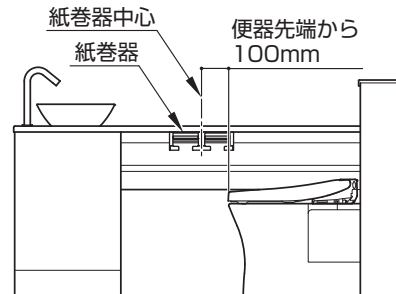
1 紙巻器

👉 「紙巻器」の部材を使用

紙巻器取り付け推奨位置

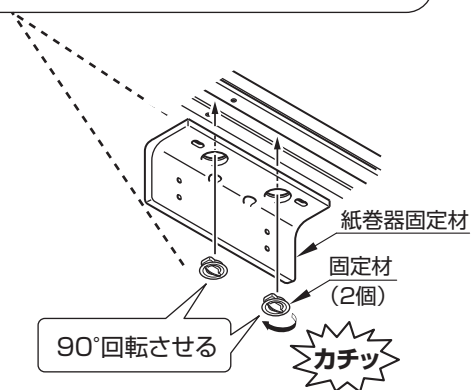
紙巻器の取り付けは、図の位置をおすすめします。

※カウンターの長さによっては、推奨位置に取り付かない場合があります。お客様の使いやすい位置に取り付けてください。



【メタル製紙巻器の場合】

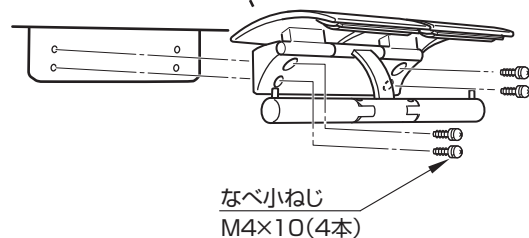
- ① 紙巻器固定材をカウンター裏面に押し当て、固定材を90°回転させ取り付ける



- ② 紙巻器本体を、同梱のねじで紙巻器固定材に取り付ける

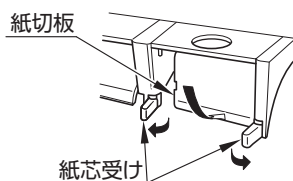
ポイント

ドライバーにて手締めすること



【樹脂製紙巻器の場合】

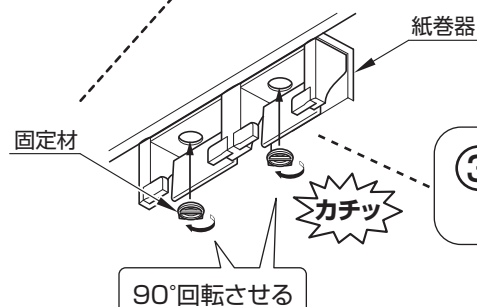
- ① 紙芯受けを外側に開き、紙切板を奥に倒す (紙切板は外さない)



- ② 紙巻器を設置部に押し当て、固定材を90°回転させ取り付ける

ポイント

固い場合は、当て布をしてペンチ等で回転させる



- ③ 紙切板を元に戻す

2 タオル掛け

「タオル掛け」の部材を使用

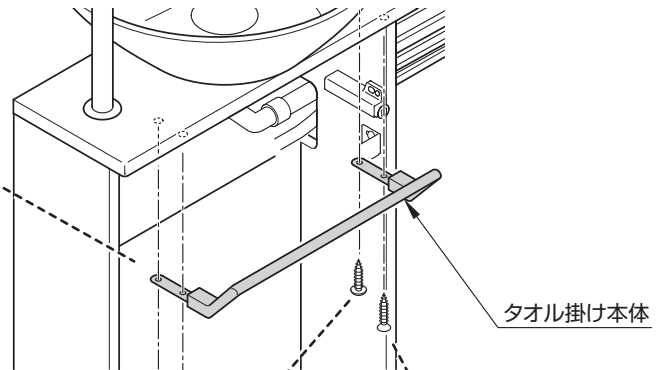
■手洗器下取り付けタイプ

【手洗器Mサイズの場合】

カウンター裏面の下穴に同梱のねじで固定する

ポイント

ドライバーにて手締めすること
ねじの取付位置を間違えると、扉に傷
がつきます。



奥側

トラスタッピンねじ
φ4×16(2本)

手前側

皿タッピンねじ
φ3×16(2本)

【手洗器Sサイズの場合】

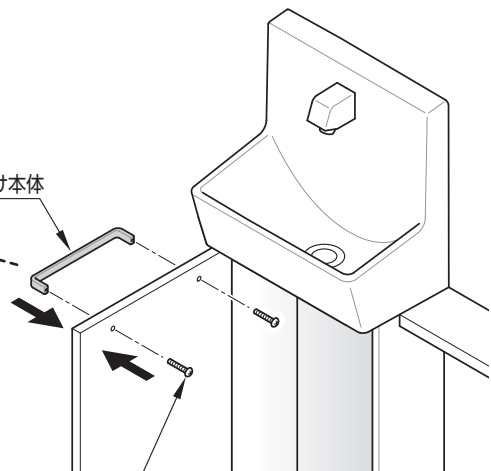
扉に下穴をあけタオル掛けを取付する

参照 詳しくは、専用の施工説明書を参照して
ください。

ポイント

ドライバーにて手締めすること

タオル掛け本体



トラス小ねじ
M4×25(2本)

■壁取り付けタイプ

参照 詳しくは、専用の施工説明書を参照してください。

3 リモコン

「ウォシュレット」の部材を使用

参照 詳しくは、ウォシュレットの施工説明書を参照してください。

5 部材の取り付け②

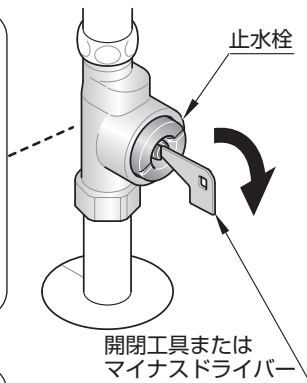
1 リモコンの作動確認

正常に便器洗浄するか確認する。詳しくは本書92ページを参照してください。

2 給水フィルターの清掃

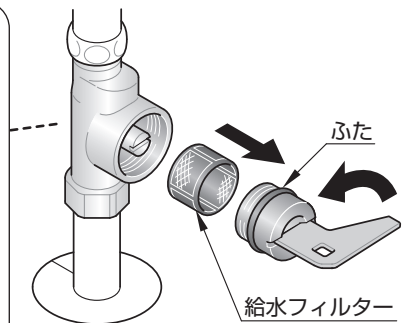
① 止水栓を閉める

※内側だけを回すこと



② ふたを開け、給水フィルターを取り外す

※外側だけを回すこと



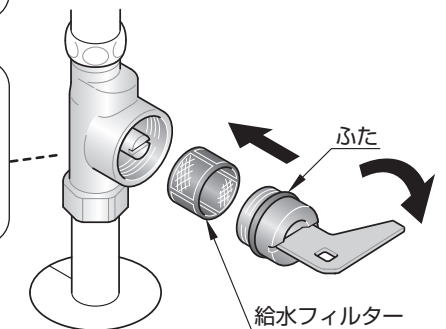
③ 給水フィルターの清掃を行う

ポイント

給水フィルターの清掃は必ず実施する



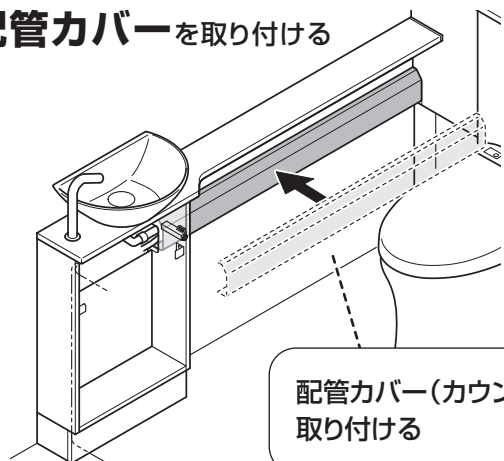
④ 給水フィルターを元の位置に取り付け、ふたを開閉工具で締め付ける



3 カバー類の取り付け

「手洗器カウンター部材、手洗器キャビネット」の部材を使用

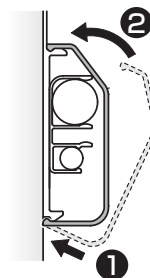
1 配管カバーを取り付ける



ポイント

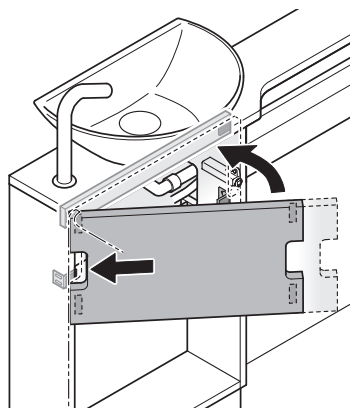
配管カバーをはめ込む

配管ブラケットに引っ掛けるように配管カバーをセットする



2 キャビネットカバーを取り付ける

【手洗器Mサイズ】



キャビネットカバーとキャビネットカバー固定材の面ファスナーをしっかりとり合わせる

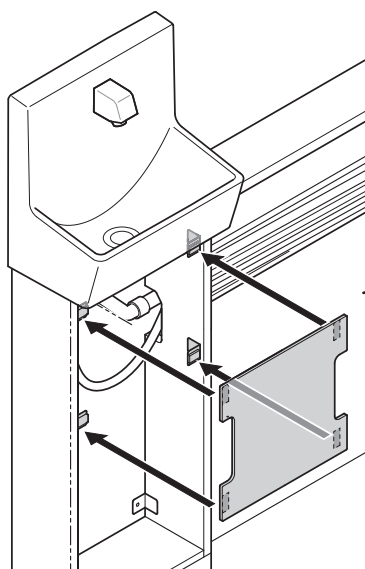
注意



取り付け時は強く押し込む
落下してけがの原因となります。

必ず守る

【手洗器Sサイズ】



キャビネットカバーとキャビネットカバー固定材の面ファスナーをしっかりとり合わせる

注意



取り付け時は強く押し込む
落下してけがの原因となります。

必ず守る

4 シリコン系シール剤の塗布

【手洗器 Mサイズ】

手洗器と壁・カウンターに接する面および手洗器とバックパネルの間にシリコン系シール剤(別途手配)を塗布します。

注意



必ずシリコン系シール剤を塗布すること

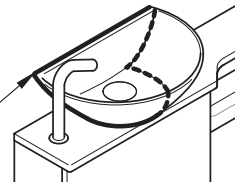
必ず守る

水が浸入し、カビの発生の原因となります。

シリコン系シール剤塗布位置

【Mサイズ】

防カビ性の透明シリコン系シール剤



※TOTOおすすめシリコン系シール剤(別途手配)
メジシール(クリア) : YG903S

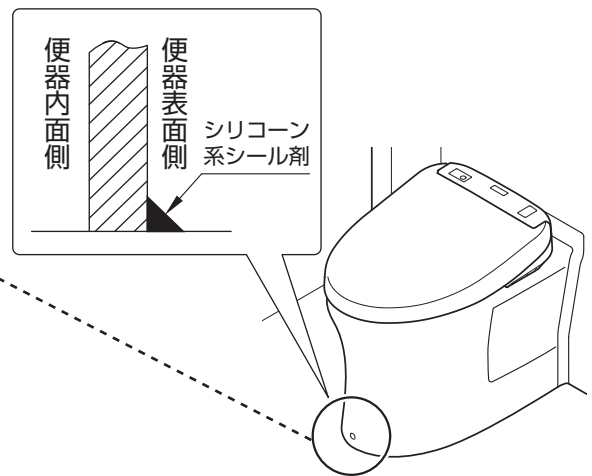
【大便器】

便器床接地部周囲に防カビ性の透明シリコン系シール剤を塗布する

水や小水の浸入を防止することをおすすめします。

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング(木質系)を使用すると、こぼれた小水や結露水等が便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。

フローリング(木質系)を使用される場合は、便器袴下部周囲に防カビ性の透明シリコン系シール剤を塗布することをおすすめします。



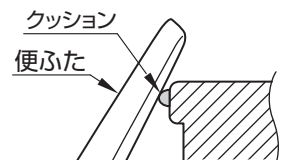
5 クッションの貼り付け

ウォシュレットに同梱されています。 

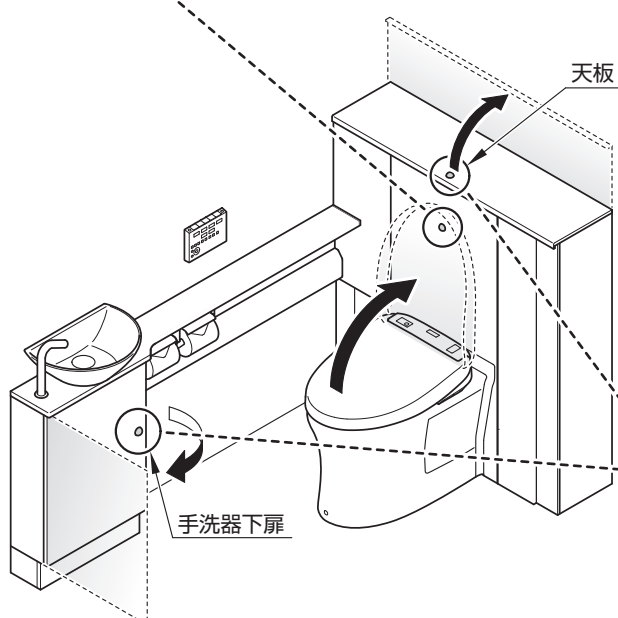
- ・まるごと収納タイプ：前板
- ・スリム収納タイプ：天板前面


ポイント

クッションに便ふたが当たることを確認する



貼付面は水拭きし、乾燥後貼り付ける



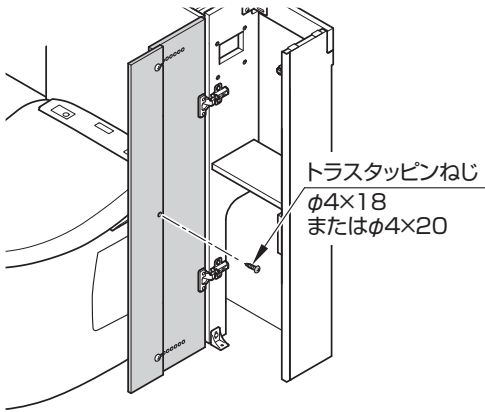
施工説明書に同梱されています。 

天板や扉を開けた時、壁と当たる場合は、付属のクッションを貼り付けてください。

※お使いにならない場合でも、取扱説明書と一緒にお客様に渡してください。

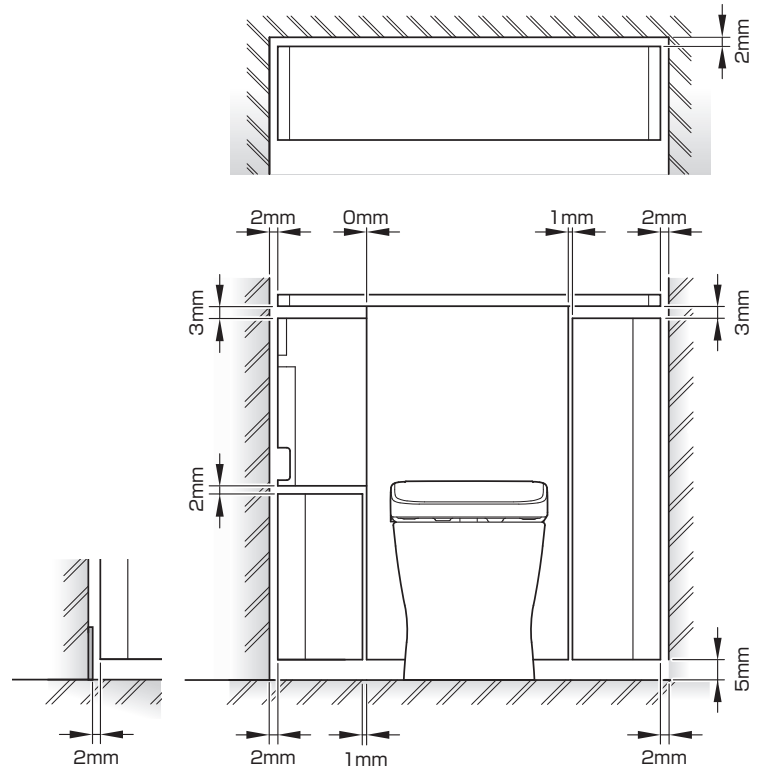
6 扉の本固定と調整

1 扉を本固定する



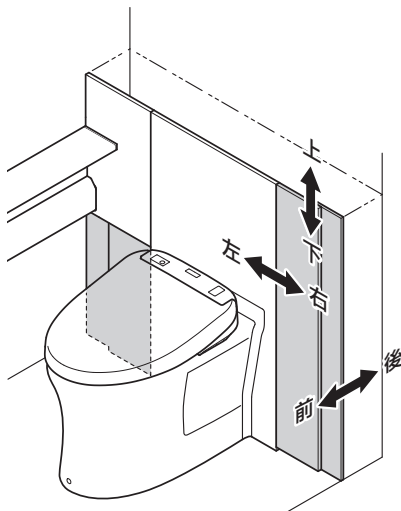
ポイント
ねじは手締めで行うこと

仕上げ状態 (目安)

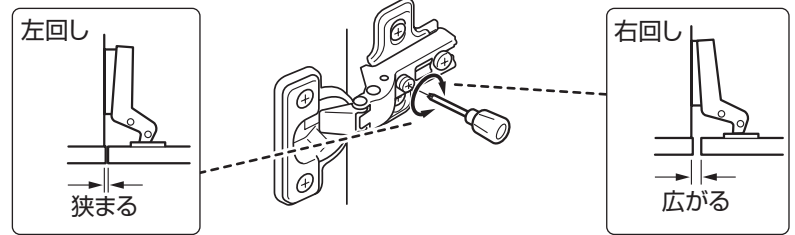


【幅木がある場合】

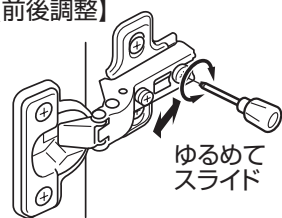
扉の調整方法



【左右調整】



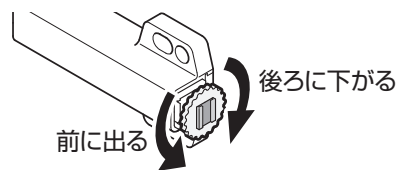
【前後調整】



【上下調整】



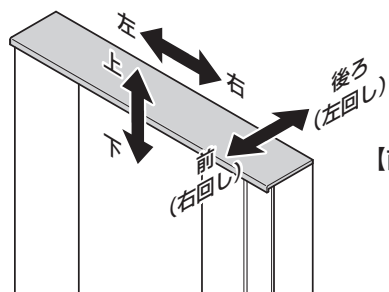
※プッシュラッチ部も前後調整することができます。



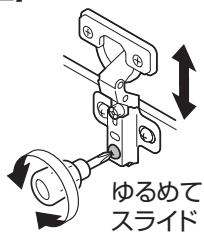
6 扉の本固定と調整 (つづき)

天板の調整方法

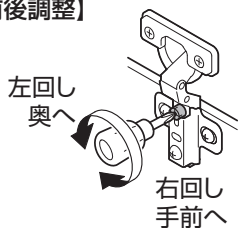
スライド丁番



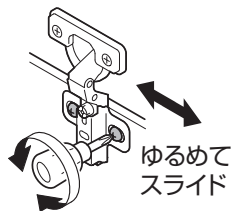
【上下調整】



【前後調整】

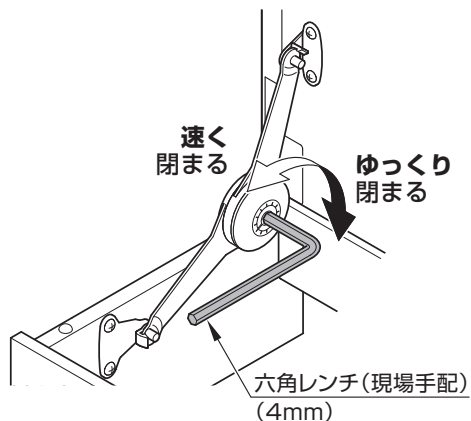


【左右調整】

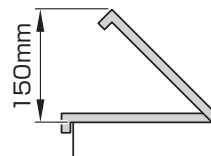


ねじを回しすぎると
ねじがきかなくなります

ダンパー



前板上端150mmの高さから自然に
閉じ始める固さに調整する



MEMO

工事店様へ

このたびはレストパルを施工いただき、ありがとうございました。

UGX1063Z3

